国際取引法研究（HHM08）

通年

Research on International Business Law

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	４． ０単位
担当教員	河野正英

授業の概要

国際取引を理解するには、経済活動に関する知識だけでは足りず、各国・各地域の政治的傾向やその国・地域の持つ社会的特質についても知っておく必要がある。この研究では世界全体に共通する事象と地域的な特色とを組み合わせて国際取引について理解を進めて行く。国際取引の枠組みに関係する国際的枠組みや資本市場に大きな影響のある政策について理解することで、国際取引の将来像も掴めるようになる。
（＊分野としては社会科学の分野の法学、政治、経済、経営に関連する科目である。）

到達目標

1. 国際取引の原理を理解し、説明出来る。
2. 世界経済・社会の現状について理解し、説明出来る。
3. アジア地域（東アジア・東南アジア・南アジア）の現状について理解し、説明出来る。
4. 日本の経済だけでなく社会的・文化的特質を理解し、説明出来る。
5. 企業経営について理解し、説明出来る。
6. 金融と実体経済の兼ね合いについて理解し、説明出来る。
7. イノベーションについて理解し、説明出来る。

評価方法

授業の予習・復習の態度：評価割合30%（各小テーマ毎に到達目標を確認）
授業時間内の応答：評価割合30%（各小テーマ毎に到達目標を確認）
まとめレポート（計２回）：評価割合40%（到達目標1~7を確認）
＊合格基準は60点。

注意事項

国際取引法研究を主にして国際取引法演習を補完科目として考えているので、必ず両方の科目を併せて履修するように。

授業計画

第１回 大学院での研究と演習の進め方について説明する。第１回目として国際取引の特徴全般について説明し、次回以降の大枠のテーマと各回毎の小テーマについて説明する。
第２回 日本経済・社会の現状と今後の課題について研究する。この大枠のテーマについての研究は第11回までを予定しており、今回の小テーマとしては戦後の経済秩序について概観する。
第３回 日本経済・社会の現状と今後の課題の２回目。今回の小テーマとしては日本経済の特徴について検討する。
第４回 日本経済・社会の現状と今後の課題の３回目。今回の小テーマとしては戦前の財閥と戦後の日本企業のグループ化について検討する。
第５回 日本経済・社会の現状と今後の課題の４回目。今回の小テーマとしては日本の労働市場について検討する。
第６回 日本経済・社会の現状と今後の課題の５回目。今回の小テーマとしては日本の経営理念について検討する。
第７回 日本経済・社会の現状と今後の課題の６回目。今回の小テーマとしては金融市場の変遷と証券会社・銀行の業務内容の違いについて検討する。
第８回 日本経済・社会の現状と今後の課題の７回目。今回の小テーマとしては日本政府の負債と保有資産について検討する。
第９回 日本経済・社会の現状と今後の課題の８回目。今回の小テーマとしては日本企業のキャッシュ・フローについて検討する。
第10回 日本経済・社会の現状と今後の課題の９回目。今回の小テーマとしては日本国内における個人保有の資産について検討する。
第11回 日本経済・社会の現状と今後の課題の10回目。今回の小テーマとしては政府のあり方・経済政策・福祉政策について検討する。
第12回 世界経済全般についての課題を研究する。この大枠のテーマについての研究は第21回までを予定しており、今回の小テーマとしては2008年リーマンショック以後の財政と税の問題について検討する。
第13回 世界経済全般についての課題の２回目。今回の小テーマとしては金融と直接投資について検討する。
第14回 世界経済全般についての課題の３回目。今回の小テーマとしては資本移動と多国籍企業の活躍、労働市場の流動化について検討する。
第15回 世界経済全般についての課題の４回目。今回の小テーマとしてはGDP・市場規模と国民生活について検討する。
第16回 世界経済全般についての課題の５回目。今回の小テーマとしては通貨と貿易、ベーシックインカム論について検討する。
第17回 世界経済全般についての課題の６回目。今回の小テーマとしては経済成長と金価格、不動産価格との相関について検討する。
第18回 世界経済全般についての課題の７回目。今回の小テーマとしては国家資本主義と私有財産制について検討する。
第19回 世界経済全般についての課題の８回目。今回の小テーマとしては資本主義の長短と民主主義システムとの兼ね合いについて検討する。
第20回 世界経済全般についての課題の９回目。今回の小テーマとしては金融危機と経済危機との相関について検討する。

第21回 世界経済全般についての課題の10回目。今回の小テーマとしてはイノベーションによる既存の国家体制への揺さぶりについて検討する。
第22回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題を研究する。この大枠のテーマについての研究は第28回までを予定しており、今回の小テーマとしては各地域の安全保障体制と経済の特徴、人口問題について検討する。
第23回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の２回目。今回の小テーマとしては朝鮮半島情勢の推移と中国の地域覇権国化について検討する。
第24回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の３回目。今回の小テーマとしては人口増大と投資活動の活発化について検討する。
第25回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の４回目。今回の小テーマとしては環境問題（地球温暖化）と経済成長、CO2回収技術の向上について検討する。
第26回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の５回目。今回の小テーマとしては日本企業の持つ素材技術、省エネ技術が東アジアの発展の問題点を解決するヒントとなる点を検討する。
第27回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の６回目。今回の小テーマとしては増大する人口とインフラ投資について検討する。
第28回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の７回目。今回の小テーマとしてはアジアの歴史と文化について知り、これと日本の歴史との関わり合いについて検討する。
第29回 国際経済全般の将来像についての予測が出来るかどうかを２回に分けて検討したい。まず世界人口の推移、各国GDPの推移、地域覇権国の入れ替わり、政治システムの変化、農業へのバイオテクノロジーの導入、生産性革命、エネルギー革命などについて検討する。
第30回 国際経済全般の将来像についての予測が出来るかどうかの検討の続き。今回のテーマとしてはAI化と自動化、農業の工業化・自動化と生産性の向上、自動化と社会システムの変化、既存の政治システムの行き詰まり、社会の中における人間関係の変化、家族観の変化、労働に対する価値観の変化などを検討する。

授業外学習

第１回 大学院での研究と演習の進め方について説明があるので、今後の予習・復習の進め方と学習時間についてよく計画すること。（標準学習時間120分）
第２回 予習：日本経済・社会の現状について各自で調査し、考える力を身につけるようにする。復習：戦後の経済秩序について概観したので、ノートによく整理し、場合によっては図解して自分の言葉で説明出来るようになること。（標準学習時間120分）
第３回 予習：日本経済の特徴について調べておき、予め一定の知識を持つように努める。復習：特に労使関係や技術開発投資の歴史について整理しておくこと。（標準学習時間120分）
第４回 予習：戦前の財閥と戦後の日本企業のグループについて調べておく。復習：現在の企業グループは流動化していることを理解し、新興企業の勃興と躍進が経済を活性化させることを理解するようになる。（標準学習時間120分）
第５回 予習：アベノミクス前後で雇用者数/失業率がどのように変化したかを予習して調べておく。復習：金融政策と労働市場が高い相関関係にあることを理解し、マスメディアの報道がなぜその逆であったかの理由をよく考える。（標準学習時間120分）
第６回 予習：日本の経営者と欧米の経営者の考え方の違いがどこから来るかを予め考えておく。復習：日本の経営者の経営理念について理解し、今後の企業経営がどうあるべきかを具体的に予測出来るようになる。（標準学習時間120分）
第７回 予習：日本では個人資産のほとんどが不動産と銀行預金であった理由を自分なりに考えておく。復習：金融市場の変遷と証券会社・銀行の業務内容の違いについて理解し、個人の資産形成にとって有利な方法を予測出来るようになる。（標準学習時間120分）
第８回 予習：マスコミ報道の内容が実際と異なることを自分で調べ、予備知識として持っておくようにする。復習：日本政府の負債と保有資産について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第９回 予習：特に90年代以降に日本企業がキャッシュ・フローを重視する経営に切り替えてきたことを調べておくようにする。復習：日本企業の持つキャッシュ・フローの大きさについて理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第10回 予習：90年代以降にマスメディアでは盛んに日本社会の分断や格差社会というテーマを扱ってきたが、現状はどうなっているのかを調べておくようにする。復習：日本国内における個人保有の資産について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第11回 予習：資本主義においては民間の企業活動に対する政府の役割は小さいはずであるが、戦後の日本社会においては政府の力が大きかったことを調べておくようにする。復習：政府のあり方・経済政策・福祉政策について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第12回 予習：世界経済全般について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：リーマンショック以後の財政と税の問題について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第13回 予習：金融と実体経済との関係について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：金融と直接投資について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第14回 予習：多国籍企業とは何かから始まって、現在の世界経済の実態を自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：資本移動と多国籍企業の活躍、労働市場の流動化について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第15回 予習：60年代〜80年代〜2000年代と日本のGDPがどのように変化してきたかを自分でグラフ化してみるようにする。復習：GDP・市場規模と国民生活について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第16回 予習：究極の福祉政策とも呼ばれるベーシックインカム論について、予備知識を持っておくようにする。復習：通貨と貿易、ベーシックインカム論について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第17回 予習：急速にキャッシュレス化に向かっているおカネの世界において、おカネとは何か、資産とは何かを予め考えておくようにする。復習：経済成長と金価格、不動産価格との相関について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第18回 予習：90年代以降には民主制を否定ないしは無視する国家資本主義が一定の成功を収めた。その理由について自分で調べ、自分なりの考えを持っておくようにする。復習：国家資本主義と私有財産制について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第19回 予習：20世紀は資本主義と社会主義との闘いであったが、21世紀にはネット社会の急激な進展に伴い、資本主義やこれを支える民主主義自体への信頼が揺らぐようになった。現状について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：資本主義の長短と民主主義システムとの兼ね合いについ

て理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第20回 予習：金融危機と経済危機について調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：金融危機と経済危機との相関について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第21回 予習：産業革命が経済だけでなく社会システムそのものの変化を促すことが知られている。過去に起きた産業革命について調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：イノベーションによる既存の国家体制への揺さぶりについて理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第22回 予習：東アジアの政治と経済、東南アジアの政治・経済・文化、南アジアの政治・経済・文化について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：各地域の安全保障体制と経済の特徴、人口問題について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第23回 予習：朝鮮半島の歴史と現状について、および中国の文化と日本との差異について自分で調べ、一定の予備知識を持っておくようにする。復習：朝鮮半島情勢の推移と中国の地域覇権国化について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第24回 予習：アジア地域（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域）について自分で調べ、経済活動の現状について予備知識を持っておくようにする。復習：アジア地域における人口増大と投資活動の活発化について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第25回 予習：アジア地域（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域）における環境汚染および温暖化ガス排出の問題について自分で調べ、予め一定の知識を持っておくようにする。復習：公害問題・地球温暖化と経済成長、新技術としてのCO2回収技術の進展について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第26回 予習：日本企業の持つ技術的特色としての省エネ技術について調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：日本企業の持つ素材技術、省エネ技術について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第27回 予習：21世紀がアジアの時代だと言われる理由について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：増大する人口とインフラ投資について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第28回 予習：日本の特色（特に社会・経済・文化）について調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：アジアの歴史と文化、これとの日本の歴史との関わり合いについて理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第29回 予習：第４次産業革命とも呼ばれるイノベーションの時代における諸問題について予備知識を持っておくようにする。復習：世界人口の推移、各国GDPの推移、地域覇権国の入れ替わり、政治システムの変化、農業へのバイオテクノロジーの導入、生産性革命、エネルギー革命など、あらゆる分野で変化が起きることを理解し、自分なりの考えを図式化して次回に備える。（標準学習時間120分）
第30回 予習：イノベーションの時代における諸問題について引き続き検討するので、前回の検討内容よりもさらに詳しく予備知識を高めるようにする。復習：AI化や自動化が進むことで結果的に社会システムそのものが変化し、人の価値観そのものが変化することになることを理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）

教科書
授業内で指示する。

参考書
授業内で指示する。

備考
特になし。

国際取引法演習（HHM09）

通年

Seminar in International Business Law

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	２．０単位
担当教員	河野正英

授業の概要

国際取引法演習は国際取引法研究で学んだ知識をさらに深めるための科目として位置付ける。国際取引法研究では国際取引を政治、社会、経済、文化などの様々な面から切り取り、資本市場や貿易、多国籍企業の活動などの特徴を理解するように努める。この演習は研究に並行して開講するので、研究で学んだことを主にディーベートを通じてブラッシュアップする。したがって、予習・復習はもちろんのこと、日々生じる時事問題に敏感になり、常に自分の考えを自分の言葉でまとめて発言出来るように心がける必要がある。この演習を通じて自分の考えを論理的に表現する力がつくはずである。
（＊分野としては社会科学の分野の法学、政治、経済、経営に関連する科目である。）

到達目標

1. 国際取引の原理を理解し、説明出来る。
2. 世界経済・社会の現状について理解し、説明出来る。
3. アジア地域（東アジア・東南アジア・南アジア）の現状について理解し、説明出来る。
4. 日本の経済だけでなく社会的・文化的特質を理解し、説明出来る。
5. 企業経営について理解し、説明出来る。
6. 金融と実体経済の兼ね合いについて理解し、説明出来る。
7. イノベーションについて理解し、説明出来る。

評価方法

授業の予習・復習の態度：評価割合30%（各小テーマ毎に到達目標を確認）
授業時間内での教員との質疑応答（毎回）：評価割合35%（各小テーマ毎に到達目標を確認）
授業時間内のディベート（毎回）：評価割合35%（各小テーマ毎に到達目標を確認）
＊合格基準は60点。

注意事項

国際取引法研究の補完科目として考えているので、必ず両方の科目を併せて履修するように。

授業計画

第１回 大学院での研究と演習の進め方について説明する。第１回目として国際取引の特徴全般について説明し、次回以降の大枠のテーマと各回毎の小テーマについて説明する。
第２回 大枠のテーマおよび小テーマは研究（国際取引法研究）に準ずる。研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：戦後の経済秩序なので、これについての質問やディベートを行う。
第３回 研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：日本経済の特徴なので、これについての質問やディベートを行う。
第４回 研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：戦前の財閥と戦後の日本企業のグループ化なので、これについての質問やディベートを行う。
第５回 研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：日本の労働市場なので、これについての質問やディベートを行う。
第６回 研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：日本の経営理念なので、これについての質問やディベートを行う。
第７回 研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：金融市場の変遷と証券会社・銀行の業務内容の違いなので、これについての質問やディベートを行う。
第８回 研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：日本政府の負債と保有資産なので、これについての質問やディベートを行う。
第９回 研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：日本企業のキャッシュ・フローなので、これについての質問やディベートを行う。
第10回 研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：日本国内における個人保有の資産なので、これについての質問やディベートを行う。
第11回 研究の大枠のテーマ：日本経済・社会の現状と今後の課題、小テーマ：政府のあり方・経済政策・福祉政策なので、これについての質問やディベートを行う。
第12回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：2008年リーマンショック以後の財政と税の問題なので、これについての質問やディベートを行う。
第13回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：金融と直接投資なので、これについての質問やディベートを行う。

第14回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：資本移動と多国籍企業の活躍、労働市場の流動化なので、これについての質問やディベートを行う。
第15回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：GDP・市場規模と国民生活なので、これについての質問やディベートを行う。
第16回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：通貨と貿易、ベーシックインカム論なので、これについての質問やディベートを行う。
第17回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：経済成長と金価格、不動産価格との相関なので、これについての質問やディベートを行う。
第18回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：国家資本主義と私有財産制なので、これについての質問やディベートを行う。
第19回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：資本主義の長短と民主主義システムとの兼ね合いなので、これについての質問やディベートを行う。
第20回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：金融危機と経済危機との相関なので、これについての質問やディベートを行う。
第21回 研究の大枠のテーマ：世界経済全般についての課題、小テーマ：イノベーションによる既存の国家体制への揺さぶりなので、これについての質問やディベートを行う。
第22回 研究の大枠のテーマ：アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題、小テーマ：各地域の安全保障体制と経済の特徴、人口問題なので、これについての質問やディベートを行う。
第23回 研究の大枠のテーマ：アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題、小テーマ：朝鮮半島情勢の推移と中国の地域覇権国化なので、これについての質問やディベートを行う。
第24回 研究の大枠のテーマ：アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題、小テーマ：人口増大と投資活動の活発化なので、これについての質問やディベートを行う。
第25回 研究の大枠のテーマ：アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題、小テーマ：環境問題（地球温暖化）と経済成長、CO2回収技術の向上なので、これについての質問やディベートを行う。
第26回 研究の大枠のテーマ：アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題、小テーマ：日本企業の持つ素材技術、省エネ技術が東アジアの発展の問題点を解決するヒントとなる点なので、これについての質問やディベートを行う。
第27回 研究の大枠のテーマ：アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題、小テーマ：増大する人口とインフラ投資なので、これについての質問やディベートを行う。
第28回 研究の大枠のテーマ：アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題、小テーマ：アジアの歴史と文化について知り、これと日本の歴史との関わり合いについての検討なので、これについての質問やディベートを行う。
第29回 研究の大枠のテーマ：国際経済全般の将来像についての予測が出来るかどうかであり、小テーマ：世界人口の推移、各国GDPの推移、地域覇権国の入れ替わり、政治システムの変化、農業へのバイオテクノロジーの導入、生産性革命、エネルギー革命なので、これについてディベートを行う。
第30回 研究の大枠のテーマ：国際経済全般の将来像についての予測が出来るかどうかであり、小テーマ：AI化と自動化、農業の工業化・自動化と生産性の向上、自動化と社会システムの変化、既存の政治システムの行き詰まり、社会の中における人間関係の変化、家族観の変化、労働に対する価値観の変化なので、これについてディベートを行う。

授業外学習

通年で２単位の演習科目なので、予習・復習は必要ないが、授業方法がディベートを中心とするので、普段から国際問題や国内の時事問題に対する感度を高め、諸問題に対する自分の視点を持つよう努力する必要がある。

教科書

授業内で指示する。

参考書

授業内で指示する。

備考

特になし。

健康運動科学の研究（HHM15）

通年

Research on the health and exercise physiology

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	４．０単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

本講義は、生涯を通じて健康に生活するための知識を身につけ、科学的興味をもって理解を深化することを目的とする。特に運動を中心とした生活習慣が健康にどのように寄与するかを理解する。健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。
【アクティブラーニング】ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。
【フィードバック】レポートやプレゼンテーションに対してフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

健康に関して幅広い知識を身につけ、相手に伝えることができる。

評価方法

評価は、課題レポート（５０％）、調査発表（３０％）、創造性と構成力（２０％）によって総合的に判定する。
上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

レポートは、個々に課題レポートを提示する。
調査発表は、課題レポート作成に関する内容で定期的に口頭発表を行う。

授業計画

1週目：オリエンテーション（講義概要、授業計画及び方法他）
2週目：健康とは
3週目：健康生活の条件
4週目：骨格筋の構造と機能（I）
5週目：骨格筋の構造と機能（II）
6週目：神経系による運動の調整（I）
7週目：神経系による運動の調整（II）（課題レポートＩ提示）
8週目：運動時のホルモン分泌
9週目：運動時のエネルギー代謝（I）
10週目：運動時のエネルギー代謝（II）
11週目：運動時の呼吸循環（I）
12週目：運動時の呼吸循環（II）
13週目：運動による筋の肥大と損傷（課題レポートII提示）
14週目：口頭発表会
15週目：まとめ
16週目：高強度運動時のエネルギー代謝（I）
17週目：高強度運動時のエネルギー代謝（II）
18週目：運動と環境
19週目：運動時の水分・栄養摂取
20週目：運動と骨代謝　（枝松）
21週目：健康と運動の関係（課題レポートIII提示）
22週目：運動と発育発達
23週目：加齢と運動
24週目：加齢と姿勢制御（課題レポート IV提示）
25週目：口頭発表会
26週目：運動と生活習慣病（I）
27週目：運動と生活習慣病（II）
28週目：運動処方（課題レポートV提示）
29週目：口頭発表会

30週目：まとめ（後期及び総合的）

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間（予習、復習及び文献検索、レポート作成、測定実験）

本講義は、人体の仕組みと機能、また運動に対する生体反応について解説するため、運動生理学的な文献検索と理解、さらには講義時間外の測定実験により専門的な知識の向上に努める。

教科書

使用しない。

参考書

勝田茂「運動生理学20講」（朝倉書店）

備考

運動処方の研究（HHM17）

通年

Research on exercise prescription

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	４．０単位
担当教員	猪木原孝二

授業の概要

運動処方の実際について教授する。特に年齢・性差の違いによる注意事項について解説し、対象者に応じた運動処方（トレーニング、運動の種類）、メディカルチェック等の判断について理解を深める。

到達目標

個人・年齢・性差における運動処方の実際について把握する力を身につける。

評価方法

授業に取り組む姿勢（２０％）およびレポート（８０％）で評価する。

注意事項

特になし

授業計画

１．オリエンテーション
２．運動処方とは
３．身体計測・体力診断の方法１
４．身体計測・体力診断の方法 ２
５．メディカルチェックの必要性について１
６．メディカルチェックの必要性について２
７．性差における運動処方について１
８．性差における運動処方について ２
９．性差における運動処方について３
１０．性差における運動処方について４
１１．個人にあった運動強度について１
１２．個人にあった運動強度について２
１３．個人にあった運動頻度について３
１４．個人にあった運動強度について４
１５．個人にあった運動時間について５
１６．個人にあった運動強度について６
１７．年齢と運動処方１
１８．年齢と運動処方 ２
１９．年齢と運動処方３
２０．年齢と運動処方４
２１．運動種目の選択について１
２２．運動種目の選択について２
２３．安全対策について１
２４．安全対策について２
２５．コンディショニングについて１
２６．コンディショニングについて２
２７．課題レポートの指導１
２８．課題レポートの指導２
２９．課題レポートの指導３
３０．課題レポートの提出

授業外学習

授業外学習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない

備考

生活習慣病予防の研究（HHM20）

通年

Research on lifestyle-related diseases prevention

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	４．０単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

生活習慣病の概念、成因、発症機序、症状、治療法について理解する。さらに危険因子の関連機序を検討し、生活習慣病の発症予防、進行抑制の可能性について理解を深め、研究方法などを学ぶことを目的とする。

到達目標

生活習慣病に関して幅広い知識を身につけ他者に詳しく説明できる。

評価方法

発表７０％、討論参加３０％として総合評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	成人病から生活習慣病への変遷
第3回	生活習慣病の実態１　虚血性心疾患
第4回	生活習慣病の実態２　脳卒中
第5回	生活習慣病の実態３　がん
第6回	生活習慣病の実態４　糖尿病
第7回	生活習慣と危険因子１　高脂血症
第8回	生活習慣と危険因子２　高血圧
第9回	生活習慣と危険因子３　喫煙
第10回	生活習慣と危険因子４　動脈硬化
第11回	生活習慣と危険因子５　糖尿病の血管障害
第12回	生活習慣と危険因子６　肥満と循環器合併症
第13回	Multiple risk factors
第14回	高血圧と生活習慣１
第15回	高血圧と生活習慣２　食塩
第16回	高血圧と生活習慣３　肥満
第17回	高血圧と生活習慣４　運動
第18回	高血圧と生活習慣５　アルコール
第19回	高血圧と生活習慣６　ストレス
第20回	高血圧と生活習慣７　電解質
第21回	動脈硬化と生活習慣１　食事
第22回	動脈硬化と生活習慣２　肥満

回数	内容
第23回	動脈硬化と生活習慣３　運動
第24回	動脈硬化と生活習慣４　タバコ
第25回	糖尿病と生活習慣１　インスリン抵抗性
第26回	糖尿病と生活習慣２　血管合併症
第27回	糖尿病と生活習慣３　非薬物療法
第28回	糖尿病と生活習慣４　患者教育
第29回	今後の展望
第30回	総括質疑

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

毎回討論のための予備学習をしておくこと。最新の英語論文を国際ジャーナルから自ら検索、入手し読解、吟味しておく。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

備考

健康と食生活の研究（HHM22）

通年

Research on Health and Eating habits

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	４．０単位
担当教員	矢田貝智恵子

授業の概要

運動と休養とともに健康の概念を考える上でなくてはならない食事の重要性について、食環境・食形態・疾病構造・保健医療福祉制度の変化といった「食」を取り巻く諸問題とともに理解する。その上で、食生活や生活習慣がもたらす健康との関連などを学ぶ。
健康分野の高度な専門知識を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1 健康と食生活と食の意義について理解し、説明できる。
2 「食」を取り巻く諸問題を自らの問題としてとらえ、自分に合った食生活や生活習慣を実践することができる。

評価方法

レポート70%（到達目標1、2）、プレゼンテーションおよび口頭試問30%（到達目標1）に基づき総合的に評価する。

注意事項

栄養学の基礎知識が必要。

授業計画

回数	内容
第1回	講義の概要
第2回	環境と食生活１　農と食
第3回	環境と食生活２　健康と食
第4回	環境と食生活３　生活習慣と食
第5回	環境と食生活１～２に関わる文献検索および購読
第6回	環境と食生活３に関わる文献検索および購読
第7回	レポート提出：環境と食生活
第8回	健康と環境１　栄養素と健康
第9回	健康と環境２　ライフステージ
第10回	健康と環境３　長寿社会
第11回	健康と環境４　運動栄養
第12回	健康と環境５　スポーツ栄養
第13回	健康と環境６　サプリメント
第14回	健康と環境１～２に関わる文献検索および購読
第15回	健康と環境３～４に関わる文献検索および購読
第16回	健康と環境５～６に関わる文献検索および購読
第17回	レポート提出：健康と環境
第18回	国民の健康と国の政策
第19回	疾患と食品の機能性１　高血圧
第20回	疾患と食品の機能性２　免疫・アレルギー

回数	内容
第21回	疾患と食品の機能性３　糖尿病
第22回	疾患と食品の機能性４　循環器疾患
第23回	疾患と食品の機能性５　骨粗鬆症
第24回	疾患と食品の機能性６　肥満
第25回	疾患と食品の機能性１～２に関わる文献検索および購読
第26回	疾患と食品の機能性３～４に関わる文献検索および購読
第27回	疾患と食品の機能性５～６に関わる文献検索および購読
第28回	レポート提出：疾患と食品の機能性
第29回	食習慣の展望
第30回	プレゼンテーションおよび口頭試問

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、課題レポート作成に取り組む。

教科書

「食品機能学への招待－生活習慣病予防と機能性食品－」・須見洋行、矢田貝智恵子・三共出版・ISBN978-4-7827-0685-5

参考書

適宜紹介する。

備考

環境と健康生活の研究（HHM24）

通年

Research on Environmental Health

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	４． ０単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

人間と動物の健康生活は、自然環境(空気、水、土壌等)や生活環境(水道、生活汚水、ごみ、人 間と動物の食生活等)と大きく関わっている。すなわち、健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し、人間と動物の両方に関する健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識を修得する。とくに重視する事項は健康事象の疫学的理解・人間と環境の相互作用の理解ならびに人間と動物が共生する衣食住の重要性の理解である。
【フィードバック】小テスト等の課題に対する講評を行う。
【ＩＣＴを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

到達目標

1. 人と動物の健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し説明できるようになる。
2. 個人および地域の人々の健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識および技術を修得する。

評価方法

小項目ごとにその内容を提出させるとともに、大項目ごとに課題を与え理解度をチェックする。そして、提出物の配点40%（達成目標1, 2を評価）、理解度チェックのための試験を含めた諸課題60%（達成目標1, 2を評価）を基に最終評価を行う。

注意事項

・公衆衛生学は極めて包括的、学際的かつ集学的な学問体系であるため、関連した諸科学の学習が重要である。
・公衆衛生学には医学・医療の社会的適用という側面があるため、日頃から総合性、社会性、現実性、即時性を養うよう心がけること。

授業計画

1 週目:オリエンテーション
2 週目:公衆衛生学序論 疾病予防の考え方 3 週目:疫学とは
4 週目:健康/疾病の成り立ちの疫学的理解 5 週目:疾病量の把握
6 週目:疫学の方法(1)記述疫学
7 週目:疫学の方法(2)分析疫学
8 週目:人間の環境
9 週目:環境の把握とその評価
10 週目:空気の衛生と大気汚染(1) 汚染の実態
11 週目:空気の衛生と大気汚染(2) 汚染対策
12 週目:水の衛生と水質汚濁(1) 上水道
13 週目:水の衛生と水質汚濁(2) 下水道とその他
14 週目:衣食住の衛生
15 週目:廃棄物と環境汚染
16 週目:公害と地球環境問題
17 週目:企業の安全衛生のしくみ(1) ISO
18 週目:企業の安全衛生のしくみ(2) HACCP
19 週目:人と動物を取り巻く環境問題(1) 畜産動物における諸問題
20 週目:人と動物を取り巻く環境問題(2) 野生動物における諸問題
21 週目:人と動物を取り巻く環境問題(3) 伴侶動物における諸問題
22 週目:人における喫煙行動の影響(1) 能動喫煙による影響
23 週目:人における喫煙行動の影響(2) 受動喫煙による影響
24 週目:動物における受動喫煙の影響(1) 能動喫煙による影響
25 週目:動物における受動喫煙の影響(2) 受動喫煙による影響
26 週目:動物用フードに関する諸問題(1) 海外における諸問題
27 週目:動物用フードに関する諸問題(2) 国内における諸問題
28 週目:動物用トリーツに関する諸問題(1) 海外における諸問題
29 週目:動物用トリーツに関する諸問題(2) 国内における諸問題
30 週目:まとめ

授業外学習

学習時間の目安：120時間

予習： 教科書の該当ページを読んで概略を掴む。

復習：過去の文献を探し、読むことで学びの内容を深めるようにすること。

教科書

職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営 | 泉 博之ら監修 | メディックメディア社 | ISBN978-4-89632-782-3

公衆衛生がみえる 2018-2019 | 石川 雅俊ら監修 | メディックメディア社 | ISBN978-4-89632-687-1

参考書

環境白書2019（環境省），国民衛生の動向2019/2020（厚生労働統計協会）

備考

特になし

特別研究（HHM52）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	６． ０単位
担当教員	河野正英

授業の概要

資本主義や市場経済の特徴を理解し、現代社会に対する将来展望を持てるようにしたい。

到達目標

1. 世界経済の現状、日本経済の現状について知る。
2. 時事問題に対して知識を持ち、自分の言葉で説明出来る。
3. 各自設定したテーマに基づき修士論文を完成させる。

評価方法

資料検索の範囲（20%）＋資料分析の深度（30%）＋全体的な論文の仕上がり（50%）により評価する。（到達目標1~3を確認）

注意事項

特になし。

授業計画

第1回~第3回： 論文作成の基礎知識
第4回~第10回：資料検索の方法
第11回~第15回：資料分析の方法
第16回~第25回：文章作成と論旨の徹底化
第26回~第29回：論文としての完成度を高める方法
第30回：修士論文の完成と発表

授業外学習

受講者が決まればその都度指導する。
読むべき資料は授業内で指示する。
予習と復習が必要。
普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

特になし。

特別研究（HHM53）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	６．０単位
担当教員	大川元久

授業の概要

本講座は医学教育や研究に携わる者としての基本的な考え方や方法論をもとに研究を実践されるものである。その特徴は救急・災害医療を病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していくものである。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究において研究を含む『教える技術』について理解と実践にその習得に重きを置く。すなわち『教えることを学ぶ』ことである。ついで、医療教育システムのインストラクショナルデザインについて学び応用出来るようにする。講義はeラーニングなどを活用し、各個人が持つ能力を最大限に引き出し社会に貢献できる人材を養成する。講義の前提は多くの人の尊い命のことを考えた生命倫理に基づくことであることをしっかり認識しておいて下さい。

到達目標

1.救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動ができる。
2.学術的プレゼンテーションができる。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%；到達目標 １)、レポート(20%到；到達目標 １, ２)、口頭試問(20%；到達目標２)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きをおいて評価する。

授業計画

第 1回 救急医学と災害医学および 外傷学について
第 2回 総論1 医療教授法 とは
第 3回 総論2 BLS、ALS、ISLS、JJATEC etc.
第 4回 総論3臨床研究と発表 (レポート提出)
第 5回 口頭試問（総論学習内容の確認)
第 6回 １．スライドの文字と文 と 箇条書きの問題点
第 7回 ２．スライドのデザイン, 写真と図表
第 8回 ３．アニメーション効果
第 9回 ４．演習：スライド修正
第10回 ５．論理的に考える
第11回 ６．研究計画：合格のためのポイント
第12回 ７．研究目的：疑問点の設定、仮説
第13回 8．研究デザイン（レポート提出2000字以上)
第14回 ９．症例報告（ケースレポート）と症例集積
第15回 これまでの学習内容の小括（口頭試問)
第16回 10．コホート研究と横断研究
第17回 11．後ろ向きコホート研究
第18回 12．介入研究と観察研究
第19回 13．エビデンス
第20回 14．統計学
第21回 15．発表の基本(レポート提出)
第22回 発表形式を学ぶ（口頭試問を含む)
第23回 16．原稿の棒読み対策
第24回 17．研究背景と目的および対象と方法を明確に
第25回 18．結果：アウトカム：何を観察・測定・計測したか
第26回 19．考察：結果の解釈
第27回 20．結論と抄録の書き方
第28回 総括(レポート提出)
第29回 今後の展望（研究発表）

第30回 各自の研究の展望を考察する(修了試験を含む)

授業外学習

授業外学習

救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JNTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。

全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

上手な教え方の教科書 〜 入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インスタラクショナルデザインとテクノロジ：教える技術の動向と課題・鈴木克明 監修翻訳・北大路書房・978-4-7628-2818-8

インストラクショナルデザイン—教師のためのルールブック 島宗 理 著/米田出版 (2004/11)

その他を授業中に紹介する。

備考

特別研究（HHM56）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	６．０単位
担当教員	猪木原孝二

授業の概要

研究のテーマは、運動刺激の強弱及び運動種目の違いが生体にどのような変化を与えているのかを究明し、各自が考えている生体に対する運動刺激について考察させ、健康体と運動の関係、生体反応の変化等を実験および調査によって究明していく。

到達目標

運動刺激の強弱が身体にどのような影響を与えたか、さらにその強度・頻度・時間の配分等を算出する。

評価方法

特別研究に取り組む態度・姿勢(30%)、中間発表および提出論文(70%)により総合的に評価する。

注意事項

特になし

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目～8週目：先行研究の調査とテーマの設定
9週目～10週目：研究の実施に関わる諸手続き
11週目～16週目：筋力測定の実施および解析
17週目～20週目：骨密度測定の実施および解析
21週目～25週目：論文作成
26週目：発表準備
27週目：修士論文発表
28週目～29週目：論文の加筆・修正
30週目：論文提出

授業外学習

各自研究テーマに沿って論文を完成させるのに必要なデータの収集を行わせる。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

備考

特別研究（HHM58）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	６．０単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

バイオメカニクスに関する研究を行い修士論文としてまとめる。
健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

１「研究課題に対して科学的にアプローチする力を身につける」
２「学会発表・論文投稿ができる力を身につける」

評価方法

特別研究に取り組む態度・姿勢(30% ：到達目標１)、修士論文発表会および修士論文(70% ：到達目標２)により総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

実験に関する諸手続き、発表や審査、論文提出などの日程を十分に把握しておくこと。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目～8週目：先行研究の調査とテーマの設定
9週目～10週目：研究の実施に関わる諸手続き
11週目～20週目：実験の実施および解析
21週目～25週目：論文作成
26週目：発表準備
27週目：修士論文発表
28週目～29週目：論文の加筆・修正
30週目：論文提出

授業外学習

文献収集を徹底して行う。
実験を計画的に行うとともに、データ解析を営々と取り組む。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

特別研究（HHM59）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	６．０単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

生活習慣病と高齢者疾患をキーワードとした研究を行い修士論文としてまとめる。

到達目標

科学的論理的思考法を覚え、科学論文として専門ジャーナルに投稿できる能力を身につける。

評価方法

研究過程における毎月の進捗状況報告レポート（５０％）および最終修士論文の発表内容（５０％）により評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	先行類似研究分析
第3回	先行研究分析：関連分野
第4回	先行研究分析：論点の明確化
第5回	テーマの設定検討
第6回	研究テーマの決定
第7回	研究方法・手順の検討
第8回	研究方法・設備の検討
第9回	テーマと研究方法の再検討
第10回	研究計画決定
第11回	実験研究開始
第12回	実験研究　1
第13回	実験研究　2
第14回	実験研究　3
第15回	実験研究　4
第16回	実験研究終了
第17回	研究結果分析考察
第18回	中間報告会
第19回	研究結果分析考察訂正
第20回	論文作成開始
第21回	論文作成　序論　方法
第22回	論文作成　結果

回数	内容
第23回	論文作成　考察
第24回	論文仮提出
第25回	論文修正 サマリー
第26回	論文修正
第27回	最終論文提出 抄録作成
第28回	研究発表準備 発表原稿
第29回	研究発表準備 スライド
第30回	研究発表

授業外学習

授業以外に文献検索などの自己学習を積極的にすすめること。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

備考

特別研究（HHM60）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 21 HM
単位数	６．０単位
担当教員	矢田貝智恵子

授業の概要

これまで修得してきた食や健康に関する知識やスキルを踏まえ、さらに健康分野の高度な専門知識・技能を身につけ、その成果を修士論文にまとめ、発表することを目的としている。具体的には、修得した分析能力・問題解決能力・研究能力をさらに高度化し、設定したテーマについて、調査・研究を進め、関連する文献を収集・講読し、新たな知見を得、それら研究成果を修士論文としてまとめて発表を行う。

到達目標

1 分析能力・問題解決能力・研究能力をさらに高度化し、研究活動を行なうことができる。
2 研究成果を修士論文としてまとめ、提出する。
3 食と健康について理解を深め、研究発表能力を身につける。

評価方法

研究活動60%（到達目標1）、修士論文発表会および提出論文の評価40%（到達目標2、3）により評価する。

注意事項

・定期的に進捗状況を報告すること。
・研究テーマによっては、「人を対象とする研究倫理」等についての研修会を受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	先行研究分析：先行研究購読
第3回	先行研究分析：先行研究分析
第4回	研究計画書立案
第5回	研究テーマ設定
第6回	研究テーマ決定
第7回	研究方法・手順の検討
第8回	研究計画決定
第9回	実験・調査実施 1
第10回	実験・調査実施 2
第11回	実験・調査実施 3
第12回	実験・調査実施 4
第13回	実験・調査実施 5
第14回	研究結果分析および考察 1
第15回	研究結果分析および考察 2・中間報告会準備
第16回	中間報告会・研究計画の再検討
第17回	実験・調査実施 6
第18回	実験・調査実施 7
第19回	実験・調査実施 8

回数	内容
第20回	実験・調査実施 9
第21回	実験・調査実施 10
第22回	研究結果分析 1
第23回	研究結果分析 2
第24回	研究結果分析 3および考察
第25回	修士論文作成準備
第26回	論文タイトル決定 修士論文作成 1
第27回	修士論文作成 2
第28回	修士論文作成 （初稿）
第29回	修士論文作成 （再校）
第30回	修士論文作成 要旨・査読用論文提出

授業外学習

関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、修士論文作成に取り組む。

教科書

なし

参考書

適宜紹介する。

備考

修士論文発表会・口頭試問（２月第２～３週）
修士論文提出（２月第４水曜日〆切）

特別研究（HHM63）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	６．０単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

小動物臨床においてこれまで治療法の確立していない、あるいは検査法の確立していない分野に対して分子生物的手法を用いて新たな知見を得るために、各自が実験計画の立案、参考文献検索、データ解析を行い、論文を作成する。

到達目標

1.各自の研究課題の内容で修士論文の作成を行う
2.テーマに応じたプレゼンテーションを行う

評価方法

論文提出60%（到達目標1を評価）とプレゼンテーション40%（到達目標2を評価）

注意事項

論文作成に必要な英語力も並行して身につけること

授業計画

1.オリエンテーション
2.ディスカッション
3.研究テーマの決定
4.先行研究の検索
5.先行研究の精読
6.研究計画立案
7.分子生物学実験法1（PCR）
8.分子生物学実験法2（クローニング）
9.分子生物学実験法3（リアルタイムPCR）
10.分子生物学実験法4（シーケンス）
11.分子生物学実験法5（細胞培養）
12.分子生物学実験法6（タンパク）
13.データ解析1（統計）
14.データ解析2（データの解釈）
15.中間発表
16.研究の追加、修正
17.研究調査1 報告
18.研究調査2 修正
19.研究調査3 報告
20.研究調査4 修正
21.研究調査結果の分析と考察1
22.研究調査結果の分析と考察2
23.研究調査結果の分析と考察3
24.論文作成1 報告
25.論文作成2 修正
26.論文作成3 報告
27.論文加筆修正
28.プレゼンテーション1 報告
29.プレゼンテーション2 修正
30. 論文提出、発表

授業外学習

テーマにおける最新の知見を常にアップデートしておくこと

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

備考

情報リスク研究（HHM66）

通年

Research on Information Risk

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	４． ０単位
担当教員	村山公保

授業の概要

情報リスクを考える上での基礎となる情報セキュリティとその安全性について幅広い視点から学ぶ。具体的には暗号技術、認証、バイオメトリック、サイバーセキュリティ、情報セキュリティマネジメントシステム、デジタルフォレンジック、法と倫理等について、発表と討論を通して学ぶ。

到達目標

1. 情報セキュリティについて幅広い観点から理解し、情報リスクについて他人と議論するための土台を構築する。

評価方法

・レポート60%(到達目標の1を評価)、定期試験40%(到達目標の1を評価)の重みで判定する。優秀なものがより実力を高められるように、特別課題と発表で評価する場合もある。

注意事項

・まとめてきた資料は最終的にはレポートとして提出する。

授業計画

回数	内容
第1回	情報セキュリティの概要
第2回	暗号技術の基礎
第3回	暗号技術-共通鍵暗号-(1)共通鍵暗号技術
第4回	暗号技術-共通鍵暗号-(2)安全性
第5回	暗号技術-公開鍵暗号-(1)公開鍵暗号技術
第6回	暗号技術-公開鍵暗号-(2)デジタル署名と認証、安全性
第7回	デジタル署名とPKI(1)認証とは
第8回	デジタル署名とPKI(2)PKIの応用分野
第9回	セキュア実装(1)セキュアプロトコル
第10回	セキュア実装(2)ハードウエア実装
第11回	情報ハイディング技術(1)情報ハイディングとは
第12回	情報ハイディング技術(2)情報ハイディングの今後
第13回	バイオメトリック(1)バイオメトリクスとは
第14回	バイオメトリック(2)IoT・AI・ビッグデータ、FIDO
第15回	サイバーセキュリティ技術(1)サイバーセキュリティの概要
第16回	サイバーセキュリティ技術(2)攻撃と防御の考え方
第17回	サイバーセキュリティ技術(3)最新の技術動向
第18回	情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)および情報セキュリティ監査(1)ISMSとは
第19回	情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)および情報セキュリティ監査(2)ISMS に関連する国内制度
第20回	CC(ISO/IEC15408)と情報システムセキュリティ対策の設計・実装(1)CCの概要
第21回	CC(ISO/IEC15408)と情報システムセキュリティ対策の設計・実装(2)CC策定の歴史と国内制度

回数	内容
第22回	個人情報保護技術(1)個人情報とプライバシー
第23回	個人情報保護技術(2)各国、国際機関における個人情報保護の動向
第24回	デジタルフォレンジック技法(1)デジタルフォレンジック技法の概要
第25回	デジタルフォレンジック技法(2)フォレンジック技法の応用
第26回	IoTセキュリティ(1)IoTとはなにか
第27回	IoTセキュリティ(2)IoTセキュリティの課題
第28回	法と倫理(1)情報セキュリティと法
第29回	法と倫理(2)情報セキュリティと倫理
第30回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

・この講義は、受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習を行い、学んだことを資料にまとめてくること。
・日頃から情報セキュリティや情報リスクについて意識するようにする。

教科書

瀬戸洋一、佐藤尚宜、越前功、中田亮太郎、織茂昌之、長谷川久美、渡辺慎太郎、小檜山智久、村上康二郎著、「改訂版 情報セキュリティ概論」、日本工業出版、2019、978-4-8190-3103-5

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

特になし

環境と健康生活演習（HHM68）

通年

Seminar in Environment and Healthy life

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	２．０単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

人と動物の健康生活は、自然環境（空気、水、土壌等）や生活環境（水道、生活汚水、ごみ、食生活等）・労働環境（化学物質･騒音等有害因子の曝露等）あるいは社会環境（健康施策･保健医療福祉制度等）と大きく関わっている。すなわち、健康の成り立ちは “環境との相互作用”であるという理解の下、人と動物が健康に生活していく上での阻害要因や促進要因に関して各自関心のあるテーマを取り上げ、「問題の発見」→「情報の収集」 →「仮説の設定」→「仮説の検証」 →「レポート作成」の過程を実践する。

到達目標

1. 各自関心のあるテーマを取り上げ、「問題の発見」→「情報の収集」 →「仮説の設定」→「仮説の検証」 →「レポート作成」の過程を実践し、科学的根拠に基づいたレポートにまとめ、科学的思考態度を修得する。

評価方法

進捗状況を提出物でチェックし、最終的に提出されたレポートを基に評価を行う。提出物の配点40%（達成目標1を評価）、レポート60%（達成目標1を評価）を基に最終評価を行う。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

レポート作成にあたって、先行研究を十分把握した上で取り掛かること。
レポート作成のためには事前のシミュレーションや予備実験等が必要な場合があることがある。

授業計画

【テーマの設定（仮説の設定）】
1週目：文献等の収集（１）医中誌を中心に
2週目：文献等の収集（２）pubmedを中心に
3週目：現状の把握（１）国内文献から
4週目：現状の把握（２）海外文献から
5週目：問題点の整理
6週目：目的の明確化
7週目：各種細胞の培養法の習得
8週目：仮説の設定

【仮説の検証】
9週目：対象・方法の検討（１）過去の文献から
10週目：対象・方法の検討（２）本学の設備から
11週目：対象・方法の検討（３）対応可能な方法の提案
12週目：実験への準備（１）機器備品の確認
13週目：実験への準備（２）消耗品等の確認
14週目：実験（１）実験機材の安全確認
15週目：実験（２）実験機材の使用準備
16週目：実験（３）消耗品の準備・作成
17週目：実験（４）愛玩動物用飼料等の検査法・選択培養まで
18週目：実験（５）愛玩動物用飼料等の検査法・分離培養まで
19週目：実験（６）愛玩動物用飼料等の検査法・菌種同定まで
20週目：実験（７）BAM法・選択培養まで
21週目：実験（８）BAM法・分離培養まで
22週目：実験（９）BAM法・菌種同定まで
23週目：実験（１０）遺伝子検査・同定菌の保存

【レポート作成・提出】
24週目：データの整理（１）同定菌の確認

25週目：データの整理（２）遺伝子検査
26週目：データの整理（３）BLAST等データベースとの照合
27週目：データの整理（４）MLST等データベースとの照合
28週目：レポート作成（１）菌種について
29週目：レポート作成（２）遺伝子検査について
30週目：レポート校正・提出

授業外学習

学習時間の目安：30時間
予習： 教科書の該当ページを読んで概略を掴む。
復習：過去の文献を探し、読むことで学びの内容を深めるようにすること。
進捗状況の報告を求めるので、整理しておくこと。

教科書

職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営 | 泉 博之ら監修 | メディックメディア社 | ISBN978-4-89632-782-3
公衆衛生がみえる 2018-2019 | 石川 雅俊ら監修 | メディックメディア社 | ISBN978-4-89632-687-1

参考書

適宜指示する

備考

特になし

動物臨床生化学（HHM69）

通年

Research on Animal Clinical Biochemistry

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	４．０単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

生命活動の基本は遺伝子発現とタンパクへの翻訳で行われている。この講義では小動物の様々な疾病の診断と治療を分子生物学的なアプローチで解析、研究を行うのに必要な知識を習得する。

到達目標

1.分子生物学の基礎を理解する。
2.研究計画を立案できる。

評価方法

評価はプレゼンテーション８０％（到達目標2を評価）、質疑応答２０％（到達目標1を評価）の重みで判定する。

注意事項

原則として課題提出の期限は厳守とする。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：基礎遺伝学（1）：遺伝子の構成
3週目：基礎遺伝学（2）：セントラルドグマ
4週目：基礎遺伝学（3）：メンデル遺伝
5週目：基礎遺伝学（4）：遺伝子変異
6週目：遺伝子の実験（1）：PCR
7週目：遺伝子の実験（2）：リアルタイムPCR
8週目：遺伝子の実験（3）：リアルタイムPCRの応用
9週目：遺伝子の実験（4）：大腸菌を使った遺伝子の組み換え
10週目：遺伝子の実験（5）：ウイルスを使った遺伝子の組み換え
11週目：遺伝子の実験（6）：物理化学的な遺伝子の組み換え
12週目：遺伝子の実験（7）：DNAシークエンス
13週目：タンパク質の実検（1）：タンパク質の基礎知識
14 週目：タンパク質の実験（2）：ELISA
15週目：タンパク質の実験（3）ウエスタンブロット法
16週目：タンパク質の実験（4）その他の解析法
17週目：フローサイトメトリー（1）原理
18週目：フローサイトメトリー（2）細胞表面マーカーの評価
19週目：フローサイトメトリー（3）細胞内蛋白の評価
20週目：細胞培養（1）株化細胞
21週目：細胞培養（2）初代培養
22週目：細胞培養（3）培養条件
23週目：細胞培養（4）培養細胞の評価
24週目：まとめ
25週目：総合研究（1）
26週目：プレゼンテーション（1）
27週目：論文作成
28週目：プレゼンテーション（2）
29週目：論文作成
30週目：今後の展望

授業外学習

英語論文をまとめ、プレゼンテーションを定期的に行う。120時間を目安に学習を行う

教科書

原則としてプリントを配布する。必要に応じて授業内で指示する。

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

経営リスク研究（HHM70）

通年

Research on Management Risk

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	４．０単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

私たちを取り巻くリスクは、多様化・高度化・複雑化している。これまで経営リスクは、損失の発生可能性を中心に議論されていたが、現在は、企業目標に影響を与える可能性として、マイナスの影響とプラスの影響を検討する必要性が議論されるようになった。本講義では、多様化するリスクに対する対策と組織価値向上のための考え方や手法について修得する。

【アクティブラーニング】事例調査、ディスカッション、プレゼンテーションを予定している。
【フィードバック】】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

１．リスクマネジメントの概念・理論を理解する
２．マネジメントプロセスと特徴について、理解する
３．効果的なリスクマネジメント導入とその課題について、理解する

評価方法

ディスカッションへの積極的な参加及びレポートにより評価する。
評価は、ディスカッション４０％（到達目標１を評価）、レポート６０％（到達目標２、３を評価）、の重みで判定する。

注意事項

リスクマネジメントの基礎知識をもっていることがのぞましい。

授業計画

回数	内容
第1回	リスクとリスクマネジメントの変遷１
第2回	リスクとリスクマネジメントの変遷２
第3回	現代企業の経営リスク環境
第4回	経営リスクの概念・手法
第5回	企業価値の基本構造とリスク
第6回	リスクの統合・リスクの最適化
第7回	組織目標とリスクマネジメントの連動
第8回	リスクマネジメント・プロセスの特徴
第9回	リスク・コミュニケーション
第10回	リスク情報の開示と企業価値
第11回	リスクマネジメントの企業導入と課題
第12回	海外事例にみる効果的導入
第13回	リスクの理解
第14回	レポート発表１
第15回	レポート発表２
第16回	保険・デリバティブ（確率の計算）
第17回	保険・デリバティブ（保険の原理）

回数	内容
第18回	保険・デリバティブ（期待効用仮説）
第19回	保険・デリバティブ（まとめ）
第20回	自然災害とリスク
第21回	犯罪とリスク
第22回	信頼とリスク
第23回	リスクリテラシーとリスクガバナンス
第24回	事業継続計画（BCP）とは
第25回	BCP策定のステップ
第26回	BCP策定①
第27回	BCP策定②
第28回	事業継続マネジメントシステム（BCM）とは
第29回	企業のリスクマネジメント（ERM）
第30回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

予習：受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習をしておくこと。

復習：紹介する参考図書・文献にあたり、講義内容をまとめる。課題レポートを作成する

教科書

レジュメを配布する。必要に応じて授業内で指示する

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

特になし

生活習慣病予防演習（HHM71）

通年

Seminar in Lifestyle-related Diseases Prevention

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	２．０単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

生活習慣病予防には多岐にわたるアプローチが存在する。それぞれのアプローチにおける考え方、研究手法を知り、いかなる知見が得られているかを理解することを目的とする。さらに生活習慣病の成因、発症機序を理解したうえで、理論に基づく効果的予防法を考案し、自らその方法を実践し、その過程、効果を検証する。

到達目標

生活習慣病の予防に関して他者に説明でき、さらに自分の意見も言えるレベルの力を身につける。

評価方法

発表（７０％）、討論参加（３０％）として総合評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	生活習慣病の概要
第3回	生活習慣病発症機序１　総論
第4回	生活習慣病発症機序２　肥満
第5回	生活習慣病発症機序３　高脂血症
第6回	生活習慣病発症機序４　高血圧
第7回	生活習慣病発症機序５　高血糖
第8回	生活習慣病発症機序６　動脈硬化
第9回	生活習慣病発症機序７　がん
第10回	生活習慣病発症機序８　歯周病
第11回	生活習慣病発症機序９　糖尿病
第12回	死の四重奏
第13回	生活習慣病予防法の現状１　食塩と高血圧
第14回	生活習慣病予防法の現状２　肥満と減量
第15回	生活習慣病予防法の現状３　運動と高血圧
第16回	生活習慣病予防法の現状４　アルコール摂取と血圧
第17回	生活習慣病予防法の現状５　食事と脂質
第18回	生活習慣病予防法の現状６　肥満と動脈硬化
第19回	生活習慣病予防法の現状７　運動と脂質
第20回	生活習慣病予防法の現状８　喫煙と動脈硬化
第21回	生活習慣病予防法の考案１　血圧関連１

回数	内容
第22回	生活習慣病予防法の考案２　血圧関連２
第23回	生活習慣病予防法の考案３　脂質改善１
第24回	生活習慣病予防法の考案４　脂質改善２
第25回	生活習慣病予防法の考案５　糖尿病予防１
第26回	生活習慣病予防法の考案６　糖尿病予防２
第27回	生活習慣病予防法の考案７　患者教育１
第28回	生活習慣病予防法の考案８　患者教育２
第29回	今後の展望
第30回	総括質疑

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

毎回討論のための予備学習をしておくこと。最新の英語論文を国際ジャーナルから自ら検索、入手し読解、吟味しておく。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は適宜案内する。

備考

情報リスク演習（HHM73）

通年

Seminar in Information Risk

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	２． ０単位
担当教員	村山公保

授業の概要

情報リスクを考える上での経験値を高めるため、コンピュータシステムの構築と設定を行い、ペネトレーションを行う。具体的には仮想環境上にWindows、Linux(KaliLinux)環境を構築し、コンピュータシステムの機密性、完全性、可用性を脅かす行為について、実機を使った演習を行いながら、理解を深める。

到達目標

1. コンピュータシステム上に演習環境を構築できる
2. 各種の攻撃手法について理解を深める。

評価方法

・レポート60%(到達目標の1、2を評価)、定期試験40%(到達目標の2を評価)の重みで判定する。優秀なものがより実力を高められるように、特別課題と発表で評価する場合もある。

注意事項

・仮想環境(VirtualBox等)が動作するノートパソコンを持参すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要
第2回	ハッキング・ラボとは
第3回	仮想環境とは、VirtualBoxのインストール
第4回	VirtualBoxの基本設定、VirtualBoxにKali Linuxを導入する
第5回	初めてのKali Linux
第6回	Kali Linuxのカスタマイズ
第7回	ファイルの探し方、Kaliにおけるインストールテクニック
第8回	いつでもどこでも調べもの、エイリアスを活用する
第9回	ファイルの拡張子を表示する、ファイルやフォルダーの隠し属性を解除する
第10回	コントロールパネルをすぐに開けるようにする、スタートメニューの主要リンクをカスタマイズする
第11回	メインPCのフォルダー構成を考える、ホストOSとゲストOS間でファイルをやり取りする
第12回	VirtualBoxのファイル共有機能を利用する、メインPCの共有設定を見直す
第13回	Windows Updateを管理する、アンチウイルスの設定を見直す
第14回	AutoPlayの設定を確認する、共有フォルダーの"Thumbs.db"の作成を抑止する
第15回	右クリックのショートカットメニューをカスタマイズする、ストレージ分析ソフトで無駄なファイルを洗い出す
第16回	ランチャーを導入する、ハッキング・ラボにおけるGit
第17回	クラウドストレージの活用、Prefetch機能を有効にする
第18回	WindowsにPython環境を構築する、BIOS（UEFI）画面を表示する
第19回	Windowsのハッキング(Windows 7のハッキング)
第20回	Windowsのハッキング(Windows 10のハッキング)

回数	内容
第21回	Metasploitableのハッキング(MetasploitableでLinuxのハッキングを体験する)
第22回	Metasploitableのハッキング(Metasploitableを攻撃する)
第23回	Metasploitableのハッキング(Netcatを用いた各種通信の実現)
第24回	LANのハッキング(有線LANのハッキング)
第25回	LANのハッキング(無線LANのハッキング)
第26回	学習用アプリによるWebアプリのハッキング(DVWAでWebアプリのハッキングを体験する)
第27回	学習用アプリによるWebアプリのハッキング(bWAPP bee-boxでWebアプリのハッキングを体験する)
第28回	ログオン認証のハッキング(Sticky Keys機能を悪用したログオン画面の突破)
第29回	ログオン認証のハッキング(レジストリ書き換えによるバックドアの実現)
第30回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

・実験環境を構築し、試してくる。

・パソコンの操作などでつまずいた場合には、インターネットで検索して試しながら探り当てるようにする。

教科書

IPUSIRON著、「ハッキング・ラボのつくりかた 仮想環境におけるハッカー体験学習」、翔泳社、978-4798155302

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

特になし

健康と食生活演習（HHM74）

通年

Seminar in Health and Eating habit

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	２．０単位
担当教員	矢田貝智恵子

授業の概要

健康管理に関わる基本的な機器の操作、測定方法、データ解析方法を習得し、定期的に計測することで、自己の健康管理、身体づくりを行う。

健康増進・スポーツ時などにおける健康管理の方法などを調査、分析し、その結果に基づいて実験・研究計画の立案、実施、評価、判定を行う能力を養う。

健康分野の高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1 体成分分析や骨密度測定などの操作ができ、結果を評価することができる。
2 日常生活の中で自己の健康状態を把握するにはどのようにするかを理解し、説明できる。
3 健康増進・スポーツ活動時などにおける健康管理の方法を学び、説明できる。
4 健康管理について、調査・分析し、その結果に基づいて実験・研究計画の立案、実施、評価、判定を行うことができる。

評価方法

機器操作20%（到達目標1）、分析結果の判定および評価30%（到達目標2～4）、レポート50%（到達目標4）に基づいて総合的に評価する。

注意事項

・講義「食生活と健康の研究」を履修のこと。
・定期的に進捗状況を報告すること。

授業計画

第１週 オリエンテーション
第２週 体成分分析装置の説明および機器操作
第３週 体成分析の結果および評価
第４週 文献調査とディスカッション
第５週 レポート提出および質疑応答
第６週 骨密度測定機器の説明および機器操作
第７週 骨密度測定結果および評価
第８週 文献調査とディスカッション
第９週 レポート提出および質疑応答
第10週 血液成分分析機器の説明および機器操作
第11週 血液成分分析結果および評価
第12週 文献調査とディスカッション
第13週 レポート提出および質疑応答
第14週 健康増進における健康管理の方法
第15週 文献調査とディスカッション
第16週 スポーツ活動時における健康管理の方法
第17週 文献調査とディスカッション
第18週 テーマの設定
第19週～第26週 テーマに沿った調査・実験実施
第27週 調査・実験の評価・判定
第28週 調査・実験のまとめ
第29週 レポート作成
第30週 レポート提出および総括質疑

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間
・定期的に体成分分析を行い、毎日の生活の中で、健康の維持増進のための事項を実践する。
・関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、レポート作成に取り組む。

教科書

なし

参考書

適宜紹介・配布する。

備考

経営リスク演習（HHM77）

通年

Seminar in Management Risk

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	２．０単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

企業や非営利組織などあらゆる組織は、不確実な状況の中で、複雑化・高度化するリスクに対し多様な意思決定を下さなければならない。この授業では、企業など組織が危機の対処に失敗した事例を取り上げ、その対処についてポイントを整理し、リスク対策の手法について議論する。

【アクティブラーニング】事例調査、ディスカッション、プレゼンテーションを予定している。
【フィードバック】】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

１．事例研究を通して、多様なリスクに対するマネジメントの手法について理解し、説明できる

評価方法

講義時のディスカッションへの積極的な参加及びレポートにより評価する。評価は、レポート６０％、ディスカッション・発表４０％（共に到達目標1を評価）の重みで判定する。

注意事項

「経営リスク研究」をあわせて受講することがのぞましい。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション
第2回	組織を守る危機管理とは
第3回	経営に関するリスク（リコール事件①）
第4回	経営に関するリスク（リコール事件②）
第5回	マネジメントに関するリスク（セクハラ集団訴訟）
第6回	安全管理に関するリスク（鉄道事故）
第7回	安全管理に関するリスク（放射線事故）
第8回	安全管理に関するリスク（グループホームの火災事故）
第9回	経営に関するリスク（企業の事業継続に向けた危機管理）
第10回	安全管理に関するリスク（自治体の危機管理）
第11回	安全管理に関するリスク（工場の土壌汚染）
第12回	経営に関するリスク（株主代表訴訟①）
第13回	経営に関するリスク（株主代表訴訟②）
第14回	レポート発表１
第15回	レポート発表2
第16回	安全管理に関するリスク（農薬混入）
第17回	安全管理に関するリスク（目薬への異物混入）
第18回	安全管理に関するリスク（ノロウイルス集団食中毒）
第19回	安全管理に関するリスク（大規模食中毒対応）

回数	内容
第20回	コンプライアンスに関するリスク（健康番組のねつ造）
第21回	コンプライアンスに関するリスク（試験データの改ざん）
第22回	情報漏えいに関するリスク（顧客情報流出）
第23回	経営に関するリスク（金融情報システムの大規模障害発生事件）
第24回	安全管理に関するリスク（ジェットコースターの急停止事故）
第25回	経営リスク対策（現場マニュアルの策定と遵守の徹底）
第26回	経営リスク対策（自然災害を想定したリスクマネジメント）
第27回	経営リスク対策（情報セキュリティーポリシーの策定）
第28回	経営リスク対策（保険の活用）
第29回	経営リスク対策（従業員のマネジメント）
第30回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計３０時間
予習：受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習をしておくこと。
復習：紹介する参考図書・文献にあたり、講義内容をまとめる。
課題レポートを作成する

教科書

レジュメを配布する。必要に応じて授業内で指示する

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

特になし

救急・災害医療の研究（HHM78）

通年

Research on Disaster and Emergency Medicine

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	４．０単位
担当教員	大川元久

授業の概要

本講座は医学教育や研究に携わる者としての基本的な考え方や方法論をもとに研究を実践されるものである。その特徴は救急・災害医療を病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していくものである。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究において研究を含む『教える技術』について理解と実践にその習得に重きを置く。すなわち『教えることを学ぶ』ことである。ついで、医療教育システムのインストラクショナルデザインについて学び応用出来るようにする。講義はeラーニングなどを活用し、各個人が持つ能力を最大限に引き出し社会に貢献できる人材を養成する。講義の前提は多くの人の尊い命のことを考えた生命倫理に基づくことであることをしっかり認識しておいて下さい。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動を行うために、

1．学術的プレゼンテーションの技術を学ぶ。

2．科学的な学問としての教え方を身に着ける。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%；到達目標１)、レポート(20%到；到達目標１, ２)、口頭試問(20%；到達目標

注意事項

授業計画

第1回 救急医学と災害医学 および 脳外科学を含む 外傷学について

第2回 総論1 医療教授法 インストラクショナルシステムデザイン(ISD)とは

第3回 総論2 BLS、ACLS(ICLS)、ISLS、JPTEC/JNTEC/JATEC etc.

第4回 総論3臨床研究と発表：研究テーマについて (レポート提出)

第5回 口頭試問(総論学習内容の確認)

第6回 １．スライドの文字と文 および 箇条書きの問題点

第7回 ２．スライドのデザイン 写真と図, グラフのデザイン, 表のデザイン

第8回 ３．アニメーション効果

第9回 ４．演習：スライド修正

第10回 ５．論理的に考える

第11回 ６．研究計画：合格のためのポイント

第12回 ７．研究目的：疑問点の設定、仮説

第13回 ８．研究デザイン (レポート提出2000字以上)

第14回 ９．症例報告（ケースレポート）と症例集積（ケースシリーズ）

第15回 これまでの学習内容の小括（口頭試問を含む)

第16回 10．コホート研究と横断研究

第17回 11．後ろ向きコホート研究

第18回 12．介入研究と観察研究

第19回 13．エビデンス

第20回 14．統計学

第21回 15．発表の基本(レポート提出)

第22回 発表形式を学ぶ（口頭試問を含む)

第23回 16．原稿の棒読みになっていないか検証する

第24回 17．研究背景と目的：研究の重要性の主張 および対象と方法：デザインを明確に

第25回 18．結果：アウトカム…何を観察・測定・計測したか

第26回 19．考察：結果の解釈

第27回 20．結論と抄録の書き方

第28回 総括(レポート提出)

第29回 研究発表

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

救命救急の医療知識・制度法律に関する成書・論文等から研究に必要な情報を読み込み、分析するデータの収集を行う。　救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JNTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。 全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

上手な教え方の教科書 〜 入門インストラクショナルデザイン　向後千春 技術評論社　ISBN: 978-4774174617

参考書

インスタラクショナルデザインとテクノロジ：教える技術の動向と課題・鈴木克明 監修翻訳・北大路書房・978-4-7628-2818-8
インストラクショナルデザイン—教師のためのルールブック　島宗 理 著/米田出版 (2004/11)
その他を授業中に紹介する。

備考

救急・災害医療演習（HHM80）

通年

Seminar in Disaster and Emergency Medicine

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	２．０単位
担当教員	大川元久

授業の概要

救急・災害医療において、病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していく。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究(20項目)において研究の仮説の立て方から研究デザインを考案し、具体的な論文作成方法の基本を学ぶ。また研究の基礎となる統計分析法の理解と実践にその習得に重きを置く。特にインストラクショナルデザインを基とした医療教授法を身に着ける。特に、その研究テーマを選定した動機・研究対象の背景・現在の課題を明確にします。このレポートから学習者の到達目標と現状とのギャップを埋めるために必要な項目・技術についてスクーリングを実施していきます。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動を行うために、

1. 学術的プレゼンテーションの技術を学ぶ。
2. 科学的な学問としての教え方を身に着ける。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%；到達目標１)、レポート(20%到；到達目標１, ２)、口頭試問(20%；到達目標２)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きを置いて評価する。随時、SkypeやZOOM、Google ClassroomおよびLINEを用いて通信指導としてe-ラーニングとして実施します。
これらの後に科目修了試験（関連学会等での発表に代用可）をもって単位認定します。

授業計画

第1回 オリエンテーション 救急医学と災害医学 および 外傷学と脳外科学
第2回 医療教授法 インストラクショナルシステムデザイン(ISD)とは
第3回 BLS、ACLS(ICLS)、ISLS、JPTEC/JNTEC/JATEC etc.
第4回 臨床研究と発表：研究テーマについて (研究計画書提出)
第5回 各自でテーマのスライドを作成する
第6回 １．スライドの文字と文 および 箇条書きの問題点を各自作成したもので学ぶ
第7回 ２．スライドのデザイン 写真と図, グラフのデザイン, 表のデザインを各自作成したもので学ぶ
第8回 ３．アニメーション効果を各自スライドに取り入れる
第9回 ４．スライド修正 を実践する
第10回 ５．論理的に各自のスライド構成を振り返る
第11回 ６．研究発表合格のためのポイントから研究計画を検証する
第12回 ７．疑問点の設定、仮説を見直す
第13回 これまでの習得技術でプレゼンテーションを行う
第14回 ８．研究デザイン (中間報告書提出)
第15回 ９．症例報告（ケースレポート）と症例集積（ケースシリーズ）
第16回 10. コホート研究と横断研究について調べる
第17回 11. 後ろ向きコホート研究について調べる
第18回 12. 介入研究と観察研究について調べる
第19回 13. 研究テーマに関連する先行研究を収集できるようになる
第20回 14. 統計学の基本を説明できるようになる
第21回 15. 発表の基本(レポート提出)を実践する
第22回 これまでの知識で各自のプレゼンテーションができるようになる。
第23回 16. 原稿の棒読みになっていないかが検証できる
第24回 17. 研究の重要性の主張 および対象と方法とデザインを明確にして振り返る
第25回 18. 結果：アウトカム…何を観察・測定・計測したかについて説明できるようになる
第26回 19. 考察：結果の解釈を説明できる

第27回 20．結論と抄録の書き方の基本に則り作成する
第28回 総括(最終報告書提出)
第29回 研究発表を行う
第30回 修了試験の実施

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間
救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。
全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

上手な教え方の教科書 〜 入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インストラクショナルデザインとテクノロジ: 教える技術の動向と課題 鈴木 克明 (監修, 翻訳) 北大路書房(2013/9/28)ISBN:978-4762828188
あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ!—シンプルに伝える魔法のテクニック 渡部欣忍著 南江堂 (2014/4/1)ISBN:978-4-524-26127-7
その他、授業中に紹介する。

備考

健康運動科学演習（HHM81）

通年

Seminar in Health and Exercise Physiology

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	２．０単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

本演習は、身体運動機能の測定を行う。基本的には、運動生理学・バイオメカニクスに関する実験機器の操作と分析資料の解読及び判定方法を実験を通して学習する。健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。
【アクティブラーニング】ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。
【フィードバック】レポートやプレゼンテーションに対してフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

身体運動のメカニズムを理解し、健康運動を科学的に分析する能力を身につける。

評価方法

評価は、機器操作（３０％）、分析資料の解読及び判定（３０％）、レポート（４０％）などにより総合的に評価する。
上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動科学実験を行うために次のものを準備すること。
・ジャージ及びシューズ

授業計画

1週目：オリエンテーション（講義概要、講義方法及びスケジュールなど）
2週目：体組成分析機器（InBody）の説明及び機器操作
3週目：体組成分析実験
4週目：体組成分析資料の見方及び判定評価
5週目：ディスカッション（課題レポート１）
6週目：筋電図装置の説明及び機器操作
7週目：筋電図実験１
8週目：筋電図実験２
9週目：筋電図分析資料の見方及び判定評価
10週目：ディスカッション（課題レポート２）
11週目：筋電図・筋音図装置の説明及び機器操作
12週目：筋電図・筋音図実験１
13週目：筋電図・筋音図実験２
14週目：筋電図・筋音図分析資料の見方及び判定評価
15週目：ディスカッション（課題レポート３）
16週目：等速性筋力測定装置の説明及び機器操作
17週目：等速性筋力測定実験１
18週目：等速性筋力測定実験２
19週目：等速性筋力測定資料の見方及び判定評価
20週目：ディスカッション（課題レポート４）
21週目：床反力測定装置の説明及び機器操作
22週目：床反力測定実験１
23週目：床反力測定実験２
24週目：床反力分析資料の見方及び判定評価
25週目：ディスカッション（課題レポート５）
26週目：動作解析装置の説明及び機器操作
27週目：動作解析実験１
28週目：動作解析実験２
29週目：動作解析分析資料の見方及び判定評価

30週目：ディスカッション（課題レポート６）

授業外学習

学習時間の目安：合計３０時間（予習、復習及び文献検索、レポート作成、測定実験）
身体運動に関する実験を行うため生理学的な人体の機能、安全性に関する対応について事前に理解しておくこと。
運動生理学的・バイオメカニクス的な文献検索と理解、さらには専門的な知識の吸収に努める。
課題レポートは、単元ごとに年間６テーマを出題する。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に配布

備考

動物臨床生化学演習（HHM82）

通年

Seminar in Animal Clinical Biochemistry

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	２．０単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

動物看護領域の臨床研究においても分子生物学的な手法は必須である。本演習では動物からの検体採取といった基本的な方法から遺伝子組み換えにまで至る応用的な実験手法までを幅広く習得してもらう。

到達目標

1.研究計画を立案できる
2.研究法を理解できる
3.データを論文形式にまとめることができる

評価方法

質疑応答20%（到達目標2を評価）、レポート80%（到達目標1.3を評価）で総合的に評価を行う。

注意事項

内容により数日間連続して演習を行うこともある。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：文献検索
3週目：動物からの検体採取
4週目：検体の取り扱い・処理法
5週目：DNA抽出
6週目：RNA抽出
7週目：タンパク抽出法
8週目：データベースの使用法
9週目：プライマー設計
10週目：遺伝子増幅法
11週目：制限酵素
12週目：プラスミド
13週目：コンピテントセルの遺伝子組み換え
14週目：DNAシークエンス法
15週目：タンパク質の定量
16週目：ELISA法
17週目：ウエスタンブロット法
18週目：質疑応答・レポート提出
19週目：細胞培養法
20週目：初代培養
21週目：株化培養
22週目：培養細胞の遺伝子組み換え
23週目：培養細胞からの遺伝子抽出
24週目：培養細胞からのタンパク抽出
25週目：免疫染色
26週目：フローサイトメトリー法
27週目：論文作成
28週目：論文作成
29週目：プレゼンテーション
30週目：レポート提出・総括質疑

授業外学習

与えられたテーマに沿った論文を読む。30時間を目安に学習を行う。

教科書

原則としてプリントを配布する。必要に応じて授業内に指示する。

参考書

適宜紹介する。

備考

特別研究（HHM83）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	６．０単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

各自の研究テーマに従い、修士論文に向けた実験・調査を行い論文を完成させる。
【フィードバック】小テスト等の課題に対する講評を行う。
【ＩＣＴを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

到達目標

1. 研究課題を自分で見つけ出し、それに科学的にアプローチできる能力を身につける。
2. 専門性の高い研究成果を、適切な用語で、かつ分かりやすく論旨展開して公表できる。

評価方法

修士論文発表会での口頭試問（到達目標1, 2）及び修士論文（到達目標1, 2）により評価する。評価は、論文（80%）、口頭試問（20%）の重みで判定する。

注意事項

9月下旬に中間発表を行う。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	先行研究の精読(1)国内文献
第3回	先行研究の精読(2)海外文献
第4回	先行研究の精読(3)国内文献の比較
第5回	先行研究の精読(4)海外文献の比較
第6回	構想発表
第7回	実験・調査計画 I の立案(1)過去の文献から
第8回	実験・調査計画 I の立案(2)本学の機材から
第9回	実験・調査計画 I の実施(1)選択培養
第10回	実験・調査計画 I の実施(2)分離培養
第11回	実験・調査計画 I の実施(3)菌種同定
第12回	実験等の結果分析及び考察(1)調査検体について
第13回	実験等の結果分析及び考察(2)菌種について
第14回	実験・調査計画 II の立案(1)過去の文献から
第15回	実験・調査計画 II の立案(2)本学の機材から
第16回	実験・調査計画 II の立案(3)具体的な方法の提案
第17回	実験・調査計画 II の実施(1)選択培養
第18回	実験・調査計画 II の実施(2)分離培養
第19回	実験・調査計画 II の実施(3)菌種同定

回数	内容
第20回	実験・調査計画 II の実施(4)遺伝子検査
第21回	実験等の結果分析及び考察(1)調査検体について
第22回	実験等の結果分析及び考察(2)菌種について
第23回	実験等の結果分析及び考察(3)遺伝子検査結果について
第24回	論文・要旨作成（初稿）
第25回	論文・要旨作成（二校）
第26回	論文・要旨作成（三校）
第27回	修士論文発表会の準備
第28回	修士論文発表会
第29回	論文加筆修正
第30回	論文提出

授業外学習

・既読の文献の内容を整理する。

・実験・調査を行い、それらを適切なかたちでまとめる。

教科書

Infectious Diseases of the Dog and Cat: A Color Handbook | J Scott Weese, Michelle Evason : CRC Press | 978-1498775519

大学生 学びのハンドブック[4訂版] | 世界思想社　編集部 | 世界思想社 | 978-4790717072

参考書

適宜案内する。

備考

特になし

特別研究（HHM84）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	６．０単位
担当教員	村山公保

授業の概要

持続可能な社会の構築のために、IoTなどの情報技術を利活用する研究を行う。各自が研究テーマを設定し、文献調査、システムの設計や構築、運用テスト等を行う。得られた結果を分析・解析し、考察を加えて最終的に論文としてまとめる。

到達目標

1. 情報技術を使って社会で役だつものを提案や構築することができる。
2. 文献等を読み、自力で自分の技術力を向上させ、それ以前に、できなかったことができるようになる。
3. 最終的に論文を作成し、内容をプレゼンテーションすることが出来る。

評価方法

・特別研究に取り組む態度・意欲40%(到達目標1、2を評価)、論文内容・プレゼンテーション60%(到達目標3を評価)の重みで判定する。

注意事項

・仮想環境(VirtualBox等)が動作するノートパソコンを持参すること。

授業計画

1週目:オリエンテーション
2週目:文献調査１
3週目:文献調査２
4週目:システムの構想１
5週目:システムの構想２
6週目:システムの設計１
7週目:システムの設計２
8週目:システムの構築１
9週目:システムの構築２
10週目:システムの構築３
11週目:システムの運用テスト
12週目:結果の分析・解析
13週目:システムの不具合修正、拡張１
14週目:システムの不具合修正、拡張２
15週目:システムの運用テスト
16週目:結果の分析・解析
17週目:システムの不具合修正、拡張１
18週目:システムの不具合修正、拡張２
19週目:システムの運用テスト
20週目:結果の分析・解析
21週目:結果の分析・解析・考察
22週目:論文要旨作成 初稿
23週目:論文要旨作成 二校
24週目:論文要旨作成 三校
25週目:修士論文発表会の準備１
26週目:修士論文発表会の準備２
27週目:修士論文発表会
28週目:論文加筆修正１
29週目:論文加筆修正２
30週目:修士論文提出

授業外学習

常に研究の進行状況の報告を求めるので、いつでも発表できるように準備しておくこと。

教科書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄、「マスタリングTCP/IP入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

参考書

必要に応じて、適宜紹介する

備考

特になし

特別研究（HHM85）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 22 HM
単位数	６．０単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

企業や非営利団体、公共団体など様々な組織は、絶えず変化する環境の中で経営活動を行っている。さらに、グローバル化やICTなど技術の発展に伴い、企業が行う意思決定は、より高度化・複雑化している。現在社会において組織が抱える課題や業界の動向、リスク対策など、経営学から捉えた研究テーマを設定し、文献調査、アンケート調査等を行う。得られた資料を分析・解析し、考察を加えて最終的に論文としてまとめる。

到達目標

１．企業活動に対する関心を高め、様々な文献にあたり、自身のテーマを決定することができる。
２．文献使用やアンケート結果の分析・解析を行うことができる。
３．論文作成上必要な論理的思考とその展開方法を身につける。
４．最終的に論文を作成し、内容をプレゼンテーションすることが出来る

評価方法

特別研究へ取り組む態度・意欲：10%（到達目標１を評価）、資料検索の範囲：20%（到達目標２を評価）、資料分析：20%（到達目標２を評価）、中間発表：10%（到達目標3を評価）、全体的な論文の仕上がり：40%（到達目標3、4を評価）により評価する。

注意事項

・指導事項をよく聞いて理解すること。
・論文執筆に必要な研究手法について、基本的なことをしっかりと理解しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	論文テーマの検討・分析
第3回	先行研究レビューⅠ
第4回	先行研究レビューⅡ
第5回	先行研究レビューⅢ
第6回	先行研究レビューⅣ
第7回	論文のテーマと資料との妥当性Ⅰ
第8回	論文のテーマと資料との妥当性Ⅱ
第9回	調査計画の立案Ⅰ
第10回	調査計画の立案Ⅱ
第11回	調査計画の実施Ⅰ
第12回	調査計画の実施Ⅱ
第13回	調査結果の分析・考察Ⅰ
第14回	調査結果の分析・考察Ⅱ
第15回	中間報告
第16回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅰ
第17回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅱ
第18回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅲ

回数	内容
第19回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅳ
第20回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅴ
第21回	論文（初稿）の提出
第22回	論文（初稿）の質疑応答
第23回	論文（初稿）の修正および質疑応答Ⅰ
第24回	論文（初稿）の修正および質疑応答Ⅱ
第25回	論文（初稿）の修正および質疑応答Ⅲ
第26回	論文・要旨作成（二稿）
第27回	修士論文発表会準備
第28回	修士論文発表会
第29回	修士論文加筆・修正
第30回	修士論文提出

授業外学習

学習時間の目安：240時間

・各自のテーマにあわせて、関連する先行研究となる文献や書籍に多くあたること。

・研究の進捗について、発表できるように準備しておくこと。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特になし

教育開発論研究（HHM86）

通年

Research on Educational Improvement

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 23 HM
単位数	４．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

日本では1980年代から現在に至るまで、教育改革が行われてきた。しかしこの「教育改革」の方向性や事実認識は正確なものだろうか？
本講義では、「教育開発」を目指す人のために、「教育現象」を疑って見る視点を育む。

到達目標

1.「なぜ教育問題は間違って語られるのか？」について、その構造を指摘しながら、説明できる。
2.教育は万能でないことを理解し、これからの改革の方向性について考える。

評価方法

授業への参加度、講義後に出される課題、最終レポートにより評価する。
評価は、
・授業への参加度20%（到達目標１，２を評価）、
・講義後に課される課題30%（到達目標１，２を評価）、
・最終レポート50%（到達目標１，２を評価）、
の重みで判定する。

注意事項

データの読み方や、文献の選び方・読み方については丁寧に指導する。わからないことは遠慮なく質問すること。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス －間違いだらけの教育論－
第2回	能力に応じた教育① -遺伝と環境－
第3回	能力に応じた教育② －現代の教育改革論から－
第4回	少年非行を考える① －本当に少年犯罪が多発・凶悪化しているのか？－
第5回	少年非行を考える② -非行生起の理論的説明－
第6回	少年非行を考える③ -なぜ誤って語られるのか？-
第7回	「ゆとり教育」批判① -学力低下論争-
第8回	「ゆとり教育」批判② -教育課程行政の仕組み－
第9回	「ゆとり教育」批判③ -なぜ誤って語られるのか？-
第10回	ジェンダーと教育① －女の子はピンクが好きか？－
第11回	ジェンダーと教育② －ヒドゥン・カリキュラム－
第12回	現代の教育改革

回数	内容
第13回	なぜ教育問題はまちがって語られるのか？① －構造の問題－
第14回	なぜ教育問題はまちがって語られるのか？② －教育問題に対してどう向き合うか？－
第15回	まとめと総括質疑
第16回	ガイダンス -教育開発のための視点-
第17回	教育の不確実性① －教育学とはどういう領域なのか？－
第18回	教育の不確実性② －コミュニケーション理論－
第19回	「教育」の誕生と展開① -歴史的な観点から-
第20回	「教育」の誕生と展開② -児童・生徒管理の思想-
第21回	学校の機能とジレンマ
第22回	教育目的再構築論の危うさ
第23回	公教育に関する仕組み
第24回	制度と慣行のゆくえ① -教育勅語-
第25回	制度と慣行のゆくえ② －『御真影に殉じた教師たち』－
第26回	日本人のしつけは衰退したか① －データの扱い方—
第27回	日本人のしつけは衰退したか② －文献購読－
第28回	学力格差是正の国際比較
第29回	学校とボランティア
第30回	まとめと総括質疑

授業外学習

学習の目安：合計120時間

予習：指定された文献の該当ページを読んで、概略をつかむ。

復習：講義内容をまとめ、各単元で課題レポートを作成する。

教科書

①広田照幸『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』日本図書センター、2010年。ISBN 978-4-284-30442-9

②広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、2009年。ISBN 978-4-000-28324-3

参考書

その都度、適宜紹介する。

備考

修士論文の執筆に向けて、教育学という分野を通して「本を読む」のではなく「本を使う」にはどうしたらいいのかという視点から、授業を展開していきたいと考えています。

人間形成論研究（HHM87）

通年

Research on Character Building

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 23 HM
単位数	４．０単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

東洋古典学の基礎をおさえたうえで、教育・学習・修養・倫理といった視点で文献を読みながら、社会的次元における人間形成のあり方を中心に、その人間観を探求する。

到達目標

1.東洋古典の読解法を理解し、説明できる。
2.東洋古典における人間観を理解し、説明できる。
3.東洋古典における人間形成のあり方を独自の視点で理解し、説明できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。
中間まとめ①の課題提出（30%）：到達目標1を評価
中間まとめ②の課題提出（35%）：到達目標2を評価
期末まとめの課題提出（35%）：到達目標3を評価

注意事項

東洋古典を理解する前提として、中国史・日本史の基礎知識、漢文訓読法の基礎を有していることが望ましい。

授業計画

01週目：オリエンテーション
02週目：東洋古典学の基礎1 漢文訓読法
03週目：東洋古典学の基礎2 伝世文献
04週目：東洋古典学の基礎3 出土文献
05週目：東洋古典学の基礎4 儒学文献
06週目：東洋古典学の基礎5 諸子文献
07週目：東洋古典学の基礎6 歴史文献
08週目：中間まとめ① 東洋古典学の基礎
09週目：『論語』の人間観
10週目：『礼記』の人間観
11週目：『孟子』の人間観
12週目：『荀子』の人間観
13週目：『老子』の人間観
14週目：『荘子』の人間観
15週目：『墨子』の人間観
16週目：『韓非子』の人間観
17週目：『国語』の人間観
18週目：『戦国策』の人間観
19週目：中間まとめ② 東洋古典の人間観
20週目：儒家文献の人間形成論1 教育と学習
21週目：儒家文献の人間形成論2 修養と倫理
22週目：道家文献の人間形成論1 教育と学習
23週目：道家文献の人間形成論2 修養と倫理
24週目：法家文献の人間形成論1 教育と学習
25週目：法家文献の人間形成論2 修養と倫理
26週目：歴史文献の人間形成論1 教育と学習
27週目：歴史文献の人間形成論2 修養と倫理
28週目：列女伝の人間形成論1 教育・学習
29週目：列女伝の人間形成論2 修養・倫理

30週目：期末まとめ 東洋古典の人間形成論

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

予習：指示された古典を読み質問を用意する

復習：取りあげた古典の内容をまとめる

教科書

指定教科書なし。適宜資料を配布する。

参考書

『新釈漢文大系』および『新編漢文選』シリーズ（明治書院）

板野長八『中国古代における人間観の展開』（岩波書店）

下見隆雄『儒教社会と母性』（研文出版）

備考

学習心理学研究（HHM88）

通年

Research on Learning Psychology

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 23 HM
単位数	４．０単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

現在われわれがもっているヒトの脳と “こころ ”は進化の結果であり、他の種のそれと連続性をもつ。これについて、心理学、人類学等の幅広い視点から考え、どのような進化を遂げてきて、今があるのかを考える。

到達目標

１．進化のメカニズムについて理解する。
２．ヒトの脳の構造および機能と、他の動物種との類似性と特異性を理解する。

評価方法

講義時の討論・質疑応答（到達目標1・2）及びレポート（到達目標1・2）により評価する。評価は、レポート８０％、質疑応答２０％の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

心理学、行動学に関する概論を予め理解しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	淘汰（1）自然淘汰
第3回	淘汰（2）性淘汰
第4回	類人猿の進化と適応
第5回	環境コントロールのメカニズム
第6回	脳の進化と発達（1）進化と脳の構成
第7回	脳の進化と発達（2）進化とモジュール性
第8回	ヒトの心（1）機能的社会システム
第9回	ヒトの心（2）機能的生体システム
第10回	ヒトの心（3）発達とモジュール性
第11回	問題解決（1）限定合理性
第12回	問題解決（2）ヒューリスティクス
第13回	問題解決（3）問題解決
第14回	問題解決（4）推理
第15回	まとめと総括質疑＆レポート提出
第16回	メンタルモデル（1）認知と脳のシステム
第17回	メンタルモデル（2）認知と脳のシステム
第18回	メンタルモデル（3）ヒトの脳の進化
第19回	メンタルモデル（4）社会的認知－自我・他者
第20回	メンタルモデル（5）社会的認知—theory of mind

回数	内容
第21回	メンタルモデル（6）社会的認知—theory of mind
第22回	一般知能の進化（1）心的能力の構成
第23回	一般知能の進化（2）ワーキングメモリー
第24回	一般知能の進化（3）遺伝的要因
第25回	一般知能の進化（4）環境的要因
第26回	現代社会における一般知能（1）進化と社会的競争
第27回	現代社会における一般知能（2）教育、仕事と知能
第28回	現代社会における一般知能（3）アカデミックな学習
第29回	今後の展望
第30回	まとめと総括質疑＆レポート提出

授業外学習

学習時間の目安は合計120時間である。
予習：教科書の該当ページを読んで概略をつかむ。
復習：紹介する参考図書・文献にあたり、講義内容をまとめる。
　　各単元で課題レポートを作成する。

教科書

心の起源　–脳・認知・一般知能の進化|ギアリー, D. C. （著）　小田亮（訳）|培風館|978-4-563-05714-5

参考書

藤田和生　2007　動物たちのゆたかな心　京都大学学術出版会
他、適宜紹介する。

備考

特別研究（HHM89）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 23 HM
単位数	６．０単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

運動を含めた生活活動／生活環境が免疫機能に与える影響について，テーマの選定および研究を行い，修士論文を作成することを目的とする。【アクティブラーニング】先行研究および実施した研究の結果についてプレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について，他の先行報告の紹介を交え，ディスカッションする。【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して，先行研究論文（PDF）の提示，修士論文の添削を行う。【研究倫理教育】「先行研究調査」および「測定データ分析」を実施することから、授業内容には「不正行為を含めた研究活動の解説」を含む。

到達目標

1 設定した研究課題に対し，適切な方法を選択して実施・評価できる。
2 得られた結果に矛盾のない論旨展開して公表できる。

評価方法

中間報告３０％（到達目標１，２）および修士論文の発表内容７０％（到達目標１，２）により総合的に評価する。
上記の評価方法により，総合計６０点以上を合格とする。

注意事項

実験に関する諸手続き，発表や審査，論文提出などの日程を十分に把握しておくこと。
なお，本特別研究は分子生物学的手法を用いた研究活動となる。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：学術文献検索の方法と実践
3週目：先行類似研究の情報収集
4週目：先行類似研究の分析
5週目：研究テーマの検討
6週目：研究テーマの決定
7週目：研究方法・手技の検討
8週目：研究手技の習得1
9週目：研究手技の習得2
10週目：研究計画と研究倫理
11週目：実験研究1
12週目：実験研究2
13週目：実験研究3
14週目：研究進捗発表
15週目：実験研究4
16週目：実験研究5
17週目：実験研究6
18週目：研究データ分析
19週目：中間報告会
20週目：研究データ分析と追加実験の検討
21週目：論文作成開始
22週目：論文作成（結果セクション）
23週目：論文作成（方法セクション）
24週目：論文作成（考察セクション）
25週目：論文作成（序論セクション）
26週目：論文初稿提出
27週目：論文修正

28週目：最終稿提出
29週目：研究発表準備
30週目：研究発表

授業外学習

研究課題に関して，先行研究論文を中心に情報収集を行う。また，定期的に学会などで研究発表を行う。

教科書

指定なし

参考書

・運動と免疫 —からだをまもる運動のふしぎ-，大野秀樹，木崎節子 編，ナップ，2009

備考

特記事項なし

特別研究（HHM90）

通年

Special Research

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	２年
対象	23 ～ 23 HM
単位数	６． ０単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

小動物獣医療において、これまでに動物看護・保定の確立していない分野に対して、行動学的・生理学的手法を用いて新たな知見を得るために、各自が実験計画の立案、参考文献検索、データ解析を行い、論文を作成する。

到達目標

１. 研究課題を自分で見つけ出し、それに科学的にアプローチできる能力を身につける。
２. 専門性の高い研究成果を適切な用語で、かつ分かりやすく論旨展開して公表できる。

評価方法

修士論文発表会での口頭試問（到達目標2）及び修士論文（到達目標1）により評価する。
評価は、論文（70%）、口頭試問（30%）の重みで判定する。

注意事項

・9月に中間発表を行う。
・論文作成に必要な英語力も並行して身につけること。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：先行研究の精読
3週目：先行研究の精読
4週目：先行研究の精読
5週目：先行研究の精読
6週目：構想発表
7週目：実験・調査計画の立案
8週目：実験・調査計画の立案
9週目：実験・調査計画の実施
10週目：実験・調査計画の実施
11週目：実験・調査計画の実施
12週目：実験・調査計画の実施
13週目：統計解析 パラメトリック検定
14週目：統計解析 ノンパラメトリック検定
15週目：実験等の結果分析
16週目：実験等の結果分析
17週目：実験等の結果分析
18週目：実験等の考察
19週目：実験等の考察
20週目：実験等の考察
21週目：論文要旨作成 初稿
22週目：論文要旨作成 二校
23週目：論文要旨作成 三校
24週目：修士論文発表会の準備
25週目：修士論文発表会の準備
26週目：修士論文発表会の準備
27週目：修士論文発表会
28週目：論文加筆修正
29週目：論文加筆修正
30週目：修士論文提出

授業外学習

・既読の文献の内容を整理する。
・実験、調査を行い、それらを適切なかたちでまとめる。

教科書

使用しない。

参考書

適宜案内する。

備考

運動免疫学研究（HHM91）

通年

Research on Exercise Immunology

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 23 HM
単位数	４． ０単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

運動は生体の諸機能をダイナミックに変化させる行動であり，免疫機能も例外ではない。本講義では生体における免疫機能の仕組みを踏まえ，運動の影響について理解することを目的とする。【アクティブラーニング】先行研究を調査し、プレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について，他の先行報告の紹介を交え，ディスカッションする。【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して，授業資料および先行研究論文（PDF）を提示する。【研究倫理教育】「先行研究調査」を実施することから、授業内容には「不正行為を含めた研究活動の解説」を含む。

到達目標

1. 免疫機能の基本的な仕組みを理解する
2. 免疫機能に対する運動の影響について理解する

評価方法

課題レポート40%（到達目標１， ２）および口頭試問（到達目標１， ２）から評価する。レポートは教員が指定するテーマをもとにした，先行研究の検索および批判的レビューとする。総合点６０点以上を合格とする。

注意事項

当該分野では先行研究では日々新たな知見が報告されている。参考書による学習とともに，学術論文を自ら検索し，情報集することが必要である。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：免疫の役割
3週目：自然免疫とは？
4週目：自然免疫と運動-1（マクロファージ）
5週目：自然免疫と運動-2（顆粒球，リンパ球）
6週目：自然免疫と運動-3（PRR）
7週目：獲得免疫とは？
8週目：獲得免疫と運動-1（細胞性免疫）
9週目：獲得免疫と運動-2（液性免疫）
10週目：獲得免疫と運動-3（制御性T細胞）
11週目：運動と感染症-1（Jカーブ）
12週目：運動と感染症-2（唾液とIgA）
13週目：運動とホルモンと免疫
14週目：運動とサイトカイン
15週目：運動と慢性炎症-1（肥満症）
16週目：運動と慢性炎症-2（糖尿病）
17週目：運動と慢性炎症-3（動脈硬化）
18週目：運動と皮膚炎
19週目：自律神経と免疫
20週目：加齢と免疫
21週目：食物依存性運動誘発アナフィラキシー
22週目：骨格筋の損傷と修復-1（細胞浸潤）
23週目：骨格筋の損傷と修復-2（衛星細胞）
24週目：疾患モデル-1（肥満）
25週目：疾患モデル-2（アレルギー）
26週目：疾患モデル-3（炎症性疾患）
27週目：免疫細胞の分析法-1（遺伝子発現分析）
28週目：免疫細胞の分析法-2（タンパク質分析）
29週目：運動免疫学の展望と課題

30週目：総括，口頭試問およびレポート提出

授業外学習

予習：次回の授業テーマについて，参考書などを用いて概略をつかむ（各２時間）。

復習：授業内で紹介する資料などを用いて講義内容をまとめる（各１時間）。

提示された先行研究論文などを精読し，まとめたプレゼンテーション資料を作成する（３０時間）。

教科書

指定なし

参考書

・運動と免疫 -からだをまもる運動のふしぎ-，大野秀樹，木崎節子 編，ナップ，2009

備考

なし

動物看護学研究（HHM92）

通年

Research on Veterinary Nursing

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	23 ～ 23 HM
単位数	４． ０単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

言語をもたない動物の看護においては、動物の行動観察が重要となる。また、その動物を取り巻く環境で最も動物の生活に影響を与える人間の考えや心理を理解する必要がある。この講義では、動物看護を国際的に、かつ多面的・多角的に考えていく上で必要な知識を身に付ける。さらに、動物のストレスを把握するための行動学的・生理学的指標を学び、動物のストレスを軽減できる診療時の動物保定技術を学習する。

到達目標

１．動物看護の成り立ちや視点を理解し、様々な状況下における動物や人間に対するサポートについて説明できる。
２．動物のストレス評価に用いる生理学・行動学について説明できる。
３．動物のストレスを軽減できる保定技術について説明できる。

評価方法

講義時の討論・質疑応答及びプレゼンテーションにより評価する。評価は、プレゼンテーション70%（到達目標1、2、3を評価）、質疑応答30%（到達目標1、2、3を評価）の重みで判定する。

注意事項

・動物の行動学・生理学に関する概論を予め理解しておくこと。
・原則として課題提出の期限は厳守とする。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：動物看護総論 １）英国の動物看護
3週目：動物看護総論 ２）米国の動物看護
4週目：動物看護総論 ３）豪州の動物看護
5週目：動物看護総論 ４）アジアの動物看護
6週目：動物看護総論 ５）動物看護の定義
7週目：野生動物保護と地球環境問題
8週目：動物保護活動における動物看護の役割
9週目：自然災害と動物看護 １）初動体制
10週目：自然災害と動物看護 ２）中長期対策
11週目：国際紛争と動物看護
12週目：看護理論 １）Florence Nightingale
13週目：看護理論 ２）Virginia Henderson
14週目：動物看護理論 １）人と動物の比較
15週目：動物看護理論 ２）Ability Model
16週目：アニマルウェルフェアの行動学的指標 １）行動の観察 ethogram
17週目：アニマルウェルフェアの行動学的指標 ２）転位行動・常同行動
18週目： アニマルウェルフェアの生理学的指標 １）自律神経系の反応
19週目： アニマルウェルフェアの生理学的指標 ２）神経内分泌系の反応
20週目：動物看護学の基礎的手法 １）計画立案
21週目：動物看護学の基礎的手法 ２）記録方法
22週目：動物看護学の基礎的手法 ３）解析方法
23週目：診療時の動物保定 １）概論
24週目：診療時の動物保定 ２）基本の保定法
25週目：診療時の動物保定 ３）処置・検査
26週目：診療時の動物保定 ４）注射
27週目：診療時の動物保定 ５）静脈穿刺
28週目：診療時の動物保定 ６）呼吸循環・運動機能障害をもつ動物
29週目：診療時の動物保定 ７）攻撃性のある動物・興奮状態にある動物

30週目：まとめと質疑

授業外学習

・学習時間の目安：合計120時間

・英語論文をまとめ、プレゼンテーションを定期的に行う。

教科書

・応用動物看護学① 動物看護学概論 人間動物関係学 動物福祉・倫理|日本動物保健看護系大学協会カリキュラム委員会編|エデュワードプレス|978-4-86671-088-4

・小動物の実践保定法(応用編) |村尾信義|エデュワードプレス|978-4-89995-937-3

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

国際取引法特論Ⅰ（HHM93）

前期

International Transaction Law Special Lecture I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	河野正英

授業の概要

国際取引を理解するには、経済活動に関する知識だけでは足りず、各国・各地域の政治的傾向やその国・地域の持つ社会的特質についても知っておく必要がある。この研究では世界全体に共通する事象と地域的な特色とを組み合わせて国際取引について理解を進めて行く。国際取引の枠組みに関係する国際的枠組みや資本市場に大きな影響のある政策について理解することで、国際取引の将来像も掴めるようになる。

この科目は危機管理学系の科目であり、この科目では危機管理学に関連する上記の知識・技能を身につける。

アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」「ディベート」を取り入れている。このうちで最も重視するのがディベートで、自分の考えを分かりやすく言葉にする力を養いたい。

到達目標

1. 国際取引の原理を理解し、説明出来る。
2. 世界経済・社会の現状について理解し、説明出来る。
3. 日本の経済だけでなく社会的・文化的特質を理解し、説明出来る。

評価方法

授業の予習・復習の態度：評価割合30%（各小テーマ毎に到達目標を確認）
授業時間内の応答：評価割合30%（各小テーマ毎に到達目標を確認）
まとめレポート：評価割合40%（到達目標を確認）
＊合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

第１回 大学院での授業の進め方について説明する。第１回目として国際取引の特徴全般について説明し、次回以降の大枠のテーマと各回毎の小テーマについて説明する。
第２回 日本経済・社会の現状と今後の課題について研究する。この大枠のテーマについての研究は第11回までを予定しており、今回の小テーマとしては戦後の経済秩序について概観する。
第３回 日本経済・社会の現状と今後の課題の２回目。今回の小テーマとしては日本経済の特徴について検討する。
第４回 日本経済・社会の現状と今後の課題の３回目。今回の小テーマとしては戦前の財閥と戦後の日本企業のグループ化について検討する。
第５回 日本経済・社会の現状と今後の課題の４回目。今回の小テーマとしては日本の労働市場について検討する。
第６回 日本経済・社会の現状と今後の課題の５回目。今回の小テーマとしては日本の経営理念について検討する。
第７回 日本経済・社会の現状と今後の課題の６回目。今回の小テーマとしては金融市場の変遷と証券会社・銀行の業務内容の違いについて検討する。
第８回 日本経済・社会の現状と今後の課題の７回目。今回の小テーマとしては日本政府の負債と保有資産について検討する。
第９回 日本経済・社会の現状と今後の課題の８回目。今回の小テーマとしては日本企業のキャッシュ・フローについて検討する。
第10回 日本経済・社会の現状と今後の課題の９回目。今回の小テーマとしては日本国内における個人保有の資産について検討する。
第11回 日本経済・社会の現状と今後の課題の10回目。今回の小テーマとしては政府のあり方・経済政策・福祉政策について検討する。
第12回 世界経済全般についての課題を研究する。この大枠のテーマについての研究は第21回までを予定しており、今回の小テーマとしては2008年リーマンショック以後の財政と税の問題について検討する。
第13回 世界経済全般についての課題の２回目。今回の小テーマとしては金融と直接投資について検討する。
第14回 世界経済全般についての課題の３回目。今回の小テーマとしては資本移動と多国籍企業の活躍、労働市場の流動化について検討する。
第15回 世界経済全般についての課題の４回目。今回の小テーマとしてはGDP・市場規模と国民生活について検討する。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

第１回 大学院での授業の進め方について説明があるので、今後の予習・復習の進め方と学習時間についてよく計画すること。（標準学習時間120分）

第２回 予習：日本経済・社会の現状について各自で調査し、考える力を身につけるようにする。復習：戦後の経済秩序について概観したので、ノートによく整理し、場合によっては図解して自分の言葉で説明出来るようになること。（標準学習時間120分）
第３回　予習：日本経済の特徴について調べておき、予め一定の知識を持つように努める。復習：特に労使関係や技術開発投資の歴史について整理しておくこと。（標準学習時間120分）
第４回 予習：戦前の財閥と戦後の日本企業のグループについて調べておく。復習：現在の企業グループは流動化していることを理解し、新興企業の勃興と躍進が経済を活性化させることを理解するようになる。（標準学習時間120分）
第５回 予習：アベノミクス前後で雇用者数/失業率がどのように変化したかを予習して調べておく。復習：金融政策と労働市場が高い相関関係にあることを理解し、マスメディアの報道がなぜその逆であったかの理由をよく考える。（標準学習時間120分）
第６回 予習：日本の経営者と欧米の経営者の考え方の違いがどこから来るかを予め考えておく。復習：日本の経営者の経営理念について理解し、今後の企業経営がどうあるべきかを具体的に予測出来るようになる。（標準学習時間120分）
第７回 予習：日本では個人資産のほとんどが不動産と銀行預金であった理由を自分なりに考えておく。復習：金融市場の変遷と証券会社・銀行の業務内容の違いについて理解し、個人の資産形成にとって有利な方法を予測出来るようになる。（標準学習時間120分）
第８回 予習：マスコミ報道の内容が実際と異なることを自分で調べ、予備知識として持っておくようにする。復習：日本政府の負債と保有資産について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第９回 予習：特に90年代以降に日本企業がキャッシュ・フローを重視する経営に切り替えてきたことを調べておくようにする。復習：日本企業の持つキャッシュ・フローの大きさについて理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第10回 予習：90年代以降にマスメディアでは盛んに日本社会の分断や格差社会というテーマを扱ってきたが、現状はどうなっているのかを調べておくようにする。復習：日本国内における個人保有の資産について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第11回 予習：資本主義においては民間の企業活動に対する政府の役割は小さいはずであるが、戦後の日本社会においては政府の力が大きかったことを調べておくようにする。復習：政府のあり方・経済政策・福祉政策について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第12回 予習：世界経済全般について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：リーマンショック以後の財政と税の問題について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第13回 予習：金融と実体経済との関係について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：金融と直接投資について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第14回 予習：多国籍企業とは何かから始まって、現在の世界経済の実態を自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：資本移動と多国籍企業の活躍、労働市場の流動化について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第15回 予習：60年代〜80年代〜2000年代と日本のGDPがどのように変化してきたかを自分でグラフ化してみるようにする。復習：GDP・市場規模と国民生活について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）

教科書
授業内で指示する。

参考書
授業内で指示する。

備考
特になし。

国際取引法特論Ⅱ（HHM94）

後期

International Transaction Law Special Lecture II

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	河野正英

授業の概要

国際取引を理解するには、経済活動に関する知識だけでは足りず、各国・各地域の政治的傾向やその国・地域の持つ社会的特質についても知っておく必要がある。この研究では世界全体に共通する事象と地域的な特色とを組み合わせて国際取引について理解を進めて行く。国際取引の枠組みに関係する国際的枠組みや資本市場に大きな影響のある政策について理解することで、国際取引の将来像も掴めるようになる。

この科目は危機管理学系の科目であり、この科目では危機管理学に関連する上記の知識・技能を身につける。

アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」「ディベート」を取り入れている。このうちで最も重視するのがディベートで、自分の考えを分かりやすく言葉にする力を養いたい。

到達目標

1. アジア地域（東アジア・東南アジア・南アジア）の現状について理解し、説明出来る。
2. 企業経営について理解し、説明出来る。
3. 金融と実体経済の兼ね合いについて理解し、説明出来る。
4. イノベーションについて理解し、説明出来る。

評価方法

授業の予習・復習の態度：評価割合30%（各小テーマ毎に到達目標を確認）
授業時間内の応答：評価割合30%（各小テーマ毎に到達目標を確認）
まとめレポート：評価割合40%（到達目標を確認）
＊合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

第１回 世界経済全般についての課題の続き。今回の小テーマとしては通貨と貿易、ベーシックインカム論について検討する。
第２回 世界経済全般についての課題の６回目。今回の小テーマとしては経済成長と金価格、不動産価格との相関について検討する。
第３回 世界経済全般についての課題の７回目。今回の小テーマとしては国家資本主義と私有財産制について検討する。
第４回 世界経済全般についての課題の８回目。今回の小テーマとしては資本主義の長短と民主主義システムとの兼ね合いについて検討する。
第５回 世界経済全般についての課題の９回目。今回の小テーマとしては金融危機と経済危機との相関について検討する。
第６回 世界経済全般についての課題の10回目。今回の小テーマとしてはイノベーションによる既存の国家体制への揺さぶりについて検討する。
第７回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題を研究する。この大枠のテーマについての研究は第28回までを予定しており、今回の小テーマとしては各地域の安全保障体制と経済の特徴、人口問題について検討する。
第８回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の２回目。今回の小テーマとしては朝鮮半島情勢の推移と中国の地域覇権国化について検討する。
第９回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の３回目。今回の小テーマとしては人口増大と投資活動の活発化について検討する。
第10回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の４回目。今回の小テーマとしては環境問題（地球温暖化）と経済成長、CO2回収技術の向上について検討する。
第11回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の５回目。今回の小テーマとしては日本企業の持つ素材技術、省エネ技術が東アジアの発展の問題点を解決するヒントとなる点を検討する。
第12回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の６回目。今回の小テーマとしては増大する人口とインフラ投資について検討する。
第13回 アジア経済（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域経済）の課題の７回目。今回の小テーマとしてはアジアの歴史と文化について知り、これと日本の歴史との関わり合いについて検討する。
第14回 国際経済全般の将来像についての予測が出来るかどうかを２回に分けて検討したい。まず世界人口の推移、各国GDPの推移、地域覇権国の入れ替わり、政治システムの変化、農業へのバイオテクノロジーの導入、生産性革命、エネルギー革命などについて検討する。

第15回 国際経済全般の将来像についての予測が出来るかどうかの検討の続き。今回のテーマとしてはAI化と自動化、農業の工業化・自動化と生産性の向上、自動化と社会システムの変化、既存の政治システムの行き詰まり、社会の中における人間関係の変化、家族観の変化、労働に対する価値観の変化などを検討する。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

第１回 予習：究極の福祉政策とも呼ばれるベーシックインカム論について、予備知識を持っておくようにする。復習：通貨と貿易、ベーシックインカム論について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第２回 予習：急速にキャッシュレス化に向かっているおカネの世界において、おカネとは何か、資産とは何かを予め考えておくようにする。復習：経済成長と金価格、不動産価格との相関について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第３回 予習：90年代以降には民主制を否定ないしは無視する国家資本主義が一定の成功を収めた。その理由について自分で調べ、自分なりの考えを持っておくようにする。復習：国家資本主義と私有財産制について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第４回 予習：20世紀は資本主義と社会主義との闘いであったが、21世紀にはネット社会の急激な進展に伴い、資本主義やこれを支える民主主義自体への信頼が揺らぐようになった。現状について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：資本主義の長短と民主主義システムとの兼ね合いについて理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第５回 予習：金融危機と経済危機について調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：金融危機と経済危機との相関について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第６回 予習：産業革命が経済だけでなく社会システムそのものの変化を促すことが知られている。過去に起きた産業革命について調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：イノベーションによる既存の国家体制への揺さぶりについて理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第７回 予習：東アジアの政治と経済、東南アジアの政治・経済・文化、南アジアの政治・経済・文化について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：各地域の安全保障体制と経済の特徴、人口問題について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第８回 予習：朝鮮半島の歴史と現状について、および中国の文化と日本との差異について自分で調べ、一定の予備知識を持っておくようにする。復習：朝鮮半島情勢の推移と中国の地域覇権国化について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第９回 予習：アジア地域（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域）について自分で調べ、経済活動の現状について予備知識を持っておくようにする。復習：アジア地域における人口増大と投資活動の活発化について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第10回 予習：アジア地域（東アジア・東南アジア・南アジアの各地域）における環境汚染および温暖化ガス排出の問題について自分で調べ、予め一定の知識を持っておくようにする。復習：公害問題・地球温暖化と経済成長、新技術としてのCO2回収技術の進展について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第11回 予習：日本企業の持つ技術的特色としての省エネ技術について調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：日本企業の持つ素材技術、省エネ技術について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第12回 予習：21世紀がアジアの時代だと言われる理由について自分で調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：増大する人口とインフラ投資について理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第13回 予習：日本の特色（特に社会・経済・文化）について調べ、予備知識を持っておくようにする。復習：アジアの歴史と文化、これとの日本の歴史との関わり合いについて理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）
第14回 予習：第４次産業革命とも呼ばれるイノベーションの時代における諸問題について予備知識を持っておくようにする。復習：世界人口の推移、各国GDPの推移、地域覇権国の入れ替わり、政治システムの変化、農業へのバイオテクノロジーの導入、生産性革命、エネルギー革命など、あらゆる分野で変化が起きることを理解し、自分なりの考えを図式化して次回に備える。（標準学習時間120分）
第15回 予習：イノベーションの時代における諸問題について引き続き検討するので、前回の検討内容よりもさらに詳しく予備知識を高めるようにする。復習：AI化や自動化が進むことで結果的に社会システムそのものが変化し、人の価値観そのものが変化することになることを理解し、自分の考えをまとめる。（標準学習時間120分）

教科書

授業内で指示する。

参考書

授業内で指示する。

備考

特になし。

経営リスク特論Ⅰ（HHM95）

前期

Special Lecture on Management Risk I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

私たちを取り巻くリスクは、多様化・高度化・複雑化している。これまで経営リスクは、損失の発生可能性を中心に議論されていたが、現在は、企業目標に影響を与える可能性として、マイナスの影響とプラスの影響を検討する必要性が議論されるようになった。本講義では、多様化するリスクに対する対策と組織価値向上のための考え方や手法について修得する。

この科目は危機管理学系の科目であり、この科目では危機管理学に関連する上記の知識・技能を身につける。

【アクティブラーニング】事例調査、ディスカッション、プレゼンテーションを予定している。
【フィードバック】】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

１．リスクマネジメントの概念・理論を理解する
２．マネジメントプロセスと特徴について、理解する
３．効果的なリスクマネジメント導入とその課題について、理解する

評価方法

ディスカッションへの積極的な参加及びレポートにより評価する。
評価は、ディスカッション４０％（到達目標１を評価）、レポート６０％（到達目標２、３を評価）、の重みで判定する。

注意事項

リスクマネジメントの基礎知識をもっていることがのぞましい。

授業計画

回数	内容
第1回	リスクとリスクマネジメントの変遷１
第2回	リスクとリスクマネジメントの変遷２
第3回	現代企業の経営リスク環境
第4回	経営リスクの概念・手法
第5回	企業価値の基本構造とリスク
第6回	リスクの統合・リスクの最適化
第7回	組織目標とリスクマネジメントの連動
第8回	リスクマネジメント・プロセスの特徴
第9回	リスク・コミュニケーション
第10回	リスク情報の開示と企業価値
第11回	リスクマネジメントの企業導入と課題
第12回	海外事例にみる効果的導入
第13回	リスクの理解
第14回	レポート発表１
第15回	レポート発表２

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習をしておくこと。

復習：紹介する参考図書・文献にあたり、講義内容をまとめる。課題レポートを作成する

教科書

レジュメを配布する。必要に応じて授業内で指示する

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

特になし

経営リスク特論Ⅱ（HHM96）

後期

Special Lecture on Management Risk II

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

私たちを取り巻くリスクは、多様化・高度化・複雑化している。これまで経営リスクは、損失の発生可能性を中心に議論されていたが、現在は、企業目標に影響を与える可能性として、マイナスの影響とプラスの影響を検討する必要性が議論されるようになった。本講義では、多様化するリスクに対する対策と組織価値向上のための考え方や手法について修得する。

【アクティブラーニング】事例調査、ディスカッション、プレゼンテーションを予定している。
【フィードバック】】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

１．リスクマネジメントの概念・理論を理解する
２．マネジメントプロセスと特徴について、理解する
３．効果的なリスクマネジメント導入とその課題について、理解する
４．BCP、BCMの概念について理解する

評価方法

ディスカッションへの積極的な参加及びレポートにより評価する。
評価は、ディスカッション３０％（到達目標１を評価）、レポート４０％（到達目標２、３を評価）、発表３０％（到達目標4を評価）の重みで判定する。

注意事項

リスクマネジメントの基礎知識をもっていることがのぞましい。

授業計画

回数	内容
第1回	企業価値創造型リスクマネジメント
第2回	リスクリテラシーとリスクガバナンス
第3回	保険・デリバティブ（確率の計算）
第4回	保険・デリバティブ（保険の原理）
第5回	保険・デリバティブ（期待効用仮説）
第6回	自然災害と経営リスク
第7回	犯罪と経営リスク
第8回	信頼と経営リスク
第9回	事業継続計画（BCP）とは
第10回	BCP策定のステップ
第11回	BCP策定①
第12回	BCP策定②
第13回	BCP策定③とディスカッション
第14回	事業継続マネジメントシステム（BCM）とは
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習をしておくこと。

復習：紹介する参考図書・文献にあたり、講義内容をまとめる。課題レポートを作成する

教科書

レジュメを配布する。必要に応じて授業内で指示する

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

特になし

情報リスク特論Ⅰ（HHM97）

前期

Information Risk Special Lecture I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	村山公保

授業の概要

情報リスクを考える上での基礎となる情報セキュリティとその安全性について幅広い視点から学ぶ。具体的には暗号技術、認証、バイオメトリック、サイバーセキュリティ、情報セキュリティマネジメントシステム、デジタルフォレンジック、法と倫理等について、発表と討論を通して学ぶ。

この科目は危機管理学系の科目であり、この科目では危機管理学に関連する上記の知識・技能を身につける。

到達目標

1. 情報セキュリティについて幅広い観点から理解し、情報リスクについて他人と議論するための土台を構築する。

評価方法

・レポート60%(到達目標の1を評価)、定期試験40%(到達目標の1を評価)の重みで判定する。優秀なものがより実力を高められるように、特別課題と発表で評価する場合もある。

注意事項

・まとめてきた資料は最終的にはレポートとして提出する。

授業計画

回数	内容
第1回	情報セキュリティの概要
第2回	暗号技術の基礎
第3回	暗号技術-共通鍵暗号-(1)共通鍵暗号技術
第4回	暗号技術-共通鍵暗号-(2)安全性
第5回	暗号技術-公開鍵暗号-(1)公開鍵暗号技術
第6回	暗号技術-公開鍵暗号-(2)デジタル署名と認証、安全性
第7回	デジタル署名とPKI(1)認証とは
第8回	デジタル署名とPKI(2)PKIの応用分野
第9回	セキュア実装(1)セキュアプロトコル
第10回	セキュア実装(2)ハードウエア実装
第11回	情報ハイディング技術(1)情報ハイディングとは
第12回	情報ハイディング技術(2)情報ハイディングの今後
第13回	バイオメトリック(1)バイオメトリクスとは
第14回	バイオメトリック(2)IoT・AI・ビッグデータ、FIDO
第15回	サイバーセキュリティ技術(1)サイバーセキュリティの概要

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・この講義は、受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習を行い、学んだことを資料にまとめてくること。
・日頃から情報セキュリティや情報リスクについて意識するようにする。

教科書

瀬戸洋一、佐藤尚宜、越前功、中田亮太郎、織茂昌之、長谷川久美、渡辺慎太郎、小檜山智久、村上康二郎著、「改訂版 情報セキュリティ概論」、日本工業出版、2019、978-4-8190-3103-5

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

特になし

情報リスク特論Ⅱ（HHM98）

後期

Information Risk Special Lecture II

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	村山公保

授業の概要

情報リスクを考える上での基礎となる情報セキュリティとその安全性について幅広い視点から学ぶ。具体的には暗号技術、認証、バイオメトリック、サイバーセキュリティ、情報セキュリティマネジメントシステム、デジタルフォレンジック、法と倫理等について、発表と討論を通して学ぶ。

到達目標

1. 情報セキュリティについて幅広い観点から理解し、情報リスクについて他人と議論するための土台を構築する。

評価方法

・レポート60%(到達目標の1を評価)、定期試験40%(到達目標の1を評価)の重みで判定する。優秀なものがより実力を高められるように、特別課題と発表で評価する場合もある。

注意事項

・まとめてきた資料は最終的にはレポートとして提出する。

授業計画

回数	内容
第1回	サイバーセキュリティ技術(1)サイバーセキュリティの概要
第2回	サイバーセキュリティ技術(2)攻撃と防御の考え方
第3回	サイバーセキュリティ技術(3)最新の技術動向
第4回	情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)および情報セキュリティ監査(1)ISMSとは
第5回	情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)および情報セキュリティ監査(2)ISMS に関連する国内制度
第6回	CC(ISO/IEC15408)と情報システムセキュリティ対策の設計・実装(1)CCの概要
第7回	CC(ISO/IEC15408)と情報システムセキュリティ対策の設計・実装(2)CC策定の歴史と国内制度
第8回	個人情報保護技術(1)個人情報とプライバシー
第9回	個人情報保護技術(2)各国、国際機関における個人情報保護の動向
第10回	デジタルフォレンジック技法(1)デジタルフォレンジック技法の概要
第11回	デジタルフォレンジック技法(2)フォレンジック技法の応用
第12回	IoTセキュリティ(1)IoTとはなにか
第13回	IoTセキュリティ(2)IoTセキュリティの課題
第14回	法と倫理(1)情報セキュリティと法
第15回	法と倫理(2)情報セキュリティと倫理

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・この講義は、受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習を行い、学んだことを資料にまとめてくること。
・日頃から情報セキュリティや情報リスクについて意識するようにする。

教科書

瀬戸洋一、佐藤尚宜、越前功、中田亮太郎、織茂昌之、長谷川久美、渡辺慎太郎、小檜山智久、村上康二郎著、「改訂版 情報セキュリティ概論」、日本

工業出版、2019、978-4-8190-3103-5

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

特になし

健康運動科学特論Ⅰ（HHM99）

前期

Special Lecture on Health Exercise Science I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

本講義は、生涯を通じて健康に生活するための知識を身につけ、科学的興味をもって理解を深化することを目的とする。特に運動を中心とした生活習慣が健康にどのように寄与するかを理解する。健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。
【アクティブラーニング】ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。
【フィードバック】レポートやプレゼンテーションに対してフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1.健康に関して幅広い知識を身につけ、相手に伝えることができる。

評価方法

評価は、課題レポート（５０％）、調査発表（３０％）、創造性と構成力（２０％）によって総合的に判定する。
上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

レポートは、個々に課題レポートを提示する。
調査発表は、課題レポート作成に関する内容で定期的に口頭発表を行う。

授業計画

1週目：オリエンテーション（講義概要、授業計画及び方法他）
2週目：健康とは
3週目：健康生活の条件
4週目：骨格筋の構造と機能（I）
5週目：骨格筋の構造と機能（II）
6週目：神経系による運動の調整（I）
7週目：神経系による運動の調整（II）（課題レポートⅠ提示）
8週目：運動時のホルモン分泌
9週目：運動時のエネルギー代謝（I）
10週目：運動時のエネルギー代謝（II）
11週目：運動時の呼吸循環（I）
12週目：運動時の呼吸循環（II）
13週目：運動による筋の肥大と損傷（課題レポートII提示）
14週目：口頭発表会
15週目：まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間（予習、復習及び文献検索、レポート作成、測定実験）
本講義は、人体の仕組みと機能、また運動に対する生体反応について解説するため、運動生理学的な文献検索と理解、さらには講義時間外の測定実験により専門的な知識の向上に努める。

教科書

プリント等を適宜配布する。

参考書

勝田茂「運動生理学20講」（朝倉書店）

備考

健康運動科学特論Ⅱ（HHMA1）

後期

Special Lecture on Health Exercise Science II

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

本講義は、生涯を通じて健康に生活するための知識を身につけ、科学的興味をもって理解を深化することを目的とする。特に運動を中心とした生活習慣が健康にどのように寄与するかを理解する。健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。
【アクティブラーニング】ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。
【フィードバック】レポートやプレゼンテーションに対してフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1.健康に関して幅広い知識を身につけ、相手に伝えることができる。

評価方法

評価は、課題レポート（５０％）、調査発表（３０％）、創造性と構成力（２０％）によって総合的に判定する。
上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

レポートは、個々に課題レポートを提示する。
調査発表は、課題レポート作成に関する内容で定期的に口頭発表を行う。

授業計画

1週目：高強度運動時のエネルギー代謝（I）
2週目：高強度運動時のエネルギー代謝（II）
3週目：運動と環境
4週目：運動時の水分・栄養摂取
5週目：運動と骨代謝
6週目：健康と運動の関係（課題レポートIII提示）
7週目：運動と発育発達
8週目：加齢と運動
9週目：加齢と姿勢制御（課題レポート IV提示）
10週目：口頭発表会
11週目：運動と生活習慣病（I）
12週目：運動と生活習慣病（II）
13週目：運動処方（課題レポートV提示）
14週目：口頭発表会
15週目：まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間（予習、復習及び文献検索、レポート作成、測定実験）
本講義は、人体の仕組みと機能、また運動に対する生体反応について解説するため、運動生理学的な文献検索と理解、さらには講義時間外の測定実験により専門的な知識の向上に努める。

教科書

プリント等を適宜配布する。

参考書

勝田茂「運動生理学20講」（朝倉書店）

備考

運動処方特論Ⅰ（HHMA2）

前期

Exercise Prescription Special Lecture I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	猪木原孝二

授業の概要

運動処方の実際について教授する。特に年齢・性差の違いによる注意事項について解説し、対象者に応じた運動処方（トレーニング、運動の種類）、メディカルチェック等の判断について理解を深める。

この科目は健康科学系の科目であり、この科目では健康科学に関連する上記の知識・技能を身につける。

到達目標

個人・年齢・性差における運動処方の実際について把握する力を身につける。

評価方法

授業に取り組む姿勢（２０％）およびレポート（８０％）で評価する。

注意事項

特になし

授業計画

１．オリエンテーション
２．運動処方とは
３．身体計測・体力診断の方法１
４．身体計測・体力診断の方法 ２
５．メディカルチェックの必要性について１
６．メディカルチェックの必要性について２
７．性差における運動処方について１
８．性差における運動処方について ２
９．性差における運動処方について３
１０．性差における運動処方について４
１１．個人にあった運動強度について１
１２．個人にあった運動強度について２
１３．個人にあった運動頻度について３
１４．課題レポートの指導
１５．課題レポートの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業外学習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない

備考

運動処方特論Ⅱ（HHMA3）

後期

Exercise Prescription Special Lecture II

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	猪木原孝二

授業の概要

運動処方の実際について教授する。特に年齢・性差の違いによる注意事項について解説し、対象者に応じた運動処方（トレーニング、運動の種類）、メディカルチェック等の判断について理解を深める。

到達目標

個人・年齢・性差における運動処方の実際について把握する力を身につける。

評価方法

授業に取り組む姿勢（２０％）およびレポート（８０％）で評価する。

注意事項

特になし

授業計画

１．個人にあった運動強度について４
２．個人にあった運動時間について５
３．個人にあった運動強度について６
４．年齢と運動処方１
５．年齢と運動処方２
６．年齢と運動処方３
７．年齢と運動処方４
８．運動種目の選択について１
９．運動種目の選択について２
１０．安全対策について１
１１．安全対策について２
１２．コンディショニングについて１
１３．コンディショニングについて２
１４．課題レポートの指導
１５．課題レポートの提出

授業外学習

授業外学習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない

備考

運動免疫学特論Ⅰ（HHMA4）

前期

Exercise Immunology Special Lecture I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

運動は生体の諸機能をダイナミックに変化させる行動であり，免疫機能も例外ではない。本講義では生体における免疫機能の仕組みを踏まえ，運動の影響について理解することを目的とする。

この科目は健康科学系の科目であり、この科目では健康科学に関連する上記の知識・技能を身につける。

【アクティブラーニング】先行研究を調査し、プレゼンテーションする場を設ける。
【フィードバック】プレゼンテーションの内容について，他の先行報告の紹介を交え，ディスカッションする。
【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して，授業資料および先行研究論文（PDF）を提示する。
【研究倫理教育】「先行研究調査」を実施することから、授業内容には「不正行為を含めた研究活動の解説」を含む。

到達目標

1 免疫機能の基本的な仕組みを理解する
2 免疫機能に対する運動の影響について理解する

評価方法

課題レポート40%（到達目標１，２）および口頭試問（到達目標１，２）から評価する。レポートは教員が指定するテーマをもとにした，先行研究の検索および批判的レビューとする。総合点６０点以上を合格とする。

注意事項

当該分野では先行研究では日々新たな知見が報告されている。参考書による学習とともに，学術論文を自ら検索し，情報集することが必要である。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：免疫の役割
3週目：自然免疫とは？
4週目：自然免疫と運動-1（マクロファージ）
5週目：自然免疫と運動-2（顆粒球，リンパ球）
6週目：自然免疫と運動-3（PRR）
7週目：獲得免疫とは？
8週目：獲得免疫と運動-1（細胞性免疫）
9週目：獲得免疫と運動-2（液性免疫）
10週目：獲得免疫と運動-3（制御性T細胞）
11週目：運動と感染症-1（Jカーブ）
12週目：運動と感染症-2（唾液とIgA）
13週目：運動とホルモンと免疫
14週目：運動とサイトカイン
15週目：総括，口頭試問およびレポート提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習：次回の授業テーマについて，参考書などを用いて概略をつかむ（各２時間）。
復習：授業内で紹介する資料などを用いて講義内容をまとめる（各１時間）。
提示された先行研究論文などを精読し，まとめたプレゼンテーション資料を作成する（３０時間）。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

・運動と免疫 -からだをまもる運動のふしぎ-，大野秀樹，木崎節子 編，ナップ，2009

備考

なし

運動免疫学特論Ⅱ（HHMA5）

後期

Exercise Immunology Special Lecture II

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

運動は生体の諸機能をダイナミックに変化させる行動であり，免疫機能も例外ではない。本講義では「運動免疫学特論I」を基礎として、生体における免疫機能の仕組みと運動の影響について理解することを目的とする。【アクティブラーニング】先行研究を調査し、プレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について，他の先行報告の紹介を交え，ディスカッションする。【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して，授業資料および先行研究論文（PDF）を提示する。【研究倫理教育】「先行研究調査」を実施することから、授業内容には「不正行為を含めた研究活動の解説」を含む。

到達目標

1. 免疫機能の基本的な仕組みを理解する
2. 免疫機能に対する運動の影響について理解する

評価方法

課題レポート40%（到達目標１，２）および口頭試問（到達目標１，２）から評価する。レポートは教員が指定するテーマをもとにした，先行研究の検索および批判的レビューとする。総合点６０点以上を合格とする。

注意事項

前期科目「運動免疫学特論I」を受講した上で履修・受講すること。

授業計画

1週目：運動と慢性炎症-1（肥満症）
2週目：運動と慢性炎症-2（糖尿病）
3週目：運動と慢性炎症-3（動脈硬化）
4週目：運動と皮膚炎
5週目：自律神経と免疫
6週目：加齢と免疫
7週目：食物依存性運動誘発アナフィラキシー
8週目：骨格筋の損傷と修復-1（細胞浸潤）
9週目：骨格筋の損傷と修復-2（衛星細胞）
10週目：疾患モデル-1（肥満）
11週目：疾患モデル-2（アレルギー）
12週目：疾患モデル-3（炎症性疾患）
13週目：免疫細胞の分析法-1（遺伝子発現分析）
14週目：免疫細胞の分析法-2（タンパク質分析）
15週目：総括，口頭試問およびレポート提出

授業外学習

予習：次回の授業テーマについて，参考書などを用いて概略をつかむ（各２時間）。
復習：授業内で紹介する資料などを用いて講義内容をまとめる（各１時間）。
提示された先行研究論文などを精読し，まとめたプレゼンテーション資料を作成する（３０時間）。

教科書

教科書を使用しない。

参考書

・運動と免疫 -からだをまもる運動のふしぎ-，大野秀樹，木崎節子 編，ナップ，2009

備考

なし

生活習慣病予防特論Ⅰ（HHMA6）

前期

Special Lecture on Prevention of Lifestyle-related Diseases I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

生活習慣病の概念、成因、発症機序、症状、治療法について理解することを目的とする。

この科目は健康科学系の科目であり、この科目では健康科学に関連する上記の知識・技能を身につける。

到達目標

生活習慣病の発症機序に関して幅広い知識を身につけ他者に詳しく説明できる。

評価方法

発表７０％、討論参加３０％として総合評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	成人病から生活習慣病への変遷
第3回	生活習慣病の実態１　虚血性心疾患
第4回	生活習慣病の実態２　脳卒中
第5回	生活習慣病の実態３　がん
第6回	生活習慣病の実態４　糖尿病
第7回	生活習慣と危険因子１　高脂血症
第8回	生活習慣と危険因子２　高血圧
第9回	生活習慣と危険因子３　喫煙
第10回	生活習慣と危険因子４　動脈硬化
第11回	生活習慣と危険因子５　糖尿病の血管障害
第12回	生活習慣と危険因子６　肥満と循環器合併症
第13回	Multiple risk factors1
第14回	Multiple risk factors 2 死のカルテット
第15回	総括質疑

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎回討論のための予備学習をしておくこと。最新の英語論文を国際ジャーナルから自ら検索、入手し読解、吟味しておく。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

備考

生活習慣病予防特論Ⅱ（HHMA7）

後期

Lifestyle-related disease prevention special course II

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

特論Ⅰでの生活習慣病の成因、症状、治療法について理解をもとに、さらに危険因子の関連機序を検討し、生活習慣病の発症予防、進行抑制の可能性について理解を深め、研究方法などを学ぶ。

到達目標

生活習慣病における危険因子、発症予防に関して幅広い知識を身につけ他者に詳しく説明できる。

評価方法

発表７０％、討論参加３０％として総合評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	高血圧と生活習慣1 食塩
第3回	高血圧と生活習慣2 肥満
第4回	高血圧と生活習慣3 運動
第5回	高血圧と生活習慣4 アルコール
第6回	高血圧と生活習慣5 ストレス
第7回	動脈硬化と生活習慣1 肥満
第8回	動脈硬化と生活習慣2 運動
第9回	動脈硬化と生活習慣3 タバコ
第10回	糖尿病と生活習慣１ インスリン抵抗性
第11回	糖尿病と生活習慣２ 血管合併症
第12回	糖尿病と生活習慣３ 非薬物療法
第13回	糖尿病と生活習慣４ 患者教育
第14回	今後の展望
第15回	総括質疑

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎回討論のための予備学習をしておくこと。最新の英語論文を国際ジャーナルから自ら検索、入手し読解、吟味しておく。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

備考

健康と食生活特論Ⅰ（HHMA8）

前期

Special Lecture on Health and Diet I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	矢田貝智恵子

授業の概要

健康管理に関わる基本的な機器の操作、測定方法、データ解析方法を習得し、定期的に計測することで、自己の健康管理、身体づくりを行う。
健康分野の高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1 体成分分析や骨密度測定などの操作ができ、結果を評価することができる。
2 日常生活の中で自己の健康状態を把握するにはどのようにするかを理解し、説明できる。
3 自己の身体組成の結果に基づいて、評価、判定を行うことができる。

評価方法

機器操作20%（到達目標1）、分析結果の判定および評価30%（到達目標2）、レポート50%（到達目標3）に基づいて総合的に評価する。

注意事項

・講義「食生活と健康の研究」を履修のこと。
・定期的に進捗状況を報告すること。

授業計画

第１週 オリエンテーション
第２週 体成分分析装置の説明および機器操作
第３週 体成分析の結果および評価
第４週 文献調査とディスカッション
第５週 レポート提出および質疑応答
第６週 骨密度測定機器の説明および機器操作
第７週 骨密度測定結果および評価
第８週 文献調査とディスカッション
第９週 レポート提出および質疑応答
第10週 血液成分分析機器の説明および機器操作
第11週 血液成分分析結果および評価
第12週 文献調査とディスカッション
第13週 レポート提出および質疑応答
第14週 まとめ
第15週 レポート提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・定期的に体成分分析を行い、毎日の生活の中で、健康の維持増進のための事項を実践する。
・関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、レポート作成に取り組む。

教科書

なし

参考書

適宜紹介・配布する。

備考

健康と食生活特論Ⅱ（HHMA9）

後期

Special Lecture on Health and Diet II

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	矢田貝智恵子

授業の概要

健康増進・スポーツ時などにおける健康管理の方法などを調査、分析し、その結果に基づいて実験・研究計画の立案、実施、評価、判定を行う能力を養う。

健康分野の高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1 健康増進・スポーツ活動時などにおける健康管理の方法を学び、説明できる。

2 健康管理について、調査・分析し、その結果に基づいて実験・研究計画の立案、実施、評価、判定を行うことができる。

評価方法

レポート70%（到達目標1、2）、口頭試問30%（到達目標1）に基づき総合的に評価する。

注意事項

・「食生活と健康の研究」、「健康と食生活特Ⅰ」を履修のこと。

・定期的に進捗状況を報告すること。

授業計画

第１週 オリエンテーション

第２週 健康増進における健康管理の方法

第３週 文献調査とディスカッション

第４週 スポーツ活動時における健康管理の方法

第５週 文献調査とディスカッション

第６週 テーマの設定

第７週～第11週 テーマに沿った調査・実験実施

第12週 調査・実験の評価・判定

第13週 調査・実験のまとめ

第14週 レポート作成

第15週 レポート提出および口頭試問

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

・関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、レポート作成に取り組む。

教科書

なし

参考書

適宜紹介・配布する。

備考

救急・災害医療特論Ⅰ（HHMB1）

前期

Special Lecture on Emergency and Disaster Medicine I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	大川元久

授業の概要

現在、救急救命士も一医療人として位置づけられている。メディカル・コントロールにおいては、医師とともに事例発表や討論・質疑応答を行う。そこで、前期には問題解決方法の学習PBLを行い、研究の基本を理解する。特に公務員試験の数的処理や文章読解のような問題ができる基本学習能力を要請する。

後期には、卒業研究の基本的準備とし、研究に必要な調査・実験によるデータ収集及び処理を中心に展開する。国家試験に必要な基礎医学を基礎に重点的に学び各種試験に対応できる知識を身に着ける。

この科目は健康科学系の科目であり、この科目では健康科学に関連する上記の知識・技能を身につける。

到達目標

救急医療システムや救急活動の現場などの１つのテーマに取り組み、問題解決の方法や調査・研究の実施方法を習得する。

１．問題基盤型学習(PBL：Problem-based learning)の理解。
２．研究に関する資料を収集・調査し、研究計画を立てる。
３．問題点を把握し、それを解決する方法を見つけられる。
４．医学的知識を基盤とした研究の成果を発表する。

と目標設定し、自ら問題意識をもち設定した課題を専門的なルールに則って解決する能力の基礎を身につけ、研究発表の形式で、そのプレゼンテーション法を習得する。

評価方法

到達目標の１～４を、ゼミナールに取り組む姿勢（態度、知識を評価する、特に出席、遅刻、早退は厳しく点数に反映する）60%、およびレポート40%で評価する。

注意事項

救急医療の根幹はチーム医療である。したがって学生であってもゼミ生としてそのチームの一員として態度・行動をとることが最も重要である。

授業計画

第　１週　　オリエンテーション
第　２週～第　４週　　PBLチュートリアルの実施、研究テーマ決定
第　５週～第１２週　　実験・調査・データ整理、レポート作成
第１３週～第１５週　　発表・討論
第１６週～第１７週　　具体的なテーマを検討する（後期）
第１８週　　研究テーマ決定
第１９週～第２７週　　実験・調査・データ整理、レポート作成
第２８週～第３０週　　発表・討論

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業外学習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。特にヘリコプター関連の研修や外傷コース、各種研究会・学会に参加する（費用がかかる事あり）。

教科書

講義中に紹介する。

参考書

講義中に紹介する。

備考

救急・災害医療特論Ⅱ（HHMB2）

後期

Emergency / Disaster Medicine Special Lecture II

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	大川元久

授業の概要

救急・災害医療において、病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していく。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究(20項目)において研究の仮説の立て方から研究デザインを考案し、具体的な論文作成方法の基本を学ぶ。また研究の基礎となる統計分析法の理解と実践にその習得に重きを置く。特にインストラクショナルデザインを基とした医療教授法を身に着ける。特に、その研究テーマを選定した動機・研究対象の背景・現在の課題を明確にします。このレポートから学習者の到達目標と現状とのギャップを埋めるために必要な項目・技術についてスクーリングを実施していきます。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動を行うために、

1. 学術的プレゼンテーションの技術を学ぶ。
2. 科学的な学問としての教え方を身に着ける。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%；到達目標１)、レポート(20%到；到達目標１, ２)、口頭試問(20%；到達目標２)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きを置いて評価する。随時、SkypeやZOOM、Google ClassroomおよびLINEを用いて通信指導としてe-ラーニングとして実施します。
これらの後に科目修了試験（関連学会等での発表に代用可）をもって単位認定します。

授業計画

第1回 オリエンテーション 救急医学と災害医学 および 外傷学と脳外科学
第2回 医療教授法 インストラクショナルシステムデザイン(ISD)とは
第3回 BLS、ACLS(ICLS)、ISLS、JPTEC/JNTEC/JATEC etc.
第4回 臨床研究と発表：研究テーマについて (研究計画書提出)
第5回 各自でテーマのスライドを作成する
第6回 １．スライドの文字と文 および 箇条書きの問題点を各自作成したもので学ぶ
第7回 ２．スライドのデザイン 写真と図, グラフのデザイン, 表のデザインを各自作成したもので学ぶ
第8回 ３．アニメーション効果を各自スライドに取り入れる
第9回 ４．スライド修正 を実践する
第10回 ５．論理的に各自のスライド構成を振り返る
第11回 ６．研究発表合格のためのポイントから研究計画を検証する
第12回 ７．疑問点の設定、仮説を見直す
第13回 これまでの習得技術でプレゼンテーションを行う
第14回 ８．研究デザイン (中間報告書提出)
第15回 ９．症例報告（ケースレポート）と症例集積（ケースシリーズ）
第16回 10．コホート研究と横断研究について調べる
第17回 11．後ろ向きコホート研究について調べる
第18回 12．介入研究と観察研究について調べる
第19回 13．研究テーマに関連する先行研究を収集できるようになる
第20回 14．統計学の基本を説明できるようになる
第21回 15．発表の基本(レポート提出)を実践する
第22回 これまでの知識で各自のプレゼンテーションができるようになる。
第23回 16．原稿の棒読みになっていないかが検証できる
第24回 17．研究の重要性の主張 および対象と方法とデザインを明確にして振り返る
第25回 18．結果：アウトカム…何を観察・測定・計測したかについて説明できるようになる
第26回 19．考察：結果の解釈を説明できる
第27回 20．結論と抄録の書き方の基本に則り作成する

第28回 総括(最終報告書提出)
第29回 研究発表を行う
第30回 修了試験の実施

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間
救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。
全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

上手な教え方の教科書 〜 入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インストラクショナルデザインとテクノロジ: 教える技術の動向と課題 鈴木 克明 (監修, 翻訳) 北大路書房(2013/9/28)ISBN:978-4762828188
あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ!—シンプルに伝える魔法のテクニック 渡部欣忍著 南江堂 (2014/4/1)ISBN:978-4-524-26127-7
その他、授業中に紹介する。

備考

動物臨床生化学特論Ⅰ（HHMB3）

前期

Animal Clinical Biochemistry I

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

生命活動の基本は遺伝子発現とタンパクへの翻訳で行われている。この講義では小動物の様々な疾病の診断と治療を分子生物学的なアプローチで解析、研究を行うのに必要な知識を習得する。

この科目は動物生命科学系の科目であり、この科目では動物生命科学に上記の関連する知識・技能を身につける。

到達目標

1.分子生物学の基礎を理解する。
2.研究計画を立案できる。

評価方法

評価はプレゼンテーション８０％（到達目標2を評価）、質疑応答２０％（到達目標1を評価）の重みで判定する。

注意事項

原則として課題提出の期限は厳守とする。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：基礎遺伝学（1）：遺伝子の構成
3週目：基礎遺伝学（2）：セントラルドグマ
4週目：基礎遺伝学（3）：メンデル遺伝
5週目：基礎遺伝学（4）：遺伝子変異
6週目：遺伝子の実験（1）：PCR
7週目：遺伝子の実験（2）：リアルタイムPCR
8週目：遺伝子の実験（3）：リアルタイムPCRの応用
9週目：遺伝子の実験（4）：大腸菌を使った遺伝子の組み換え
10週目：遺伝子の実験（5）：ウイルスを使った遺伝子の組み換え
11週目：遺伝子の実験（6）：物理化学的な遺伝子の組み換え
12週目：遺伝子の実験（7）：DNAシークエンス
13週目：タンパク質の実検（1）：タンパク質の基礎知識
14 週目：タンパク質の実験（2）：ELISA
15週目：まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

英語論文をまとめ、プレゼンテーションを定期的に行う。

教科書

原則としてプリントを配布する。必要に応じて授業内で指示する。

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

動物臨床生化学特論Ⅱ（HHMB4）

後期

Special Lecture on Animal Clinical Biochemistry Ⅱ

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

生命活動の基本は遺伝子発現とタンパクへの翻訳で行われている。この講義では小動物の様々な疾病の診断と治療を分子生物学的なアプローチで解析、研究を行うのに必要な知識を習得する。

到達目標

1.分子生物学の基礎を理解する。
2.研究計画を立案できる。

評価方法

評価はプレゼンテーション８０％（到達目標2を評価）、質疑応答２０％（到達目標1を評価）の重みで判定する。

注意事項

原則として課題提出の期限は厳守とする。

授業計画

1週目：タンパク質の実験（3）ウエスタンブロット法
2週目：タンパク質の実験（4）その他の解析法
3週目：フローサイトメトリー（1）原理
4週目：フローサイトメトリー（2）細胞表面マーカーの評価
5週目：フローサイトメトリー（3）細胞内蛋白の評価
6週目：細胞培養（1）株化細胞
7週目：細胞培養（2）初代培養
8週目：細胞培養（3）培養条件
9週目：細胞培養（4）培養細胞の評価
10週目：総合研究（1）
11週目：プレゼンテーション（1）
12週目：論文作成
13週目：プレゼンテーション（2）
14週目：論文作成
15週目：今後の展望

授業外学習

英語論文をまとめ、プレゼンテーションを定期的に行う。120時間を目安に学習を行う

教科書

原則としてプリントを配布する。必要に応じて授業内で指示する。

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

環境と健康生活特論Ⅰ（HHMB5）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

人間と動物の健康生活は、自然環境(空気、水、土壌等)や生活環境(水道、生活汚水、ごみ、人間と動物の食生活等)と大きく関わっている。すなわち、健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し、人間と動物の両方に関する健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識を修得する。とくに重視する事項は健康事象の疫学的理解・人間と環境の相互作用の理解ならびに人間と動物が共生する衣食住の重要性の理解である。

この科目は動物生命科学系の科目であり、この科目では動物生命科学に上記の関連する知識・技能を身につける。

到達目標

1. 人と動物の健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し説明できるようになる。
2. 個人および地域の人々の健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識および技術を修得する。

評価方法

小項目ごとにその内容を提出させるとともに、大項目ごとに課題を与え理解度をチェックする。そして、提出物の配点40%（達成目標1, 2を評価）、理解度チェックのための試験を含めた諸課題60%（達成目標1, 2を評価）を基に最終評価を行う。

注意事項

・公衆衛生学は極めて包括的、学際的かつ集学的な学問体系であるため、関連した諸科学の学習が重要である。
・公衆衛生学には医学・医療の社会的適用という側面があるため、日頃から総合性、社会性、現実性、即時性を養うよう心がけること。

授業計画

1 週目:オリエンテーション
2 週目:公衆衛生学序論 疾病予防の考え方 3 週目:疫学とは
4 週目:健康/疾病の成り立ちの疫学的理解 5 週目:疾病量の把握
6 週目:疫学の方法(1)記述疫学
7 週目:疫学の方法(2)分析疫学
8 週目:人間の環境
9 週目:環境の把握とその評価
10 週目:空気の衛生と大気汚染(1) 汚染の実態
11 週目:空気の衛生と大気汚染(2) 汚染対策
12 週目:水の衛生と水質汚濁(1) 上水道
13 週目:水の衛生と水質汚濁(2) 下水道とその他
14 週目:衣食住の衛生
15 週目:廃棄物と環境汚染

授業外学習

学習時間の目安：60時間
予習： 教科書の該当ページを読んで概略を掴む。
復習：過去の文献を探し、読むことで学びの内容を深めるようにすること。

教科書

特になし

参考書

環境白書2019（環境省），国民衛生の動向2019/2020（厚生労働統計協会）
必要に応じ紹介する

備考

特になし

環境と健康生活特論Ⅱ（HHMB6）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

人間と動物の健康生活は、自然環境(空気、水、土壌等)や生活環境(水道、生活汚水、ごみ、人 間と動物の食生活等)と大きく関わっている。すなわち、健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し、人間と動物の両方に関する健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識を修得する。とくに重視する事項は健康事象の疫学的理解・人間と環境の相互作用の理解ならびに人間と動物が共生する衣食住の重要性の理解である。
【ＩＣＴを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

到達目標

1. 人と動物の健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し説明できるようになる。
2. 個人および地域の人々の健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識および技術を修得する。

評価方法

小項目ごとにその内容を提出させるとともに、大項目ごとに課題を与え理解度をチェックする。そして、提出物の配点40%（達成目標1, 2を評価）、理解度チェックのための試験を含めた諸課題60%（達成目標1, 2を評価）を基に最終評価を行う。

注意事項

・公衆衛生学は極めて包括的、学際的かつ集学的な学問体系であるため、関連した諸科学の学習が重要である。
・公衆衛生学には医学・医療の社会的適用という側面があるため、日頃から総合性、社会性、現実性、即時性を養うよう心がけること。

授業計画

1週目:公害と地球環境問題
2 週目:企業の安全衛生のしくみ(1) ISO
3週目:企業の安全衛生のしくみ(2) HACCP
4週目:人と動物を取り巻く環境問題(1) 畜産動物における諸問題
5週目:人と動物を取り巻く環境問題(2) 野生動物における諸問題
6週目:人と動物を取り巻く環境問題(3) 伴侶動物における諸問題
7週目:人における喫煙行動の影響(1) 能動喫煙による影響
8週目:人における喫煙行動の影響(2) 受動喫煙による影響
9週目:動物における受動喫煙の影響(1) 能動喫煙による影響
10週目:動物における受動喫煙の影響(2) 受動喫煙による影響
11週目:動物用フードに関する諸問題(1) 海外における諸問題
12週目:動物用フードに関する諸問題(2) 国内における諸問題
13週目:動物用トリーツに関する諸問題(1) 海外における諸問題
14週目:動物用トリーツに関する諸問題(2) 国内における諸問題
15週目:まとめ

授業外学習

学習時間の目安：120時間
予習： 教科書の該当ページを読んで概略を掴む。
復習：過去の文献を探し、読むことで学びの内容を深めるようにすること。

教科書

特になし

参考書

環境白書2019（環境省），国民衛生の動向2019/2020（厚生労働統計協会）
必要に応じ紹介する

備考

特になし

動物看護学特論Ⅰ（HHMB7）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

この講義では、動物看護を国際的に、かつ多面的・多角的に考えていく上で必要な知識を身に付ける。

この科目は動物生命科学系の科目であり、この科目では動物生命科学に上記の関連する知識・技能を身につける。

到達目標

１．動物看護の成り立ちや視点を理解し、様々な状況下における動物や人間に対するサポートについて説明できる。
２．人と動物の看護理論について説明できる。

評価方法

講義時の討論・質疑応答及びプレゼンテーションにより評価する。
評価は、プレゼンテーション70%（到達目標1、2を評価）、質疑応答30%（到達目標1、2を評価）の重みで判定する。

注意事項

原則として課題提出の期限は厳守とする。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：動物看護総論 １）英国の動物看護
3週目：動物看護総論 ２）米国の動物看護
4週目：動物看護総論 ３）豪州の動物看護
5週目：動物看護総論 ４）アジアの動物看護
6週目：動物看護総論 ５）動物看護の定義
7週目：野生動物保護と地球環境問題
8週目：動物保護活動における動物看護の役割
9週目：自然災害と動物看護 １）初動体制
10週目：自然災害と動物看護 ２）中長期対策
11週目：国際紛争と動物看護
12週目：看護理論 １）Florence Nightingale
13週目：看護理論 ２）Virginia Henderson
14週目：動物看護理論 １）人と動物の比較
15週目：動物看護理論 ２）Ability Model

授業外学習

・学習時間の目安：合計60時間
・英語論文をまとめ、プレゼンテーションを定期的に行う。

教科書

・愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 動物看護学概論｜一般社団法人日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編｜エデュワードプレス｜ISBN 978-4-86671-158-4
・小動物の実践保定法(応用編) |村尾信義|エデュワードプレス|978-4-89995-937-3

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

動物看護学特論Ⅱ（HHMB8）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

言語をもたない動物の看護においては、動物の行動観察が重要となる。また、その動物を取り巻く環境で最も動物の生活に影響を与える人間の考えや心理を理解する必要がある。
この講義では、動物のストレスを把握するための行動学的・生理学的指標を学び、動物のストレスを軽減できる診療時の動物保定技術を学習する。

到達目標

１．動物のストレス評価に用いる生理学・行動学について説明できる。
２．動物のストレスを軽減できる保定技術について説明できる。

評価方法

講義時の討論・質疑応答及びプレゼンテーションにより評価する。
評価は、プレゼンテーション70%（到達目標1、2を評価）、質疑応答30%（到達目標1、2を評価）の重みで判定する。

注意事項

・動物の行動学・生理学に関する概論を予め理解しておくこと。
・原則として課題提出の期限は厳守とする。

授業計画

1週目：アニマルウェルフェアの行動学的指標　１）行動の観察 ethogram
2週目：アニマルウェルフェアの行動学的指標　２）転位行動・常同行動
3週目： アニマルウェルフェアの生理学的指標　１）自律神経系の反応
4週目： アニマルウェルフェアの生理学的指標　２）神経内分泌系の反応
5週目：動物看護学の基礎的手法 １）計画立案
6週目：動物看護学の基礎的手法 ２）記録方法
7週目：動物看護学の基礎的手法 ３）解析方法
8週目：診療時の動物保定 １）概論
9週目：診療時の動物保定 ２）基本の保定法
10週目：診療時の動物保定 ３）処置・検査
11週目：診療時の動物保定 ４）注射
12週目：診療時の動物保定 ５）静脈穿刺
13週目：診療時の動物保定 ６）呼吸循環・運動機能障害をもつ動物
14週目：診療時の動物保定 ７）攻撃性のある動物・興奮状態にある動物
15週目：まとめと質疑

授業外学習

・学習時間の目安：合計60時間
・英語論文をまとめ、プレゼンテーションを定期的に行う。

教科書

・愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 動物看護学概論｜一般社団法人日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編｜エデュワードプレス｜ISBN 978-4-86671-158-4
・小動物の実践保定法(応用編) |村尾信義|エデュワードプレス|978-4-89995-937-3

参考書

適宜、授業中に紹介する。

備考

教育開発論特論Ⅰ（HHMB9）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

日本では、1980年代から現在に至るまで、「教育改革」が行われてきた。しかし、この「教育改革」の方向性や事実認識は正確なものだろうか？
本講義では、「教育開発」を目指す人のために、「教育現象」を疑って見る視点を育む。

この科目は関連科目であり、この科目では教育・文化に関する上記の知識・技能を身につける。

【フィードバック】
講義後に出される課題や最終レポートに対してフィードバックを行う。
【研究倫理教育】
研究不正防止の観点から研究倫理（研究活動における不正行為（捏造、改ざん、盗用）、研究データの管理など）に関する内容を含む。

到達目標

1.基礎的な統計データの解釈を行うことができる。
2.「なぜ教育問題は間違って語られるのか？」について、その構造を指摘しながら、説明できる。

評価方法

授業への参加度、講義後に課される課題、最終レポートにより評価する。
評価は
・授業への参加度 20%（到達目標1，2を評価）、
・講義後に課される課題 30%（到達目標1，2を評価）、
・最終レポート50%（到達目標1，2を評価）
の重みで判定する。

注意事項

データの読み方や、文献の選び方・読み方については丁寧に指導する。わからないことは遠慮なく質問すること。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス －間違いだらけの教育論－
第2回	能力に応じた教育① -遺伝と環境－
第3回	能力に応じた教育② －現代の教育改革論から－
第4回	少年非行を考える① －本当に少年犯罪が多発・凶悪化しているのか？－
第5回	少年非行を考える② -非行生起の理論的説明－
第6回	少年非行を考える③ -なぜ誤って語られるのか？-
第7回	「ゆとり教育」批判① -学力低下論争-
第8回	「ゆとり教育」批判② -教育課程行政の仕組み－
第9回	「ゆとり教育」批判③ -なぜ誤って語られるのか？-

回数	内容
第10回	ジェンダーと教育① －女の子はピンクが好きか？－
第11回	ジェンダーと教育② －ヒドゥン・カリキュラム－
第12回	現代の教育改革
第13回	なぜ教育問題はまちがって語られるのか？① －構造の問題－
第14回	なぜ教育問題はまちがって語られるのか？② －教育問題に対してどう向き合うか？－
第15回	まとめと総括質疑

授業外学習

学習の目安：合計60時間

予習：指定された文献の該当ページを読んで、概略をつかむ。

復習：講義内容をまとめ、各単元で課題レポートを作成する。

教科書

①広田照幸『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』日本図書センター、2010年。ISBN 978-4-284-30442-9

②広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、2009年。ISBN 978-4-000-28324-3

参考書

その都度、適宜紹介する。

備考

修士論文の執筆に向けて、教育学という分野を通して「本を読む」のではなく「本を使う」にはどうしたらいいのかという視点から、授業を展開していきたいと考えています。

教育開発論特論Ⅱ（HHMC1）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

日本では、1980年代から現在に至るまで、「教育改革」が行われてきた。しかし、この「教育改革」の方向性や事実認識は正確なものだろうか？
本講義では、「教育開発」を目指す人のために、「教育現象」を疑って見る視点を育む。

【フィードバック】
講義後に出される課題や最終レポートに対してフィードバックを行う。
【研究倫理教育】
研究不正防止の観点から研究倫理（研究活動における不正行為（捏造、改ざん、盗用）、研究データの管理など）に関する内容を含む。

到達目標

1.「教育現象」を分析する視点について、説明できる。
2.教育は万能ではないことを理解し、これからの改革の方向性について考える。

評価方法

授業への参加度、講義後に課される課題、最終レポートにより評価する。評価は授業への参加度 20%（到達目標1，2を評価）、講義後に課される課題 30%（到達目標1，2を評価）、最終レポート50%（到達目標1，2を評価）の重みで判定する。

注意事項

データの読み方や、文献の選び方・読み方については丁寧に指導する。わからないことは遠慮なく質問すること。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス -教育開発のための視点-
第2回	教育の不確実性① －教育学とはどういう領域なのか？－
第3回	教育の不確実性② －コミュニケーション理論－
第4回	「教育」の誕生と展開① -歴史的な観点から-
第5回	「教育」の誕生と展開② -児童・生徒管理の思想-
第6回	学校の機能とジレンマ
第7回	教育目的再構築論の危うさ
第8回	公教育に関する仕組み
第9回	制度と慣行のゆくえ① -教育勅語-
第10回	制度と慣行のゆくえ② －『御真影に殉じた教師たち』－
第11回	日本人のしつけは衰退したか① －データの扱い方—
第12回	日本人のしつけは衰退したか② －文献購読－
第13回	学力格差是正の国際比較

回数	内容
第14回	学校とボランティア
第15回	まとめと総括質疑

授業外学習

学習の目安：合計60時間

予習：指定された文献の該当ページを読んで、概略をつかむ。

復習：講義内容をまとめ、各単元で課題レポートを作成する。

教科書

①広田照幸『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』日本図書センター、2010年。ISBN 978-4-284-30442-9

②広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』岩波書店、2009年。ISBN 978-4-000-28324-3

参考書

その都度、適宜紹介する。

備考

修士論文の執筆に向けて、教育学という分野を通して「本を読む」のではなく「本を使う」にはどうしたらいいのかという視点から、授業を展開していきたいと考えています。

人間形成論特論Ⅰ（HHMC2）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

東洋古典学の基礎をおさえたうえで、教育・学習・修養・倫理といった視点で文献を読みながら、社会的次元における人間形成のあり方を中心に、その人間観を探求する。おもに儒家文献をとりあげる。

この科目は関連科目であり、この科目では教育・文化に関する上記の知識・技能を身につける。

到達目標

1.東洋古典の読解法を理解し、説明できる。
2.東洋古典における人間観を理解し、説明できる。
3.東洋古典における人間形成のあり方を独自の視点で理解し、説明できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。
中間まとめの課題提出（40%）：到達目標1を評価
期末まとめの課題提出（60%）：到達目標2・3を評価

注意事項

東洋古典を理解する前提として、中国史・日本史の基礎知識、漢文訓読法の基礎を有していることが望ましい。

授業計画

01週目：オリエンテーション
02週目：東洋古典学の基礎1 漢文訓読法
03週目：東洋古典学の基礎2 伝世文献
04週目：東洋古典学の基礎3 出土文献
05週目：東洋古典学の基礎4 儒学文献
06週目：東洋古典学の基礎5 諸子文献
07週目：東洋古典学の基礎6 歴史文献
08週目：中間まとめ
09週目：『論語』の人間観
10週目：『礼記』の人間観
11週目：『孟子』の人間観
12週目：『荀子』の人間観
13週目：儒家文献の人間形成論1 教育と学習
14週目：儒家文献の人間形成論2 修養と倫理
15週目：期末まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
予習：指示された古典を読み質問を用意する
復習：取りあげた古典の内容をまとめる

教科書

指定教科書なし。適宜資料を配布する。

参考書

『新釈漢文大系』および『新編漢文選』シリーズ（明治書院）
板野長八『中国古代における人間観の展開』（岩波書店）
下見隆雄『儒教社会と母性』（研文出版）

備考

人間形成論特論Ⅱ（HHMC3）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

東洋古典学の基礎をおさえたうえで、教育・学習・修養・倫理といった視点で文献を読みながら、社会的次元における人間形成のあり方を中心に、その人間観を探求する。おもに儒家以外の文献をとりあげる。

到達目標

1.東洋古典における人間観を理解し、説明できる。
2.東洋古典における人間形成のあり方を独自の視点で理解し、説明できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。
中間まとめの課題提出（50%）：到達目標1を評価
期末まとめの課題提出（50%）：到達目標2を評価

注意事項

東洋古典を理解する前提として、中国史・日本史の基礎知識、漢文訓読法の基礎を有していることが望ましい。

授業計画

01週目：オリエンテーション
02週目：『老子』の人間観
03週目：『荘子』の人間観
04週目：『墨子』の人間観
05週目：『韓非子』の人間観
06週目：『国語』の人間観
07週目：『戦国策』の人間観
08週目：中間まとめ
09週目：道家文献の人間形成論1 教育と学習
10週目：道家文献の人間形成論2 修養と倫理
11週目：法家文献の人間形成論1 教育と学習
12週目：法家文献の人間形成論2 修養と倫理
13週目：歴史文献の人間形成論1 教育と学習
14週目：歴史文献の人間形成論2 修養と倫理
15週目：期末まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
予習：指示された古典を読み質問を用意する
復習：取りあげた古典の内容をまとめる

教科書

指定教科書なし。適宜資料を配布する。

参考書

『新釈漢文大系』および『新編漢文選』シリーズ（明治書院）
板野長八『中国古代における人間観の展開』（岩波書店）
下見隆雄『儒教社会と母性』（研文出版）

備考

学習心理学特論Ⅰ（HHMC4）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

現在われわれがもっているヒトの脳と “こころ ”は進化の結果であり、他の種のそれと連続性をもつ。これについて、心理学、人類学等の幅広い視点から考え、どのような進化を遂げてきて、今があるのかを考える。

この科目は関連科目であり、この科目では教育・文化に関する上記の知識・技能を身につける。

到達目標

１．進化のメカニズムについて理解する。
２．ヒトの脳の構造および機能と、他の動物種との類似性と特異性を理解する。

評価方法

講義時の討論・質疑応答（到達目標1・2）及びレポート（到達目標1・2）により評価する。評価は、レポート８０％、質疑応答２０％の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

心理学、行動学に関する概論を予め理解しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	淘汰（1）自然淘汰
第3回	淘汰（2）性淘汰
第4回	類人猿の進化と適応
第5回	環境コントロールのメカニズム
第6回	脳の進化と発達（1）進化と脳の構成
第7回	脳の進化と発達（2）進化とモジュール性
第8回	ヒトの心（1）機能的社会システム
第9回	ヒトの心（2）機能的生体システム
第10回	ヒトの心（3）発達とモジュール性
第11回	問題解決（1）限定合理性
第12回	問題解決（2）ヒューリスティクス
第13回	問題解決（3）問題解決
第14回	問題解決（4）推理
第15回	まとめと総括質疑＆レポート提出

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。
予習：教科書の該当ページを読んで概略をつかむ。
復習：紹介する参考図書・文献にあたり、講義内容をまとめる。
　　各単元で課題レポートを作成する。

教科書

心の起源　－脳・認知・一般知能の進化|ギアリー, D. C. （著）　小田亮（訳）|培風館|978-4-563-05714-5

参考書

藤田和生　2007　動物たちのゆたかな心　京都大学学術出版会

他、適宜紹介する。

備考

学習心理学特論Ⅱ（HHMC5）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

現在われわれがもっているヒトの脳と “こころ ”は進化の結果であり、他の種のそれと連続性をもつ。これについて、心理学、人類学等の幅広い視点から考え、どのような進化を遂げてきて、今があるのかを考える。

到達目標

１．進化のメカニズムについて理解する。
２．ヒトの脳の構造および機能と、他の動物種との類似性と特異性を理解する。

評価方法

講義時の討論・質疑応答（到達目標1・2）及びレポート（到達目標1・2）により評価する。評価は、レポート８０%、質疑応答２０%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

心理学、行動学に関する概論を予め理解しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	メンタルモデル（1）認知と脳のシステム
第2回	メンタルモデル（2）認知と脳のシステム
第3回	メンタルモデル（3）ヒトの脳の進化
第4回	メンタルモデル（4）社会的認知 – 自我・他者
第5回	メンタルモデル（5）社会的認知—theoryofmind
第6回	メンタルモデル（6）社会的認知—theoryofmind
第7回	一般知能の進化（1）心的能力の構成
第8回	一般知能の進化（2）ワーキングメモリー
第9回	一般知能の進化（3）遺伝的要因
第10回	一般知能の進化（4）環境的要因
第11回	現代社会における一般知能（1）進化と社会的競争
第12回	現代社会における一般知能（2）教育、仕事と知能
第13回	現代社会における一般知能（3）アカデミックな学習
第14回	今後の展望
第15回	まとめと総括質疑＆レポート提出

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。
予習：教科書の該当ページを読んで概略をつかむ。
復習：紹介する参考図書・文献にあたり、講義内容をまとめる。
　　各単元で課題レポートを作成する。

教科書

心の起源　– 脳・認知・一般知能の進化|ギアリー, D. C. （著）　小田亮（訳）|培風館|978-4-563-05714-5

参考書

藤田和生 2007 動物たちのゆたかな心 京都大学学術出版会

他、適宜紹介する。

備考

人間文化ゼミナールＩ（HHMC6）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	村山公保 河野正英 徳田美智

授業の概要

これから危機管理学系で学びを深め、研究を行うものが、スムーズに研究活動を行えるように、研究に関する基礎的な能力を身につける。具体的には、研究テーマの設定方法、研究の取り組み方や進め方、文献の読み方、研究成果の取りまとめ方、論文執筆や発表の方法について指導を受ける。関連分野に関する知識や技能で不足している部分があれば、それを補うための指導を行う。複数の教員から指導を受けることで、幅広い視点から客観的に研究活動について考えられるようにする。【オムニバス方式】。

村山公保：情報技術および産業サイバーセキュリティに関する話題をベースにして指導を行う。
河野正英：世界の経済状況について書籍を読み、それを元に議論を行う。
徳田美智：企業経営におけるリスク対策と組織価値向上のための考え方や手法をベースにして指導を行う。

到達目標

１．自分が取り組みたいと思っている研究テーマや方向性について、口頭や文書で説明ができる。
２．研究を遂行する上で必要な基礎的な能力（研究テーマの設定方法、研究の取り組み方や進め方、文献の読み方、研究成果の取りまとめ方、論文執筆や発表の方法）を磨く。

評価方法

授業に取り組む姿勢５０％（到達目標１,２）、課題やレポート５０％（到達目標１、２）で評価する。

注意事項

危機管理学系に所属する学生のみが受講できる。

授業計画

少人数でのゼミナールとなることから、より実りのある教育を目指すため、研究に対する学生の習熟度を担当教員がヒヤリングした上で授業の内容の詳細について決定する。

第１週から第５週：村山公保 担当
第６週から第１０週：河野正英 担当
第１１週から第１５週：徳田美智 担当

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間
・毎回の授業についてよく予習と復習をする。

教科書

プリント等を適宜配布する。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

備考

特になし

人間文化ゼミナールⅠ（HHMC7）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	枝松千尋 猪木原孝二 矢田貝智恵子 吉田悦男 椎葉大輔 大川元久

授業の概要

健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。具体的には、文献輪読などを通して、健康科学に関する最近の成果を学び、研究の現状や研究方法を理解する。

【アクティブラーニング】ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】レポートやプレゼンテーションに対してフィードバックを含めた指導を行う。

【オムニバス方式】。

猪木原孝二：運動が生体に与える影響や日常生活に必要な運動処方を解説する。

枝松千尋：身体動作・運動制御等のバイオメカニクスについて解説する。

椎葉大輔：運動による免疫応答制御機構について解説する。

大川元久：救急・災害医療、特に病院前救急医療・医学研究について解説する。

矢田貝智恵子：健康維持増進やスポーツ時などにおける食品の役割や健康管理の方法について解説する。

到達目標

1.健康科学に関する研究の現状や研究方法などを理解することができる。

2.健康科学に関する研究の現状や研究方法などについて文章で表現することができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢４０％（到達目標１に相当）や課題レポートの提出６０％（到達目標２に相当）で評価する。

注意事項

健康科学系に所属する学生のみが受講できる。

授業計画

第１週～第３週：猪木原孝二　担当

第４週～第６週：矢田貝智恵子　担当

第７週～第９週：枝松千尋　担当

第１０週～第１２週：椎葉大輔　担当

第１３週～第１５週：大川元久　担当

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

・毎回の授業についてよく予習と復習をする。

教科書

プリント等を適宜配布する。

参考書

プリント等を適宜配布する。

備考

人間文化ゼミナールⅠ（HHMC8）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	武光浩史 村尾信義 湯川尚一郎

授業の概要

動物医療に関わる知識および技術に関する最近の成果を教授し、動物の取り扱い、検査、医療器具の原理や操作法を理解する。【オムニバス方式】

村尾 信義：カルテ管理や入院動物の管理など動物病院のマネジメントを解説する。

湯川 尚一郎：各種検査と画像診断に必要な知識と技術を解説する。

武光 浩史：インフォームドコンセントや診療に使用する器具などの解説をする。

到達目標

1.動物医療に関する業務全般を理解する。

2.動物医療に関する業務全般を実践することができる。

評価方法

授業での質疑応答50%（到達目標1.2）と課題レポート50%（到達目標1.2）で評価する。

注意事項

動物生命科学系に所属する学生のみが受講できる。

授業計画

1週：カルテ管理と個人情報の取り扱い　村尾

2週：健常犬の管理 村尾

3週：健常猫の管理 村尾

4週：内科疾患動物の管理 村尾

5週：外科疾患動物の管理 村尾

6週：血液検査（CBC、血液生化学、その他） 湯川

7週：超音波検査（胸部） 湯川

8週：超音波検査（腹部とその他） 湯川

9週：レントゲン（原理、方法、解釈） 湯川

10週：CTスキャン（原理、方法、解釈） 湯川

11週：インフォームドコンセント 武光

12週：聴診器、体温計、耳鏡など 武光

13週：一般外科器具 武光

14週：特殊外科器具1（超音波メス、電気メスなど）武光

15週：滅菌と滅菌操作 武光

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

毎回の授業についてよく予習と復習をする。

教科書

プリント等を適宜配布する。

参考書

特になし

備考

人間文化ゼミナールⅡ（HHMC9）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	村山公保 河野正英 徳田美智

授業の概要

危機管理学系で学びを深め、研究をおこなっているものが、研究活動を順調に遂行できるように、研究力を強化するための指導を行う。具体的には、調査や比較や分析力、客観的なものの見方、定性的な視点と定量的な視点、グローバルな視点での考え方など、研究を遂行する上で必要となる技能を身につけさせる。関連分野に関する知識や技能で不足している部分があれば、それを補うための指導を行う。複数の教員から指導を受けることで、先入観や固定観念にとらわれずに、研究の幅を広げて実りのある研究活動が行えるようにする。【オムニバス方式】。

村山公保：情報技術および産業サイバーセキュリティに関する話題をベースにして指導を行う。
河野正英：世界の経済状況について書籍を読み、それを元に議論を行う。
徳田美智：企業経営におけるリスク対策と組織価値向上のための考え方や手法をベースにして指導を行う。

到達目標

１．自分が取り組もうとしている、または、取り組んでいる研究テーマについて、口頭や文書で説明ができる。
２．研究を遂行する上で必要な技能（調査や比較や分析力、客観的なものの見方、定性的な視点と定量的な視点、グローバルな視点での考え方など）を磨く。

評価方法

授業に取り組む姿勢５０％（到達目標１,２）、課題やレポート５０％（到達目標１、２）で評価する。

注意事項

危機管理学系に所属する学生のみが受講できる。

授業計画

少人数でのゼミナールとなることから、より実りのある教育を目指すため、研究に対する学生の習熟度を担当教員がヒヤリングした上で授業の内容の詳細について決定する。

第１週から第５週：村山公保 担当
第６週から第１０週：河野正英 担当
第１１週から第１５週：徳田美智 担当

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間
・毎回の授業についてよく予習と復習をする。

教科書

プリント等を適宜配布する。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

備考

特になし

人間文化ゼミナールⅡ（HHMD1）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	枝松千尋 猪木原孝二 矢田貝智恵子 吉田悦男 椎葉大輔 大川元久

授業の概要

健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。具体的には、人間文化ゼミナールⅠで理解した健康科学分野の研究の現状や研究方法について、文献輪読や実験など演習を通して理解を深める。

【アクティブラーニング】ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】レポートやプレゼンテーションに対してフィードバックを含めた指導を行う。

【オムニバス方式】。

猪木原孝二：運動が生体に与える影響や日常生活に必要な運動処方に関する演習を行う。

枝松千尋：身体動作・運動制御等のバイオメカニクスに関する演習を行う。

椎葉大輔：運動による免疫応答制御機構に関する演習を行う。

大川元久：救急・災害医療、特に病院前救急医療・医学研究に関する演習を行う。

矢田貝智恵子：健康増進・スポーツ時などにおける健康管理の方法に関する演習を行う。

到達目標

1.健康科学に関するデータを科学的に分析することができる。

2.健康科学に関するデータを科学的に文章や図表を使って表現することができる。

評価方法

機器操作と分析結果の判定および評価４０％（到達目標１に相当）や課題レポート・プレゼンテーションの提出６０％（到達目標２に相当）で評価する。

注意事項

健康科学系に所属する学生のみが受講できる。

授業計画

第１週～第３週：猪木原孝二　担当

第４週～第６週：枝松千尋　担当

第７週～第９週：椎葉大輔　担当

第１０週～第１２週：大川元久　担当

第１３週～第１５週：矢田貝智恵子　担当

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

・毎回の授業についてよく予習と復習をする。

教科書

プリント等を適宜配布する。

参考書

プリント等を適宜配布する。

備考

人間文化ゼミナールⅡ（HHMD2）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	２．０単位
担当教員	武光浩史 村尾信義 湯川尚一郎

授業の概要

動物医療に関連する報告や研究を、論文ベースで教授し、最新の知見を理解する。【オムニバス方式】

村尾 信義：動物のストレスに関する研究とそれに対応する実践を解説する。

湯川 尚一郎：サルモネラ属菌などの病原性細菌に関する研究と対応を解説する。

武光 浩史：小動物の再生医療に関する研究と実践を解説する。

到達目標

1.先進動物医療に関する研究の現状や研究方法などを理解することができる。

2.先進動物医療に関する研究の現状を臨床に応用する計画を作成できる。

評価方法

授業での質疑応答30%（到達目標1）と課題レポート30%（到達目標1.2）プレゼンテーション40%（到達目標2）で評価する。

注意事項

動物生命科学系に所属する学生のみが受講できる。

授業計画

1週：論文の検索方法　村尾

2週：課題（論文）のまとめ、プレゼンテーション作成 村尾

3週：課題のプレゼンテーション、修正 村尾

4週：修正課題のプレゼンテーション 村尾

5週：課題内容の臨床応用のプレゼンテーション 村尾

6週：論文の検索方法 湯川

7週：課題（論文）のまとめ、プレゼンテーション作成 湯川

8週：課題のプレゼンテーション、修正 湯川

9週：修正課題のプレゼンテーション 湯川

10週：課題内容の臨床応用のプレゼンテーション 湯川

11週：論文の検索方法 武光

12週：課題（論文）のまとめ、プレゼンテーション作成 武光

13週：課題のプレゼンテーション、修正 武光

14週：修正課題のプレゼンテーション 武光

15週：課題内容の臨床応用のプレゼンテーション 武光

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

課題のまとめ、プレゼンテーションの作成、修正、臨床応用のプレゼンテーション作成は授業外学習として行う

教科書

プリント等を適宜配布する

参考書

特になし

備考

特別研究Ⅰ（HHMD3）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	河野正英

授業の概要

資本主義や市場経済の特徴を理解し、現代社会に対する将来展望を持てるようにしたい。

到達目標

1. 世界経済の現状、日本経済の現状について知る。
2. 時事問題に対して知識を持ち、自分の言葉で説明出来る。
3. 各自設定したテーマに基づき修士論文の基礎調査を始める。

評価方法

資料検索の範囲（20%）＋資料分析の深度（30%）＋論文の基礎調査（50%）により評価する。（到達目標を確認）

注意事項

特になし。

授業計画

第1回~第3回： 論文作成の基礎知識
第4回~第10回：資料検索の方法
第11回~第15回：資料分析の方法

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

受講者が決まればその都度指導する。
読むべき資料は授業内で指示する。
予習と復習が必要。
普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

特になし。

特別研究Ⅰ（HHMD4）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	大川元久

授業の概要

本講座は医学教育や研究に携わる者としての基本的な考え方や方法論をもとに研究を実践されるものである。その特徴は救急・災害医療を病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していくものである。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究において研究を含む『教える技術』について理解と実践にその習得に重きを置く。すなわち『教えることを学ぶ』ことである。ついで、医療教育システムのインストラクショナルデザインについて学び応用出来るようにする。講義はeラーニングなどを活用し、各個人が持つ能力を最大限に引き出し社会に貢献できる人材を養成する。講義の前提は多くの人の尊い命のことを考えた生命倫理に基づくことであることをしっかり認識しておいて下さい。

到達目標

1.救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動ができる。
2.学術的プレゼンテーションができる。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%；到達目標 １)、レポート(20%到；到達目標 １, ２)、口頭試問(20%；到達目標２)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きをおいて評価する。

授業計画

第 1回 救急医学と災害医学および 外傷学について
第 2回 総論1 医療教授法 とは
第 3回 総論2 BLS、ALS、ISLS、JJATEC etc.
第 4回 総論3臨床研究と発表 (レポート提出)
第 5回 口頭試問（総論学習内容の確認)
第 6回 １．スライドの文字と文 と 箇条書きの問題点
第 7回 ２．スライドのデザイン, 写真と図表
第 8回 ３．アニメーション効果
第 9回 ４．演習：スライド修正
第10回 ５．論理的に考える
第11回 ６．研究計画：合格のためのポイント
第12回 ７．研究目的：疑問点の設定、仮説
第13回 8．研究デザイン（レポート提出2000字以上)
第14回 ９．症例報告（ケースレポート）と症例集積
第15回 これまでの学習内容の小括（口頭試問)
第16回 10．コホート研究と横断研究
第17回 11．後ろ向きコホート研究
第18回 12．介入研究と観察研究
第19回 13．エビデンス
第20回 14．統計学
第21回 15．発表の基本(レポート提出)
第22回 発表形式を学ぶ（口頭試問を含む)
第23回 16．原稿の棒読み対策
第24回 17．研究背景と目的および対象と方法を明確に
第25回 18．結果：アウトカム：何を観察・測定・計測したか
第26回 19．考察：結果の解釈
第27回 20．結論と抄録の書き方
第28回 総括(レポート提出)
第29回 今後の展望（研究発表）
第30回 各自の研究の展望を考察する(修了試験を含む)

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JNTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。
全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インスタラクショナルデザインとテクノロジ：教える技術の動向と課題・鈴木克明 監修翻訳・北大路書房・978-4-7628-2818-8
インストラクショナルデザイン—教師のためのルールブック 島宗 理 著/米田出版 (2004/11)
その他を授業中に紹介する。

備考

特別研究Ⅰ（HHMD5）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	猪木原孝二

授業の概要

研究のテーマは、運動刺激の強弱及び運動種目の違いが生体にどのような変化を与えているのかを究明し、各自が考えている生体に対する運動刺激について考察させ、健康体と運動の関係、生体反応の変化等を実験および調査によって究明していく。

到達目標

運動刺激の強弱が身体にどのような影響を与えたか、さらにその強度・頻度・時間の配分等を算出する。

評価方法

特別研究に取り組む態度・姿勢(30%)、中間発表および提出論文(70%)により総合的に評価する。

注意事項

特になし

授業計画

・オリエンテーション
・先行研究の調査とテーマの設定
・研究の実施に関わる諸手続き
・筋力測定の実施および解析
・骨密度測定の実施および解析

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

各自研究テーマに沿って論文を完成させるのに必要なデータの収集を行わせる。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

備考

特別研究Ⅰ（HHMD6）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

バイオメカニクスに関する研究を行い修士論文としてまとめる。
健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1.「研究課題に対して科学的にアプローチする力を身につける」
2.「学会発表・論文投稿ができる力を身につける」

評価方法

特別研究に取り組む態度・姿勢(30% ：到達目標１)、実験データの分析・解釈および学会発表・論文投稿(70% ：到達目標２)により総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

実験に関する諸手続き、発表や審査、論文提出などの日程を十分に把握しておくこと。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目～8週目：先行研究の調査とテーマの設定
9週目～10週目：研究の実施に関わる諸手続き
11週目～15週目：実験の実施および解析

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

文献収集を徹底して行う。
実験を計画的に行うとともに、データ解析を営々と取り組む。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

特別研究Ⅰ（HHMD7）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

特別研究Ⅰ～Ⅳにより、生活習慣病と高齢者疾患をキーワードとした研究を行い修士論文としてまとめる。特別研究Ⅰでは各種論文の読み込みを通じて、科学論文の構成、読み方などに精通することを目的とし、そのうえで自分自身の研究課題を決定する。

到達目標

特別研究Ⅰ~Ⅳにより科学的論理的思考法を覚え、科学論文として専門ジャーナルに投稿できる能力を身につける。その中で特別研究Ⅰにより科学論文を論理的、批判的に読み、内容に関して討議することができる。

評価方法

研究過程における毎月の進捗状況報告レポート（100%）により評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

特別研究Ⅰでは修士論文のための研究課題の決定を行う。研究を進めていくうえで最も結果に影響する重要なステップであるので、十分に時間をかけて論文の丁寧な読み込みを心がける必要がある。研究課題の決定までに下記の項目について検討する。

１．生活習慣病と高齢者疾患という広い領域の中から、自分に興味ある題材を見つけ出す。
２．興味ある題材に類似する研究論文を広く読み分析する。
３．関連分野にも目を通し、論点の明確化を行う。
４．ある程度の研究テーマを想定し、新規の研究であること、具体的に達成可能であることを確認する。
５．研究テーマの決定

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

授業以外に文献検索などの自己学習を積極的にすすめること。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

備考

特別研究Ⅰ（HHMD8）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	矢田貝智恵子

授業の概要

これまで修得してきた食や健康に関する知識やスキルを踏まえ、さらに健康分野の高度な専門知識・技能を身につける。
具体的には、研究課題を自ら見出し、設定したテーマを妥当な研究計画に結びつけ、研究を遂行し、中間報告書としてまとめる。
健康科学分野のうち、食と健康に関する高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1 研究分野の基礎的文献を検索・先行研究を学習して研究の動向を把握し、 研究課題を自ら見出す。
2 研究成果を中間報告書としてまとめ、口頭で説明できる。

評価方法

研究活動80%（到達目標1）、中間報告書20%（到達目標2）により評価する。

注意事項

・定期的に進捗状況を報告すること。
・「人を対象とする研究倫理」等についての研修会を受講すること。

授業計画

１．食と健康に関する文献・先行研究の検索
２．研究課題の明確化、研究の実行可能性を評価
３．研究テーマの設定・研究計画書の作成
４．研究倫理審査申請書の作成（研究テーマによる）
５．研究実施
６．研究結果の分析・考察
７．中間報告書の作成
８．中間報告会の準備

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うこと。

教科書

なし

参考書

適宜紹介する。

備考

９月下旬 中間報告会

特別研究Ⅰ（HHMD9）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

企業や非営利団体、公共団体など様々な組織は、絶えず変化する環境の中で経営活動を行っている。さらに、グローバル化やICTなど技術の発展に伴い、企業が行う意思決定は、より高度化・複雑化している。現在社会において組織が抱える課題や業界の動向、リスク対策など、経営学から捉えた研究テーマを設定し、文献調査、アンケート調査等を行う。得られた資料を分析・解析し、考察を加えて最終的に論文としてまとめる。

到達目標

１．企業活動に対する関心を高め、様々な文献にあたり、自身のテーマを決定することができる。
２．文献使用やアンケート結果の分析・解析を行うことができる。
３．論文作成上必要な論理的思考とその展開方法を身につける。
４．研究の進捗状況をプレゼンテーションすることが出来る

評価方法

特別研究へ取り組む態度・意欲：20%（到達目標１を評価）、資料検索の範囲：20%（到達目標２を評価）、資料分析：30%（到達目標２を評価）、中間発表：30%（到達目標3、4を評価）により評価する。

注意事項

・指導事項をよく聞いて理解すること。
・論文執筆に必要な研究手法について、基本的なことをしっかりと理解しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	論文テーマの検討・分析
第3回	先行研究レビューⅠ
第4回	先行研究レビューⅡ
第5回	先行研究レビューⅢ
第6回	先行研究レビューⅣ
第7回	論文のテーマと資料との妥当性Ⅰ
第8回	論文のテーマと資料との妥当性Ⅱ
第9回	調査計画の立案Ⅰ
第10回	調査計画の立案Ⅱ
第11回	調査計画の実施Ⅰ
第12回	調査計画の実施Ⅱ
第13回	調査結果の分析・考察Ⅰ
第14回	調査結果の分析・考察Ⅱ
第15回	中間報告

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

・各自のテーマにあわせて、関連する先行研究となる文献や書籍に多くあたること。

・研究の進捗について、発表できるように準備しておくこと。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特になし

特別研究Ⅰ（HHME1）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	村山公保

授業の概要

情報技術の活用やそのセキュリティに関する研究を遂行するために必要となる基礎的な素養を身につける。特に、プログラミングによる開発を行う可能性がある場合には、プログラミングに関する演習も行う。

到達目標

1. 文献等を読み、自力で自分の技術力を向上させ、それ以前に、できなかったことができるようになる。
2. 自分で理解できない場合には、できないことについて口頭や文書で質問ができるようになる。

評価方法

・特別研究に取り組む態度・意欲40%(到達目標1、2を評価)、課題やレポート60%(到達目標1、2を評価)の重みで判定する。

注意事項

・仮想環境(VirtualBox等)が動作するノートパソコンを持参すること。

授業計画

履修者の興味や関心に合わせて、指導を行う。代表的なテーマは次のとおり。

・IoTを活用したシステム作成
・模擬的な産業制御システムの構築
・ネットワークシステム構築
・TCP/IPプロトコルスタックのチューニング
・情報セキュリティ技術の検証

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

常に研究の進行状況の報告を求めるので、いつでも発表できるように準備しておくこと。

教科書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄、「マスタリングTCP/IP入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

参考書

必要に応じて、適宜紹介する

備考

特になし

特別研究Ⅰ（HHME2）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

小動物臨床においてこれまで治療法の確立していない、あるいは検査法の確立していない分野に対して分子生物的手法を用いて新たな知見を得るために、各自が実験計画の立案、参考文献検索、データ解析を行い、論文を作成する。

到達目標

1.各自の研究課題の内容で修士論文の作成を行う
2.テーマに応じたプレゼンテーションを行う

評価方法

論文提出60%（到達目標1を評価）とプレゼンテーション40%（到達目標2を評価）

注意事項

論文作成に必要な英語力も並行して身につけること

授業計画

1.オリエンテーション
2.ディスカッション
3.研究テーマの決定
4.先行研究の検索
5.先行研究の精読
6.研究計画立案
7.分子生物学実験法1（PCR）
8.分子生物学実験法2（クローニング）
9.分子生物学実験法3（リアルタイムPCR）
10.分子生物学実験法4（シーケンス）
11.分子生物学実験法5（細胞培養）
12.分子生物学実験法6（タンパク）
13.データ解析1（統計）
14.データ解析2（データの解釈）
15.中間発表

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

テーマにおける最新の知見を常にアップデートしておくこと

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

備考

特別研究Ⅰ（HHME3）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

小動物臨床において重要な病原性細菌に対して新たな知見を得るために、各自が実験計画の立案、参考文献検索、データ解析を行い、論文を作成する。

到達目標

1.各自の研究課題の内容で修士論文の作成を行う
2.テーマに応じたプレゼンテーションを行う

評価方法

論文提出60%（到達目標1を評価）とプレゼンテーション40%（到達目標2を評価）

注意事項

論文作成に必要な英語力も並行して身につけること

授業計画

1.オリエンテーション
2.ディスカッション
3.研究テーマの決定
4.先行研究の検索
5.先行研究の精読
6.研究計画立案
7.微生物学実験法1（微生物の基本的な取り扱い）
8.微生物学実験法2（細菌培養）
9.微生物学実験法3（細菌同定）
10.微生物学実験法4（シーケンス）
11.微生物学実験法5（薬剤感受性試験）
12.微生物学実験法6（薬剤耐性遺伝子検出）
13.データ解析1（統計）
14.データ解析2（データの解釈）
15.中間発表

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

テーマにおける最新の知見を常にアップデートしておくこと

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

備考

特になし

特別研究Ⅰ（HHME4）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

運動を含めた生活活動／生活環境が免疫機能に与える影響について，テーマの選定および研究を行い，修士論文を作成することを目的とする。【アクティブラーニング】先行研究および実施した研究の結果についてプレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について，他の先行報告の紹介を交え，ディスカッションする。【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して，先行研究論文（PDF）の提示，修士論文の添削を行う。【研究倫理教育】「先行研究調査」および「測定データ分析」を実施することから、授業内容には「不正行為を含めた研究活動の解説」を含む。

到達目標

1 設定した研究課題に対し，適切な方法を選択して実施・評価できる。
2 得られた結果に矛盾のない論旨展開して公表できる。

評価方法

中間報告３０％（到達目標１，２）および修士論文の発表内容７０％（到達目標１，２）により総合的に評価する。
上記の評価方法により，総合計６０点以上を合格とする。

注意事項

実験に関する諸手続き，発表や審査，論文提出などの日程を十分に把握しておくこと。
なお，本特別研究は分子生物学的手法を用いた研究活動となる。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：学術文献検索の方法と実践
3週目：先行類似研究の情報収集
4週目：先行類似研究の分析
5週目：研究テーマの検討
6週目：研究テーマの決定
7週目：研究方法・手技の検討
8週目：研究手技の習得1
9週目：研究手技の習得2
10週目：研究計画と研究倫理
11週目：実験研究1
12週目：実験研究2
13週目：実験研究3
14週目：実験研究4
15週目：研究進捗発表

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

研究課題に関して，先行研究論文を中心に情報収集を行う。また，定期的に学会などで研究発表を行う。

教科書

指定なし

参考書

・運動と免疫 —からだをまもる運動のふしぎ-，大野秀樹，木崎節子 編，ナップ，2009

備考

特記事項なし

特別研究Ⅰ（HHME5）

前期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

小動物獣医療において確立されていない動物看護・保定の分野に対して、参考文献の検索を行い、行動学的・生理学的手法を用いた実験計画を立案する。

到達目標

研究課題を自分で見つけ出し、それに科学的にアプローチできる能力を身につける。

評価方法

評価は、研究構想の発表（70%）、口頭試問（30%）の重みで判定する。

注意事項

・研究構想の発表を行う。
・論文作成に必要な英語力も並行して身につけること。

授業計画

1週目：オリエンテーション
2週目：先行研究の精読
3週目：先行研究の精読
4週目：先行研究の精読
5週目：先行研究の精読
6週目：構想発表
7週目：実験・調査計画の立案
8週目：実験・調査計画の立案

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

・既読の文献の内容を整理する。

教科書

使用しない。

参考書

適宜案内する。

備考

特別研究Ⅱ（HHME6）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	河野正英

授業の概要

資本主義や市場経済の特徴を理解し、現代社会に対する将来展望を持てるようにしたい。

到達目標

1. 設定した問題に対して知識を持ち、自分の言葉で説明出来る。
2. 各自設定したテーマに基づき修士論文を完成させる。

評価方法

資料検索の範囲（20%）＋資料分析の深度（30%）＋全体的な論文の仕上がり（50%）により評価する。（到達目標を確認）

注意事項

特になし。

授業計画

第1回~第3回：文章作成と論旨の徹底化
第4回~第10回：論文としての完成度を高める方法
第11回~第15回：修士論文の完成と発表

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

特別研究１に続いて学ぶ。
読むべき資料は授業内で指示する。
予習と復習が必要。
設定したテーマに付随する論点を徹底調査する。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

特になし。

特別研究Ⅱ（HHME7）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	大川元久

授業の概要

本講座は医学教育や研究に携わる者としての基本的な考え方や方法論をもとに研究を実践されるものである。その特徴は救急・災害医療を病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していくものである。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究において研究を含む『教える技術』について理解と実践にその習得に重きを置く。すなわち『教えることを学ぶ』ことである。ついで、医療教育システムのインストラクショナルデザインについて学び応用出来るようにする。講義はeラーニングなどを活用し、各個人が持つ能力を最大限に引き出し社会に貢献できる人材を養成する。講義の前提は多くの人の尊い命のことを考えた生命倫理に基づくことであることをしっかり認識しておいて下さい。

到達目標

1.救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動ができる。
2.学術的プレゼンテーションができる。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%；到達目標 １)、レポート(20%到；到達目標 １, ２)、口頭試問(20%；到達目標２)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きをおいて評価する。

授業計画

第 1回 救急医学と災害医学および 外傷学について
第 2回 総論1 医療教授法 とは
第 3回 総論2 BLS、ALS、ISLS、JJATEC etc.
第 4回 総論3臨床研究と発表 (レポート提出)
第 5回 口頭試問（総論学習内容の確認)
第 6回 １．スライドの文字と文 と 箇条書きの問題点
第 7回 ２．スライドのデザイン, 写真と図表
第 8回 ３．アニメーション効果
第 9回 ４．演習：スライド修正
第10回 ５．論理的に考える
第11回 ６．研究計画：合格のためのポイント
第12回 ７．研究目的：疑問点の設定、仮説
第13回 8．研究デザイン（レポート提出2000字以上)
第14回 ９．症例報告（ケースレポート）と症例集積
第15回 これまでの学習内容の小括（口頭試問)
第16回 10．コホート研究と横断研究
第17回 11．後ろ向きコホート研究
第18回 12．介入研究と観察研究
第19回 13．エビデンス
第20回 14．統計学
第21回 15．発表の基本(レポート提出)
第22回 発表形式を学ぶ（口頭試問を含む)
第23回 16．原稿の棒読み対策
第24回 17．研究背景と目的および対象と方法を明確に
第25回 18．結果：アウトカム：何を観察・測定・計測したか
第26回 19．考察：結果の解釈
第27回 20．結論と抄録の書き方
第28回 総括(レポート提出)
第29回 今後の展望（研究発表）
第30回 各自の研究の展望を考察する(修了試験を含む)

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JNTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。
全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インスタラクショナルデザインとテクノロジ：教える技術の動向と課題・鈴木克明 監修翻訳・北大路書房・978-4-7628-2818-8
インストラクショナルデザイン—教師のためのルールブック 島宗 理 著/米田出版 (2004/11)
その他を授業中に紹介する。

備考

特別研究Ⅱ（HHME8）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	猪木原孝二

授業の概要

研究のテーマは、運動刺激の強弱及び運動種目の違いが生体にどのような変化を与えているのかを究明し、各自が考えている生体に対する運動刺激について考察させ、健康体と運動の関係、生体反応の変化等を実験および調査によって究明していく。

到達目標

運動刺激の強弱が身体にどのような影響を与えたか、さらにその強度・頻度・時間の配分等を算出する。

評価方法

特別研究に取り組む態度・姿勢(30%)、中間発表および提出論文(70%)により総合的に評価する。

注意事項

特になし

授業計画

先行研究の調査とテーマの設定

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

各自研究テーマに沿って論文を完成させるのに必要なデータの収集を行わせる。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

備考

特別研究Ⅱ（HHME9）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	枝松千尋

授業の概要

バイオメカニクスに関する研究を行い修士論文としてまとめる。
健康科学分野における高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1.「研究課題に対して科学的にアプローチする力を身につける」
2.「学会発表・論文投稿ができる力を身につける」

評価方法

特別研究に取り組む態度・姿勢(30% ：到達目標１)、修士論文発表会および修士論文(70% ：到達目標２)により総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

実験に関する諸手続き、発表や審査、論文提出などの日程を十分に把握しておくこと。

授業計画

1週目：オリエンテーション
15週目～20週目：実験の実施および解析
21週目～25週目：論文作成
26週目：発表準備
27週目：修士論文発表
28週目～29週目：論文の加筆・修正
30週目：論文提出

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

文献収集を徹底して行う。
実験を計画的に行うとともに、データ解析を営々と取り組む。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

特別研究Ⅱ（HHMF1）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	吉田悦男

授業の概要

特別研究Ⅰ～Ⅳにより、生活習慣病と高齢者疾患をキーワードとした研究を行い修士論文としてまとめ発表する。特別研究ⅡではⅠで決定した研究課題に対する具体的な研究方法を関連論文なども参考にしながら検討し研究計画を決定することを目的とする。また予備実験などを通して実験手技に精通する。

到達目標

特別研究Ⅰ~Ⅳにより科学的論理的思考法を覚え、科学論文として専門ジャーナルに投稿できる能力を身につける。その中でⅡにより特に研究計画を決定し、実験機器の使用法および実験手技を身につける。

評価方法

研究過程における毎月の進捗状況報告レポート（５０％）および最終修士論文の発表内容（５０％）により評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

研究課題の関連する文献を多数読むことで、具体的な研究方法を検討する。さらには予備実験を開始する。

１．研究方法・手順の検討
２．研究方法・必要設備の検討
３．テーマと研究方法の再検討
４．研究計画決定
５．予備実験開始

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

授業以外に文献検索などの自己学習および必要であれば追加実験を積極的にすすめること。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

備考

特別研究Ⅱ（HHMF2）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	矢田貝智恵子

授業の概要

特別研究Ｉで検討してきた研究計画に基づき、研究内容を検討、必要に応じて研究計画の修正を図り、研究を遂行する。
具体的には、設定したテーマについて、研究を進め、それら研究成果を中間報告書としてまとめる。
健康科学分野のうち、食と健康に関する高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

1 研究課題に対して、科学的にアプローチする力を身につける。
2 研究成果を中間報告書としてまとめ、公表できる。

評価方法

研究活動60%（到達目標1）、中間報告書40%（到達目標２）により評価する。

注意事項

・定期的に進捗状況を報告すること。

授業計画

１．研究課題に必要な文献・先行研究の検索
２．研究内容の検討、研究計画の修正・研究計画書の作成
４．研究倫理審査申請書の作成（必要に応じて）
５．研究実施
６．研究結果の分析・考察
７．中間報告書の作成
８．中間報告会の準備

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行う。

教科書

なし

参考書

適宜紹介する。

備考

２月中旬 中間報告会

特別研究Ⅱ（HHMF3）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	徳田美智

授業の概要

企業や非営利団体、公共団体など様々な組織は、絶えず変化する環境の中で経営活動を行っている。さらに、グローバル化やICTなど技術の発展に伴い、企業が行う意思決定は、より高度化・複雑化している。現在社会において組織が抱える課題や業界の動向、リスク対策など、経営学から捉えた研究テーマを設定し、文献調査、アンケート調査等を行う。得られた資料を分析・解析し、考察を加えて最終的に論文としてまとめる。

到達目標

１．企業活動に対する関心を高め、様々な文献にあたり、自身のテーマを決定することができる。
２．文献使用やアンケート結果の分析・解析を行うことができる。
３．論文作成上必要な論理的思考とその展開方法を身につける。
４．最終的に論文を作成し、内容をプレゼンテーションすることが出来る

評価方法

特別研究へ取り組む態度・意欲：10%（到達目標１を評価）、資料検索の範囲：20%（到達目標２を評価）、資料分析：20%（到達目標２を評価）、中間発表：10%（到達目標3を評価）、全体的な論文の仕上がり：40%（到達目標3、4を評価）により評価する。

注意事項

・指導事項をよく聞いて理解すること。
・論文執筆に必要な研究手法について、基本的なことをしっかりと理解しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	論文テーマの検討・分析
第3回	先行研究レビューⅠ
第4回	先行研究レビューⅡ
第5回	先行研究レビューⅢ
第6回	先行研究レビューⅣ
第7回	論文のテーマと資料との妥当性Ⅰ
第8回	論文のテーマと資料との妥当性Ⅱ
第9回	調査計画の立案Ⅰ
第10回	調査計画の立案Ⅱ
第11回	調査計画の実施Ⅰ
第12回	調査計画の実施Ⅱ
第13回	調査結果の分析・考察Ⅰ
第14回	調査結果の分析・考察Ⅱ
第15回	中間報告
第16回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅰ
第17回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅱ
第18回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅲ
第19回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅳ

回数	内容
第20回	論文内容に関する諸問題の検討Ⅴ
第21回	論文（初稿）の提出
第22回	論文（初稿）の質疑応答
第23回	論文（初稿）の修正および質疑応答Ⅰ
第24回	論文（初稿）の修正および質疑応答Ⅱ
第25回	論文（初稿）の修正および質疑応答Ⅲ
第26回	論文・要旨作成（二稿）
第27回	修士論文発表会準備
第28回	修士論文発表会
第29回	修士論文加筆・修正
第30回	修士論文提出

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

・各自のテーマにあわせて、関連する先行研究となる文献や書籍に多くあたること。
・研究の進捗について、発表できるように準備しておくこと。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特になし

特別研究Ⅱ（HHMF4）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	村山公保

授業の概要

情報技術の活用やそのセキュリティに関する研究を遂行するために必要となる応用的な能力を身につける。特に、プログラミングによる開発を行う可能性がある場合には、プログラミングに関する演習も行う。

到達目標

1. 文献等を読み、自力で自分の技術力を向上させ、それ以前に、できなかったことができるようになる。
2. 自分で理解できない場合には、できないことについて口頭や文書で質問ができるようになる。

評価方法

・特別研究に取り組む態度・意欲40%(到達目標1、2を評価)、論文内容・プレゼンテーション60%(到達目標3を評価)の重みで判定する。

注意事項

・仮想環境(VirtualBox等)が動作するノートパソコンを持参すること。

授業計画

履修者の興味や関心に合わせて、指導を行う。代表的なテーマは次のとおり。

・IoTを活用したシステム作成
・模擬的な産業制御システムの構築
・ネットワークシステム構築
・TCP/IPプロトコルスタックのチューニング
・情報セキュリティ技術の検証

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

常に研究の進行状況の報告を求めるので、いつでも発表できるように準備しておくこと。

教科書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄、「マスタリングTCP/IP入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

参考書

必要に応じて、適宜紹介する

備考

特になし

特別研究Ⅱ（HHMF5）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	武光浩史

授業の概要

小動物臨床においてこれまで治療法の確立していない、あるいは検査法の確立していない分野に対して分子生物的手法を用いて新たな知見を得るために、各自が実験計画の立案、参考文献検索、データ解析を行い、論文を作成する。

到達目標

1.各自の研究課題の内容で修士論文の作成を行う
2.テーマに応じたプレゼンテーションを行う

評価方法

論文提出60%（到達目標1を評価）とプレゼンテーション40%（到達目標2を評価）

注意事項

論文作成に必要な英語力も並行して身につけること

授業計画

1.研究の追加、修正
2.研究調査1 報告
3.研究調査2 修正
4.研究調査3 報告
5.研究調査4 修正
6.研究調査結果の分析と考察1
7.研究調査結果の分析と考察2
8.研究調査結果の分析と考察3
9.論文作成1 報告
10.論文作成2 修正
11.論文作成3 報告
12.論文加筆修正
13.プレゼンテーション1 報告
14.プレゼンテーション2 修正
15.論文提出、発表

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

テーマにおける最新の知見を常にアップデートしておくこと

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

備考

特別研究Ⅱ（HHMF6）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

小動物臨床において重要な病原性細菌に対して新たな知見を得るために、各自が実験計画の立案、参考文献検索、データ解析を行い、論文を作成する。

到達目標

1.各自の研究課題の内容で修士論文の作成を行う
2.テーマに応じたプレゼンテーションを行う

評価方法

論文提出60%（到達目標1を評価）とプレゼンテーション40%（到達目標2を評価）

注意事項

論文作成に必要な英語力も並行して身につけること

授業計画

1.研究の追加、修正
2.研究調査1 報告
3.研究調査2 修正
4.研究調査3 報告
5.研究調査4 修正
6.研究調査結果の分析と考察1
7.研究調査結果の分析と考察2
8.研究調査結果の分析と考察3
9.論文作成1 報告
10.論文作成2 修正
11.論文作成3 報告
12.論文加筆修正
13.プレゼンテーション1 報告
14.プレゼンテーション2 修正
15.論文提出、発表

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

テーマにおける最新の知見を常にアップデートしておくこと

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

備考

特になし

特別研究Ⅱ（HHMF7）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	椎葉大輔

授業の概要

運動を含めた生活活動／生活環境が免疫機能に与える影響について，テーマの選定および研究を行い，修士論文を作成することを目的とする。【アクティブラーニング】先行研究および実施した研究の結果についてプレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について，他の先行報告の紹介を交え，ディスカッションする。【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを利用して，先行研究論文（PDF）の提示，修士論文の添削を行う。【研究倫理教育】「先行研究調査」および「測定データ分析」を実施することから、授業内容には「不正行為を含めた研究活動の解説」を含む。

到達目標

1 設定した研究課題に対し，適切な方法を選択して実施・評価できる。
2 得られた結果に矛盾のない論旨展開して公表できる。

評価方法

中間報告３０％（到達目標１，２）および修士論文の発表内容７０％（到達目標１，２）により総合的に評価する。
上記の評価方法により，総合計６０点以上を合格とする。

注意事項

実験に関する諸手続き，発表や審査，論文提出などの日程を十分に把握しておくこと。
なお，本特別研究は分子生物学的手法を用いた研究活動となる。

授業計画

1週目：実験研究5
2週目：実験研究6
3週目：研究データ分析
4週目：中間報告会
5週目：研究データ分析と追加実験の検討
6週目：論文作成開始
7週目：論文作成（結果セクション）
8週目：論文作成（方法セクション）
9週目：論文作成（考察セクション）
10週目：論文作成（序論セクション）
11週目：論文初稿提出
12週目：論文修正
13週目：最終稿提出
14週目：研究発表準備
15週目：研究発表

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

研究課題に関して，先行研究論文を中心に情報収集を行う。また，定期的に学会などで研究発表を行う。

教科書

指定なし

参考書

・運動と免疫 —からだをまもる運動のふしぎ-，大野秀樹，木崎節子 編，ナップ，2009

備考

特記事項なし

特別研究Ⅱ（HHMF8）

後期

大学院 人間文化専攻（修士課程）

年次	１年
対象	24 ～ 24 HM
単位数	１．０単位
担当教員	村尾信義

授業の概要

小動物獣医療において確立されていない動物看護・保定の分野に対して、参考文献の検索を行い、行動学的・生理学的手法を用いた実験計画を実施する。また、データ解析の方法を学ぶ。

到達目標

実験の計画や調査を立案し、実験を実施できる能力を身につける。

評価方法

評価は、実験の中間発表（70%）、口頭試問（30%）の重みで判定する。

注意事項

・実験の中間発表を行う。
・論文作成に必要な英語力も並行して身につけること。

授業計画

1週目：実験・調査計画の立案
2週目：実験・調査計画の立案
3週目：実験・調査計画の実施
4週目：実験・調査計画の実施
5週目：実験・調査計画の実施
6週目：実験・調査計画の実施
7週目：統計解析 パラメトリック検定
8週目：統計解析 ノンパラメトリック検定

授業外学習

学習時間の目安：授業内、授業外、合わせて合計45時間

・既読の文献の内容を整理する。
・実験、調査を行い、それらを適切なかたちでまとめる。

教科書

使用しない。

参考書

適宜案内する。

備考